研　究　報　告　書

研究テーマ

「学校教育目標の実現に向けた教育課程の改善と指導の充実」

～自立活動を主とした教育課程における教科指導の実践を通して～

平成２９年３月

長崎県立長崎特別支援学校

目　次

○刊行に当たって　長崎県立長崎特別支援学校　校長　堀之内　穂瑞美

○特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメント　福岡教育大学准教授　一木　薫　・・・1

○Ｓスケール、学習到達度チェックリストと子どもの学びについ　福岡大学教授　徳永　豊　・・・2

Ⅰ　はじめに　・・・3

Ⅱ　長崎特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの取組　・・・4

1　実施したカリキュラムの把握

2　達成したカリキュラムの把握

3　次に実施するカリキュラム

Ⅲ　合意形成を図る場としての全校研究の取組　・・・9

1　研究の概要

2　研究の実際

（1）１年次　教育内容に関する共通理解①

（2）２年次　教育内容に関する共通理解②　教科指導の試行

（3）３年次　国語、算数（数学）の年間指導計画作成　児童生徒がより学びやすい時間割の検討

Ⅳ　成果と課題　・・・31

Ⅴ　訪問教育の研究　・・・34

○　補足資料

○　おわりに　長崎県立長崎特別支援学校　教頭　松田　竜司

○　研究同人

刊行にあたって

本校が平成２１年度の学習指導要領改訂を機に取りかかり上梓した２冊の研究報告書が手元にあります。黄色の１冊は平成２１～２３年度の研究報告書、緑の１冊は平成２４～２５年度の研究報告書です。これらの研究を受け継いだ平成２６～２８年度３年間の研究を本報告書にまとめることができました。本校は養護学校義務制が施行された昭和５４年に国立病院機構長崎病院に隣接して開校し、長きに渡って重度･重複障害の児童生徒の指導で実績を積み上げてきました。在籍する子どもたちは、医療の進歩や社会の変化等に伴い、病棟からの通学が減り、そのほとんどが家庭からの通学又は家庭への訪問教育となりましたが、現在も約９割が自立活動を主とした教育課程で学んでおり、その教育課程について究め続けることは本校の使命と言えます。

通算８か年にわたる研究の根幹は「自立活動を主とした教育課程における教科の指導」です。子どもたちの生活環境や社会情勢の変化、ニーズ等を勘案しながら、子どもたちに何をどう指導していけばよいか、教科を取り入れて授業改善を図りながら教育課程を見直してきました。職員全員で取り組んだ研究授業や研究協議等の中から生まれ共有してきたものが、それぞれのページの一言一句となっていることに感慨を覚えます。

成果物として「教材一覧」、「共通単元・題材一覧」など授業づくりにすぐに生かせるものができましたが、何より職員一人一人が真摯に授業づくりに取り組む意欲や実践力が高まったこと、つまりは職員の特別支援学校教員としての資質が向上したことが一番の成果です。「学習Ｃ会」や「教科等部会」など 日々の授業と教育課程とのつながり、日々の反省を教育課程の改善につなげるための枠組みが生まれ、上意下達ではなく、職員一人一人がそれぞれの立場で自身の役割を果たしてくれました。他の分掌部とも連携して、個別の指導計画、個別の教育支援計画の見直しや自立活動の指導の見直しなども連動して進めることができました。

研究のまとめにもありますように、全校研究の意義は、職員個々の専門性向上と学校としての教育力向上に資することにあると、この研究を通して改めて感じました。公立学校ということで人事異動が毎年あり、指導体制は単年で更新され、初任者も含め新・転入の職員も、すぐに明日の授業を担当しなくてはなりません。「学校は子どもを伸ばしてくれる」という保護者の期待も背負っています。初任者や新・転入の職員も含め、職員一人一人が同じ土俵で授業をつくっていける枠組み、主体的に教育課程改善に関わる枠組みが少しばかり築けたのではないかと思っています。しかしながら、まだまだ改善すべき点や積み上げていくべきことがあります。昨年末（H28.12.21）、中教審答申で次期学習指導要領改訂の方向性と各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性が示されました。この方向性も確認しながら本校は進化していきたいと思います。

最後に本校の研究に甚大なお力添えをいただきました福岡教育大学准教授一木薫先生、福岡大学教授徳永豊先生をはじめ、多くの皆様の御指導、御助言に感謝しますと共に、今後も引き続き御指導いただきますことをお願いし、挨拶といたします。

平成２９年３月

長崎県立長崎特別支援学校長　　堀之内　穂瑞美

特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメント

福岡教育大学　　一木　薫

子どもの学習評価に基づく教育課程の評価・改善

次期学習指導要領改訂では、授業の Plan-Do-Check-Action（以下、PDCA と表記）と教育課程の PDCA を連動させる「カリキュラム・マネジメント」の確立が一層重視されます。教育課程は、各学校が、教育目標を達成するために、教育の内容を授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画です。カリキュラム・マネジメントは、授業で扱った教育内容に関する子どもの学習状況を評価し、把握した学習評価に基づき、教育課程、すなわち、選択した教育内容や配当時数について評価、改善する取組と考えることができます。

特別支援学校では、個々の子どもの授業における学習評価（または単元末や年度末の学習評価）を、それぞれの子どもの次時の目標設定（または次単元や次年度の目標設定）に生かす営みが、授業の単元計画や個別の指導計画において丁寧に重ねられています。特に、肢体不自由養護学校及び特別支援学校（肢体不自由）における教育では、養護・訓練や自立活動を中心に学ぶ子どもの在籍率が高かったこともあり、子どもの個別性に対応する視点が強調されてきました。この視点は今後も継承すべき視点ですが、同時に、在籍する子どもたちの学習評価を、自校の教育課程の評価・改善に生かす手続きを学校として確立することが求められます。

特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントに不可欠な視点

特別支援学校では、重複障害者等に関する教育課程の取扱いを適用することにより、在籍する個々の子どもの多様な実態に応じた教育課程を柔軟に編成することができます。このことは、「在学期間に、いずれの教育内容を、どれだけの時間をかけて学ぶことができるのか」、在籍する子どもの学びは、各学校の教師の判断により大きく左右されることを意味します。よって、各学校は、現行の教育課程のもとで子どもたちが習得した力（達成したカリキュラム）を把握し、教育課程編成における自校の判断（実施したカリキュラム）が適切であったかを、絶えず評価し、改善に努めなければなりません。

教育課程の評価に際しては、次の２つの視点が必要と考えます。一つは、個別の教育支援計画や個別の指導計画に記される子どもたちの達成状況に基づき、改善を図る視点です。もう一つは、卒業後の社会生活を営む立場から、在学期間の学びを評価する視点です。個別性に即した指導の実現には、今の姿から次の目標を判断するボトムアップの視点と将来の姿から優先して取組む必要のある課題を導き出すトップダウンの視点の双方が必要です。在学時の指導を担った教師が、個々の子どもに描いた将来像や指導仮説が妥当であったのかを、卒業生の生活の実態に基づき検証する視点です。教育課程編成における裁量が大きい特別支援学校には重要不可欠な視点と考えます。

今年度、長崎特別支援学校には高等部が新設されました。特別支援学校ならではの視点をふまえたカリキュラム・マネジメントの営みを学校教育活動に根付かせ、その成果を全国の特別支援学校へ発信していただけることを期待しています。

Ｓスケール、学習到達度チェックリストと子どもの学びについて

福岡大学教授　　徳　永　　豊

肢体不自由の特別支援学校には、自立活動を主とした教育課程があり、その課程で学ぶ児童生徒の割合が高い状況です。その児童生徒に対して、国語や算数の教科の視点で授業を検討する試みは、斬新なものです。従来の授業の考え方では、想像ができない取り組みです。その意味で長崎特別支援学校の取組は、これからの特別支援学校の授業を考える際に、とても貴重な実践になります。

１．難しさは、どう生じるか、そして「学びの連続性」

障害が重度で重複している場合、「教科の指導はどうですか」と問われると、「それは難しい」とすることが一般的でした。難しいと考える理由は何でしょうか。容易に思いつく理由は「障害が重度なので」というものです。これは、理由になるのでしょうか。特別支援教育においては、子どもの「障害」を理由にすることは許されないことと考えます。

さらに、「難しい」と判断する場合には、「子どもの力」と「授業で準備する内容や方法」との相互の関係で検討することが求められます。確かに、小学校の教科内容であれば、難しいという判断が成り立ちます。それでは、知的の教科ではどうでしょうか、そしてＳスケールの教科の視点ではどうでしょうか。教員側が使うツールを工夫することで、この難しさを解消することが可能になります。

なお、学習指導要領改訂のキーワードの一つが「学びの連続性」です。「小学校での学び」と「障害が重度な子どもの学び」を「つながりがあるもの」とすることが指摘されています。この「つながり」を検討していく唯一の方法は、教科の視点を活用することです。

長特の取組によって、「難しさ」を乗り越え、かつ「学びの連続性」を確かなものとするための資料が蓄積されています。その資料は、学習指導要領改訂の動向において貴重なものと考えられます。

２．「上への広がり」「横への広がり」、そしてチャレンジ

子どもの実態把握をして、目標を設定する際に、より上のレベルを目指すことを「上への広がり」、そして同じレベルで行動の確からしさを高めることを目指すことを「横への広がり」としています。子どもの学びを考える際には、基本的な発想になります。しかしながら、スコアが低い重度で重複している場合に、なかなか「上への広がり」を想定することが難しい場合があります。この場合には「横への広がり」を意識して、目標設定をしていきます。

「横への広がり」を、どのように考えたらいいのでしょうか。「確からしさを高めること」と「活用すること（般化）」との２つの方向を意識することが、解決策のひとつになります。

例えば、足し算と引き算はクリアしたけど、掛け算へのチャレンジは難しい場合があります。その際に、「確からしさを高めること」と「活用すること」との２つの方向でチャレンジすることを検討します。

「確からしさを高めること」とは、同じレベルの問題を繰り返しクリアしたり、足し算と引き算が混在する問題をクリアしたり、自発的に問題をクリアしたりすることが考えられます。また、「活用すること」とは、実際の場面でその力を発揮すること、文章問題でその力を発揮すること、教員が代わっても力を発揮すること、を意味します。

「おもちゃを見つめる」ことが可能な場合に、同じレベルで、「調子が良くない午前中でも見つめる」「声かけをしなくても見つめる」や「絵、写真、画面、人を見つめる」「担任以外の提示でも見つめる」等が考えられます。このように、「確からしさを高めること」と「活用すること」との２つの方向を活用して、目標設定を検討することが役に立つのではないかと考えています。

どんなに障害が重い子どもで、みんなが取り組む「国語」や「算数」の視点で、子どもの「学び」を検討し、チャレンジする方向を考えていきましょう。

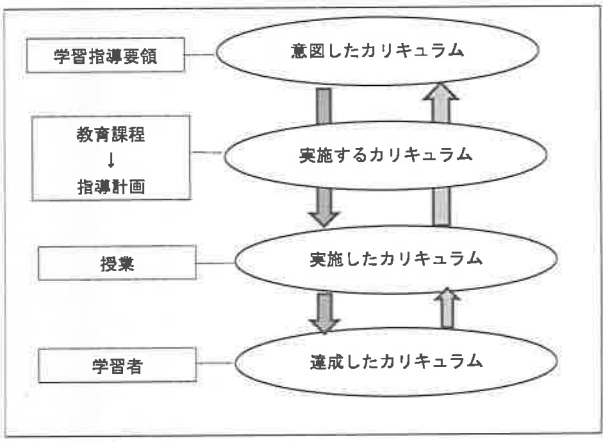
Ⅰ　はじめに

学習指導要領には、教育課程の意義として「学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である」と示されている。したがって、自校の学校教育目標を達成させるためには、教育内容と時数の関連を検討し、学校として説明のできる教育課程を編成していくことが重要である。安藤(2009)も教育課程編成における裁量の大きい特別支援学校は「学校を基盤としたカリキュラム開発」研究を道しるべに、養護学校義務制実施以降の教育実践の成果と課題を統括すべき時期にあると指摘している。今後、個に応じた指導を重視しながら学校としてどのような子どもに育てたいのか、そのために身につけさせるべき力は何か、どのような指導内容がどれくらい必要かなど、学校教育目標の実現に向けて今一度自校の教育課程と向き合うことが求められていると言える。

特別支援学校学習指導要領解説総則等編の第７節「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」（２）３には、「重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、各教科、道徳、外国語活動若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科、外国語活動もしくは総合的な学習の時間に替えて、自立活動を主として指導を行うことができるものとする。」と述べられてある。このことを受けて、多くの肢体不自由特別支援学校では、重度・重複障害のある児童生徒に対して、各教科等を自立活動の指導に替えて教育課程を編成していることが多い。しかし、各教科等を自立活動に置き換えた意義や根拠を問われたとき、各学校は「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」を適用した明確な意図について十分な説明ができるだろうか。本校の自立活動を主とした教育課程においても、果たしてその明確な意図が説明できるかと問われると決してそうではない。今後は、「重度・重複障害のある児童生徒だから」という理由だけで最初から各教科等を自立活動の指導に替えてしまうのではなく、教科指導の可能性を探求した上で「重複障害等に関する教育課程の取扱い」の適用の意図を説明することが重要であると考える。

以上を踏まえ、本校では平成２６年度から２８年度までの３年間で、授業と全校研究を関連させながら取り組み、その結果を教育課程編成に反映させるカリキュラム・マネジメントに取り組んできた。全校研究では、自立活動の指導を教科〈国語、算数（数学)〉の視点で捉え直して授業を行い、その学習評価を基に、自立活動として指導していた教育内容を明らかにし、どのような指導形態として位置付けるか、配当時数はどれくらいにするかなどの検討を重ねてきた。

本報告書は以下の内容でまとめている。Ⅱ「長崎特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの取組」には、平成２６年度に「実施したカリキュラム」と「達成したカリキュラム」を分析し、そのデータを基に様々な議論を重ね、「次に実施するカリキュラム」を検討して示した。Ⅲ「合意形成を図る場としての全校研究の取組」には、「次に実施するカリキュラム」を検討するに当たり、教師全員の合意形成を図るために、各教師の実践や研究授業等を通して得られた意見をいつ、どのような場面で出し合い、どのような協議をしたかの経過を示した。最後にⅣ「成果と課題」には、ⅡとⅢで取り組んだ成果と今後の課題を示した。



カリキュラム構造　　一木（2016）

Ⅱ　長崎特別支援学校におけるカリキュラムマネジメントの取組

１　実施したカリキュラムの把握

本校では、平成２２年度から音楽、図画工作（美術）、体育（保健体育）を教科別の指導として教育課程に位置づけて指導してきた。その他に教科等を合わせた指導、自立活動の指導等を指導している。ここでは、平成２６年度に実施したカリキュラムを把握したものついて記している。

＜平成２６年度の指導形態と年間授業時数＞

【自立活動を主とした教育課程　小学部】　１単位時間：４５分

		１年	２年	３年	４年	５年	６年
教科別の指導	音楽	３４	３５	３５	３５	３５	３５
	図画工作	３４	３５	３５	３５	３５	３５
	体育	３４	３５	３５	３５	３５	３５
教科等を合わせた指導	日常	３４０	３５０	３５０	３５０	３５０	３５０
	生活	６８	７０	７０	７０	７０	７０
領域別の指導	道徳	時間を特設せず、教育活動全体を通じて、指導を行う					
	特別活動	３４	３５	３５	３５	３５	３５
	自立活動	３４０	３８５	４２０	４５５	４５５	４５５
年間総授業時数		８８４	９４５	９８０	１０１５	１０１５	１０１５

【自立活動を主とした教育課程　中学部】　１単位時間：４５分

		１年	２年	３年
教科別の指導	音楽	５２．５	５２．５	５２．５
	美術	３５	３５	３５
	保健体育	３５	３５	３５
教科等を合わせた指導	日常	３５０	３５０	３５０
	生活	５２．５	５２．５	５２．５
領域別の指導	道徳	時間を特設せず、教育活動全体を通じて、指導を行う		
	特別活動	３５	３５	３５
	自立活動	５７７．５	５７７．５	５７７．５
年間総授業時数		１１３７．５	１１３７．５	１１３７．５
年間総授業時数（５０分換算）		≒１０２４	≒１０２４	≒１０２４

（１）本校における自立活動の指導の枠組みについて

本校では、自立活動の指導を便宜上、「自立活動（基礎）」「自立活動（応用）」「自立活動（課題）」の３つの指導の枠組みに分けて指導している。（※様々な議論の末、平成２９年度にはこの３つの枠組みの指導の枠組みはなくなることになる）それぞれの指導の枠組みを以下のように捉え、指導内容を振り分けて指導している。

◆自立活動（基礎）：姿勢や運動・動作の学習内容を中心として、他の周辺課題を相互に関連づけて指導する。

◆自立活動（応用）：自立活動（基礎）で身につけた力を、学習又は生活に広げていくために必要となる応用・発展的な学習内容や、他の周辺課題を相互に関連づけて指導する。

◆自立活動（課題）：自立活動（基礎）や自立活動（応用）で身につけた力を、教科等の学習に広げていくために必要となる感覚の活用や、知覚・認知、概念の形成等の学習内容や自立活動（基礎）や自立活動（応用）の時間だけではおさえることが難しい個々の学習内容を相互に関連づけて指導する。

（２）児童生徒に指導したこと

自立活動を主とした教育課程で学んでいた小・中学部約２５名分の平成２６年度の指導目標はおおむね以下のとおりであった。

＜音楽、図画工作（美術）、体育（保健体育）＞

・主に知的障害特別支援学校小学部の各教科の１段階の内容を習得する指導目標を設定して指導した。

・音楽に関しては、実態把握の際に「音楽科チェックリスト（長崎特別支援学校版）」を使って目標設定を行った。２６年度は２０％の児童生徒が、２段階の内容を習得する指導目標を設定して指導した。

＜自立活動＞

○自立活動（基礎）、自立活動（応用）で主に指導したこと	
教師の援助を受けてのあぐら座位の保持	１６％
教師の援助を受けてのテーブル座位の保持	２０％
教師の援助を受けての立ち上がり、立位の保持	２０％
歩行	４４％
○自立活動（課題）で主に指導したこと	
教師の繰り返しの関わりへの期待反応	２４％
物に手を伸ばす	１２％
物を教師に手渡す	１６％
ひねる、つまむなどの手の操作	２８％
教師をまねて線や丸を描く、聞いた言葉のカードを選ぶ	２０％

（３）自立活動（課題）について

平成２６年度の教育課程では、国語、算数（数学）は教科別の指導として設定していないが、知的教科の国語、算数（数学）の指導内容と類似した内容を扱っているのではないかと想定される自立活動（課題）に焦点を当てることにした。２６年度の校内研究において、自立活動（課題）で指導している内容を知的教科の国語、算数（数学）の内容及び「学習到達度チェックリスト（徳永、2014）」に照らして評価することにした。

２　達成したカリキュラムの把握

２６年度に自立活動を主とした教育課程で学んだ児童生徒が身につけたことは、大まかに以下の通りだった。

＜音楽、図画工作（美術）、体育（保健体育）＞

ほとんどの児童生徒が設定した目標を達成できた。目標達成の背景として自立活動の指導と関連を図ったことが考えられる。２段階の内容の習得を目指す児童生徒の中には、器楽の観点の目標達成ができた児童が数名いた。

＜自立活動＞

○自立活動（基礎）、自立活動（応用）の評価

設定した目標を達成するための教師の援助量の差はあるが、どの児童生徒も目標を達成することができた。

○自立活動（課題）の評価

自立活動（課題）の授業を知的障害特別支援学校の国語、算数（数学）の内容及び「学習到達度チェックリスト（徳永、2014）」に照らして評価した。大まかな結果は以下のとおりである。

【指導目標】教師の繰り返しの関わりへの期待反応

【評価】けいれん発作等の影響で覚醒が低いため、教師への気づき、期待する表情の表出などが確実にできるようになることはなかったが、授業の中でその芽生えが見られるようになってきた。教師との繰り返しの言葉のある手遊び歌や関わり遊びを通して、教師に少し注意を向けたり笑ったりするようになる児童もいた。

【知的教科の国語、算数（数学）と「学習到達度チェックリスト」に照らした評価】

・知的教科　国語：１段階

・学習到達度チェックリスト　国語（聞くこと、話すこと）：スコア４

【指導目標】物に手を伸ばす

【評価】振動する物や目立つ色の玩具などに気づいて、手を出すようになった。

【知的教科の国語、算数（数学）と「学習到達度チェックリスト」に照らした評価】

・知的教科　算数：１段階

・学習到達度チェックリスト　国語：（書くこと）、算数：（外界の知覚認知）：スコア４

【指導目標】物を教師に手渡す

【評価】教師の「ちょうだい」の言葉かけと手を差し出す援助で、物を手のところまで持ってくるようになった児童がいた。手渡すということが難しい児童が多かった。

【知的教科の国語、算数（数学）と「学習到達度チェックリスト」に照らした評価】

・知的教科　国語：１段階

・学習到達度チェックリスト　国語（書くこと）：スコア１２

【指導目標】ひねる、つまむなどの手の操作

【評価】教師や物に注意が向きにくい児童生徒が多かったが、教師が教材の提示を工夫することで注意を向けてその学習に取り組むことができるようになった。

【知的教科の国語、算数（数学）と「学習到達度チェックリスト」に照らした評価】

・知的教科　算数：１段階

・学習到達度チェックリスト　算数（図形）：スコア８または１２

【指導目標】教師を真似て線や丸を描く、聞いた言葉のカードを選ぶ

【評価】教師や学習に注意を向け続ける時間が長くなった。まだ筆圧が弱いが、縦線、横線、○をそれらしく描くようになった。

【知的教科の国語、算数（数学）と「学習到達度チェックリスト」に照らした評価】

・知的教科　国語（聞く・話す）（書くこと）：１段階または２段階

・学習到達度チェックリスト　国語（聞くこと）（書くこと）：スコア１２または２４

３　次に実施するカリキュラム

達成したカリキュラムを踏まえ、全校研究等で様々な議論を行い、２８年度から各学部において、国語、算数（数学）をそれぞれ１時間教科別の指導として位置付けることにした。さらに２８年度の実践を行いながら国語や算数（数学）と自立活動の配当時数を見直した結果、２９年度の教育課程を以下のとおりに編成した。

＜平成２９年度の指導形態と年間授業時数＞

【自立活動を主とした教育課程　小学部】　１単位時間：４５分

		１年	２年	３年	４年	５年	６年
教科別の指導	国語	３４	５２．５	５２．５	７０	７０	７０
	算数	３４	５２．５	５２．５	７０	７０	７０
	音楽	３４	３５	３５	３５	３５	３５
	図画工作	３４	３５	３５	３５	３５	３５
	体育	３４	３５	３５	３５	３５	３５
教科等を合わせた指導	日常	３４０	３５０	３５０	３５０	３５０	３５０
	生活単元学習	６８	７０	７０	７０	７０	７０
領域別の指導	道徳	時間を特設せず、教育活動全体で指導する					
	特別活動	３４	３５	３５	３５	３５	３５
	自立活動	２７２	２８０	３１５	３１５	３１５	３１５
年間総授業時数		８８４	９４５	９８０	１０１５	１０１５	１０１５

【自立活動を主とした教育課程　中学部】　１単位時間：４５分

		１年	２年	３年
教科別の指導	国語	７０	７０	７０
	数学	７０	７０	７０
	音楽	５２．５	５２．５	５２．５
	美術	３５	３５	３５
	保健体育	３５	３５	３５
教科等を合わせた指導	日常	３５０	３５０	３５０
	生活単元学習	５２．５	５２．５	５２．５
領域別の指導	道徳	時間を特設せず、教育活動全体で指導する		
	特別活動	３５	３５	３５
	自立活動	３１５	３１５	３１５
年間総授業時数		１１３７．５	１１３７．５	１１３７．５
年間総授業時数（５０分換算）		≒１０２４	≒１０２４	≒１０２４

【自立活動を主とした教育課程　小学部】　１単位時間：４５分

		１年	２年	３年
教科別の指導	国語	７０	７０	７０
	数学	７０	７０	７０
	音楽	５２．５	５２．５	５２．５
	美術	５２．５	５２．５	５２．５
	保健体育	３５	３５	３５
教科等を合わせた指導	日常	４７２．５	４７２．５	４７２．５
	生活単元学習	１０５	１０５	１０５
領域別の指導	道徳	時間を特設せず、教育活動全体で指導する		
	特別活動	３５	３５	３５
	自立活動	２８０	２８０	２８０
年間総授業時数		１１７２．５	１１７２．５	１１７２．５
年間総授業時数（５０分換算）		≒１０５５	≒１０５５	≒１０５５

Ⅲ　合意形成を図る場としての全校研究の取組

1　研究テーマ

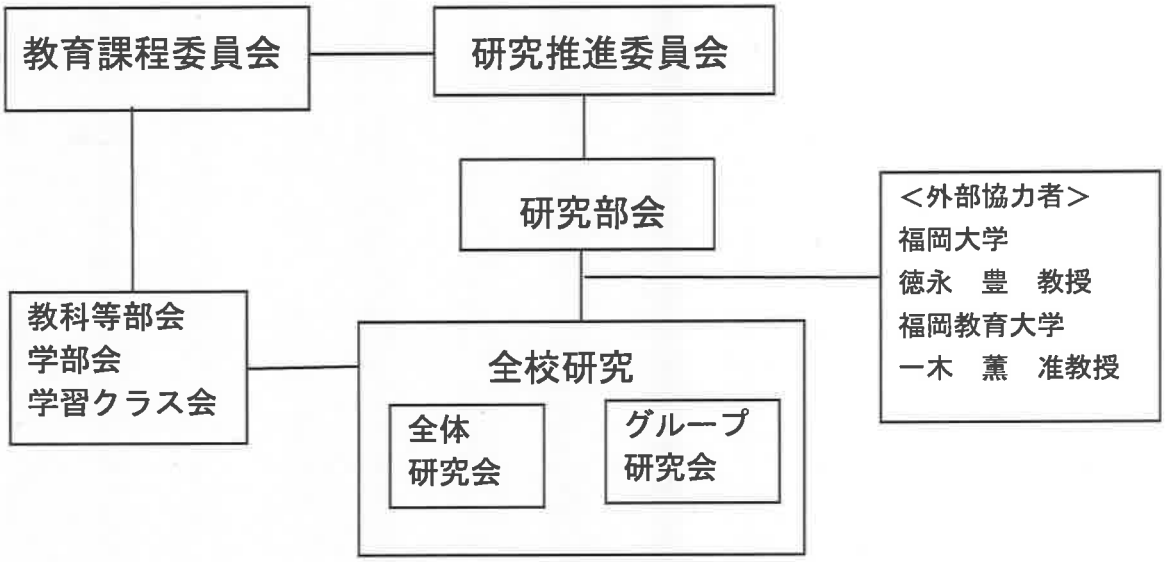
「学校教育目標の実現に向けた教育課程の改善と指導の充実」

～自立活動を主とした教育課程における教科指導の実践を通して～

2　研究の目的

自立活動を主とした教育課程における「国語」「算数（数学）」の指導の在り方について明らかにし、その結果を教育課程編成に反映させる。また、編成された教育課程を基に実践と検証を行う。

3　研究の組織



4　研究内容及び方法

（1）研究内容

〈２６年度〉

教育内容に関する共通理解①

・国語、算数（数学）の視点での実態把握と授業実践

・「国語、算数（数学）学習内容一覧」の作成

・国語、算数（数学）を本校の教育内容とするか否かの検討

〈２７年度〉

教育内容に関する共通理解②

・教科と自立活動の目標設定のプロセスの違いの理解を図るための取組

教科指導の試行

・試行期間の実践

・実践の評価を基に次年度の教育課程の検討

〈２８年度〉

国語、算数（数学）の年間指導計画の作成

・「教材一覧」の作成

児童生徒がより学びやすい配当時数、時間割の検討

・試行期間の実施

（２）研究方法

①全体研究会

研究の方向性などについて共通理解や意見交換を行うために、年度の始めと終わりや、必要に応じて随時設定し、全教員が参加する。

②グループ研究会

○２６年度

担当児童生徒の大まかなスコア別に教師を分けたグループで研究する。

○２７年度

小学部１・２年、３・４年、５、６年、中学部、訪問教育の各グループで実施する。

○２８年度

小学部は各学年で実施する。中学部、高等部は学部グループで実施する。

③研究授業、事例発表

協議の柱を掲げ、研究授業と授業研究会を行う。

○２６年度：自立活動（課題）２回　　計２回

○２７年度：国語・算数（数学）１回、国語１回　　計２回

○２８年度：国語・算数（数学）２回、国語２回　　計４回

④研修会

○校内研究をより深めるために必要な研修会を実施する。

・外部協力者（一木薫准教授、徳永豊教授）による講話研修　　年間２、３回

・毎年５月に「学習到達度チェックリスト」の活用方法や発達の段階意義について学ぶ研修会を設定。

⑤外部協力者による指導助言

○福岡大学　　徳永　豊　教授

・「学習到達度チェックリスト」の概要、「学習到達度チェックリスト」を用いた授業実践に対する指導助言。

○福岡教育大学　　一木　薫　准教授

・校内研究全般に対する指導助言。

⑥分掌部間の連携

必要に応じて、教育課程編成に関わる主な分掌部（教務部、自立活動部、研究部）で研究の方向性の確認や共通理解を図る会議を設定する。

５　研究計画

（１）２６年度　　○：全体研究　㋗：グループ研究　◆：研究授業　★：全体研修会

月	研究関連の会議等	内容
４月	研究推進委員会	・今年度の研究内容、方法、計画等についての確認
	★全体研修会①	・「学習到達度チェックリスト」の「段階・意義」についての確認
５月	★全体研修会②	・「学習到達度チェックリスト」の実際
	㋗グループ研究①	・事例研究
６月	㋗グループ研究②	・事例研究
	◆研究授業①	・自立活動（課題）：スコア１２の事例
７月	○全体研究	・事例研究：１学期の評価 ・本校の児童生徒に指導している国語・算数（数学）の内容と知的教科の国語、算数（数学）の内容の照合
８月	○全体研究①	・事例発表：訪問教育グループ
	★全体研修会④ 福岡大学：徳永豊教授	「『学習到達度チェックリスト』、教育課程等について」 ・事例発表：スコア２～４の事例、スコア６～８の事例
	★全体研修会③ 福岡教育大学：一木薫准教授	「１学期の取組の成果と今後の課題」 ・事例発表：スコア２～４の事例
	㋗グループ研究③	・事例研究：　２学期の取組、国語、算数（数学）の指導内容の整理
９月	㋗グループ研究④	・事例研究
10月	㋗グループ研究⑤	・国語、算数（数学）学習内容一覧作成
11月	◆研究授業②	・自立活動（課題）：スコア４～６の事例
	㋗グループ研究⑥	・国語、算数（数学）学習内容一覧作成
12月	○全体研究②	・ワークショップによる教師の意識の変容の確認と課題の洗い出し
１月	○全体研究③	・各グループのまとめ発表
	※指導助言 福岡教育大学：一木薫准教授	・次年度の研究内容、計画への指導助言
２月	○全体研究④	・研究のまとめ、次年度に向けての提案
３月	研究推進委員会	・次年度の研究の方向性についての確認

（2）２７年度　　○：全体研究　㋮：グループ研究　◆：研究授業　★：全体研修会

月	研究関連の会議等	内容
4月	研究推進委員会	・今年度の研究内容、方法、計画等について
	○全体研究①	・研究方針等の説明（研究内容、方法等の確認、「学習到達度チェックリスト」の説明等）
5月	★全体研修会①	・「学習到達度チェックリスト」の実際について、「国語、算数（数学）シート」の作成方法について
	○全体研究②	・全児童生徒の実態の確認 ・国語、算数（数学）と自立活動の目標設定①
6月	○全体研究③	・研究対象児童、題材配列、授業内容、授業研究における協議の柱の確認
7月	◆研究授業① 小学部２年生：国語・算数	・「国語、算数（数学）シート」を活用した授業実践
	㋮グループ研究①	「生活」の見直し、「日常」の整理
8月	○全体研究④	・国語、算数（数学）と自立活動の目標設定② ・国語・算数（数学）の題材一覧表の作成方法提案
	長崎県肢体不自由教育研究大会	・「自立活動を主とした教育課程における国語、算数（数学）の指導の在り方」
	★全体研修会② 福岡大学：徳永豊先生	「『学習到達度チェックリスト』の活用の課題と方向性」
	★全体研修会③ 福岡教育大学：一木薫准教授	・「１学期の取組の成果と今後の課題」
9月	㋮グループ研究②	・国語、算数（数学）の試行的実践の形成的評価
10月	◆研究授業② 中学部１年生：国語	・「国語、算数（数学）シート」を活用した授業実践 個々の目標と手だて、指導内容についての検討
	㋮グループ研究③	・各学年における実践の成果と課題（アンケート実施）
11月	○全体研究⑤	・次年度の教育課程編成に向けて アンケート結果を基に、全体で協議 ①国語、算数（数学）の設定の有無 ②授業時数と時間割への位置づけ　など
12月	㋮グループ研究④	・国語、算数（数学）の題材一覧表作成
1月	㋮グループ研究⑤	・国語、算数（数学）の総括的評価
2月	★全体研修会④ 福岡教育大学：一木薫准教授	・次年度の研究内容、計画への指導助言
	○全体研究⑥	・研究のまとめ、次年度に向けての提案
3月	研究推進委員会	・次年度の研究の方向性についての確認

（3）２８年度　　○：全体研究　㋗：グループ研究　◆：研究授業　★：全体研修会

月	研究関連の会議等	内容
4月	研究推進委員会	・今年度の研究内容、方法、計画等についての確認
	○全体研究①	・研究方針等の説明（研究内容、方法等の確認、「学習到達度チェックリスト」の説明等）
5月	★全体研修会①	・知的教科の国語、算数（数学）と「学習到達度チェックリスト」についての確認 ・「国語、算数（数学）シート」の作成方法について
	㋗グループ研究①	・国語、算数（数学）の目標設定 「国語、算数（数学）シート」作成作業
6月	○全体研究②	・研究対象児童、授業内容、授業研究における協議の柱等の確認
	◆研究授業① 小学部６年生：国語・算数	・目標、指導内容、手だての設定及び教材、教具の選定について
7月	㋗グループ研究②	・１学期の振り返り、教材一覧の作成①
8月	長崎県肢体不自由教育研究大会	・「自立活動を主とした教育課程における国語、算数（数学）の指導の在り方」
	○全体研究③	・２学期の授業についての共通理解
9月	㋗グループ研究③	・国語、算数（数学）の指導の形成的評価
	★全体研修会② 福岡教育大学：一木薫准教授	・「１学期の取組の成果と今後の課題」
10月	◆研究授業② 小学部２年生：国語・算数	・スコアの低い児童の国語と算数の目標と評価について ・自立活動の指導内容との関連について
	㋗グループ研究	・試行期間の総括的評価
11月	○全体研究④	・次年度の配当時数、指導形態、時間割上の配置等についての確認
	◆研究授業③ 中学部３年生：国語	・個々の国語の目標達成に必要な教材、教具の選定の在り方について
12月	◆研究授業④ 高等部１年生：国語	・自立活動を主として学ぶ児童生徒の各学部段階における「意思を表出する力」の捉えについて
	㋗グループ研究④	・１学期の振り返り、教材一覧の作成②
1月	㋗グループ研究⑤	・国語、算数（数学）の共通単元・題材一覧表作成
2月	★全体研修会③ 福岡教育大学：一木薫准教授	・次年度の研究内容、計画への指導助言
	○全体研究⑤	・研究のまとめ、次年度に向けての提案
3月	研究推進委員会	・次年度の研究の方向性についての確認

６　研究の実際

（１）１年次（平成２６年度）

教育内容に関する共通理解　①

研究初年度は、国語や算数（数学）の指導内容を多く扱っている指導の枠組みであるのではないかという想定の下、「自立活動（課題）」に焦点を当てて研究実践を行うことにした。主な実践内容は以下のとおりである。

○「自立活動（課題）」の授業において、個々の目標設定に「学習到達度チェックリスト」を活用し、「国語」「算数（数学）」の力（あるいは、各教科の１段階につながる力）を育む指導に取り組み、個々の学習評価を明らかにした。

○重度・重複障害のある児童生徒の国語、算数（数学）の指導内容について確認した。

重度・重複障害のある児童生徒の国語、算数（数学）の指導内容は、一体どのようなものがあるのか、まずはそれについて教師が知る必要があった。そこで、知的障害特別支援学校の教科である国語と算数の１段階から３段階の内容と「学習到達度チェックリスト」を参考に「国語、算数（数学）学習内容一覧」を作成した。

↓

○個々の学習評価に基づき、国語、算数（数学）を本校の教育内容とするか否かの検討を行う。

①国語、算数（数学）の視点での実態把握と授業実践

★国語、算数（数学）シートの作成

担当する児童生徒を自立活動の六区分からだけでなく、知的教科の国語や算数（数学）の内容や、「学習到達度チェックリスト」に照らして実態把握を行った。以下に示すプロセスで指導目標及び導内容の設定を行った。この際、「障害の重い子どもの目標設定ガイド（徳永 2014）を参考にして取り組んだ。

ｉ）知的障害特別支援学校の国語及び算数（数学）の内容に照らして実態把握

学習指導要領に示された主に１段階、２段階の内容に照らして行う。

ⅱ）「学習到達度チェックリスト」による実態把握

実態把握をする際、各行動項目がどの段階意義と対応するのか、どの発達の系統に含まれているのかを確認するために「段階意義の系統図」（田中 2013）を参考にした

ⅲ）指導目標、指導内容の設定

「学習到達度チェックリスト」において、現在のスコアまたは１つ上のスコアの行動項目を参考にし、児童生徒の具体的な姿を想定して目標と指導内容を設定した。

ⅳ）指導内容は学校生活のどの場面で指導しているかを整理

ⅲ）により設定された指導内容は、現行の教育課程におけるどの指導形態や指導場面で指導しているかを整理した**（補足資料１）**。この作業を行うことで、現行の教育課程では、国語、算数（数学）を教育内容として扱っていないが、実は様々な場面で国語、算数（数学）の視点で指導していることに教師自身が気づくことができた。

＜教師の意識の変容～自立活動「課題」の授業改善へ＞

「自立活動（課題）」の授業をする際に自立活動に関する実態把握のみでなく、各教科〈国語、算数（数学）〉の視点で実態把握を行って目標設定をすることで、授業がどう変わったかの実感をグループ研究で自由に挙げてもらった。出てきた意見は次のとおりである。

・各教科の観点ごとに具体的な目標を設定したことで、指導内容や手だてを精選できた。
・今何をねらっていて、次にどこをねらうべきなのかが明確になった。
・児童生徒の学びの系統性を確認できた。
・児童生徒の現在のスコアとその段階意義を理解することで、教材や手だてが考えやすくなった。
・「段階意義の系統図」を活用することで、次の段階を意識した指導ができた
・児童生徒の変容が見えやすくなり具体的な評価が可能になった。
・複数の教師で「学習到達度チェックリスト」をつけることが大切だと思った。
・設定した国語、算数（数学）の指導目標や指導内容と、現在指導している「自立活動（課題）」の指導目標や指導内容に大きな違いがないことがわかった。

②「国語・算数（数学）学習内容一覧」の作成

「学習到達度チェックリスト」が示す各スコアの段階での主な学習内容を整理し、以下の作業を通して「国語・算数（数学）学習内容一覧」**（補足資料２）**を作成した。

〇知的教科の国語、算数（数学）の内容と照らし合わせ、整理
・個々に設定した国語、算数（数学）の指導内容は、知的教科の国語、算数（数学）の内容のどの段階か照らし合わせる。

＜本作業を通して教師が考えたこと＞
〇スコア１～２の児童生徒は１段階の内容より、もっと前の段階の内容を学んでいる。しかし、スコアにとらわれないような国語、算数（数学）の内容もある。
〇スコア６～１２の実態の児童生徒は、主に国語の１段階の内容を学んでいることがわかった。
〇知的教科の算数の内容について本校の児童生徒の実態で学べる指導内容が少ないことがわかった。
〇現在自立活動で指導している手指の操作は将来的に算数とつながりがあることを確認できた。
〇算数の指導内容が１段階にとどまることをどう考えるか。概念形成ができるためには、実際の生活の中で手で操作できなければ難しい。しかし、「学習到達度チェックリスト」で導いた指導内容と１段階の内容のつながりを見ていくことは大切である。
〇国語、算数（数学）を教科別の指導として１単位時間で設定しなくても、各教科等を合わせた指導の中で扱ってはどうか。（目標設定及び評価は国語、算数の視点で行う）

③国語・算数（数学）を本校の教育内容とするか、否かの検討

全ての児童生徒に対して自立活動（課題）に替えて国語、算数（数学）として指導した場合、児童生徒や教師にとってどのような「良さ」と「課題」があるのか、概念化シートを用いて整理した。

【良さ】
・いろいろな世界に出会う機会が保障される。
・障害の程度に左右されず、国語、算数（数学）を学べる。
・たとえ目標が変わらなくても学年ごとで違った内容が学習できる。
・系統性のある指導ができ、学びの履歴も残しやすい。
・共通のツール（学習到達度チェックリスト）を活用することで、担任が変わってもぶれない目標設定ができる。
・身につけさせたい力が、より具体的になる。
・国語、算数（数学）の観点を考慮したバランスのとれた学びができる。
・教科として設定することで、自立活動で育む力が明らかになる。

【課題】

〇授業時間、指導体制について

・スコアの低い（１～２）の児童生徒に対して４５分間の授業のイメージがもてない。

・スコアの低い児童生徒に教科として指導する場合、１０～１５分の授業を毎日する方が良いのでは。

・集団で国語、算数（数学）の指導をして、目標達成が可能か。児童生徒によっては個別指導がよいのでは。

〇目標設定、指導内容について

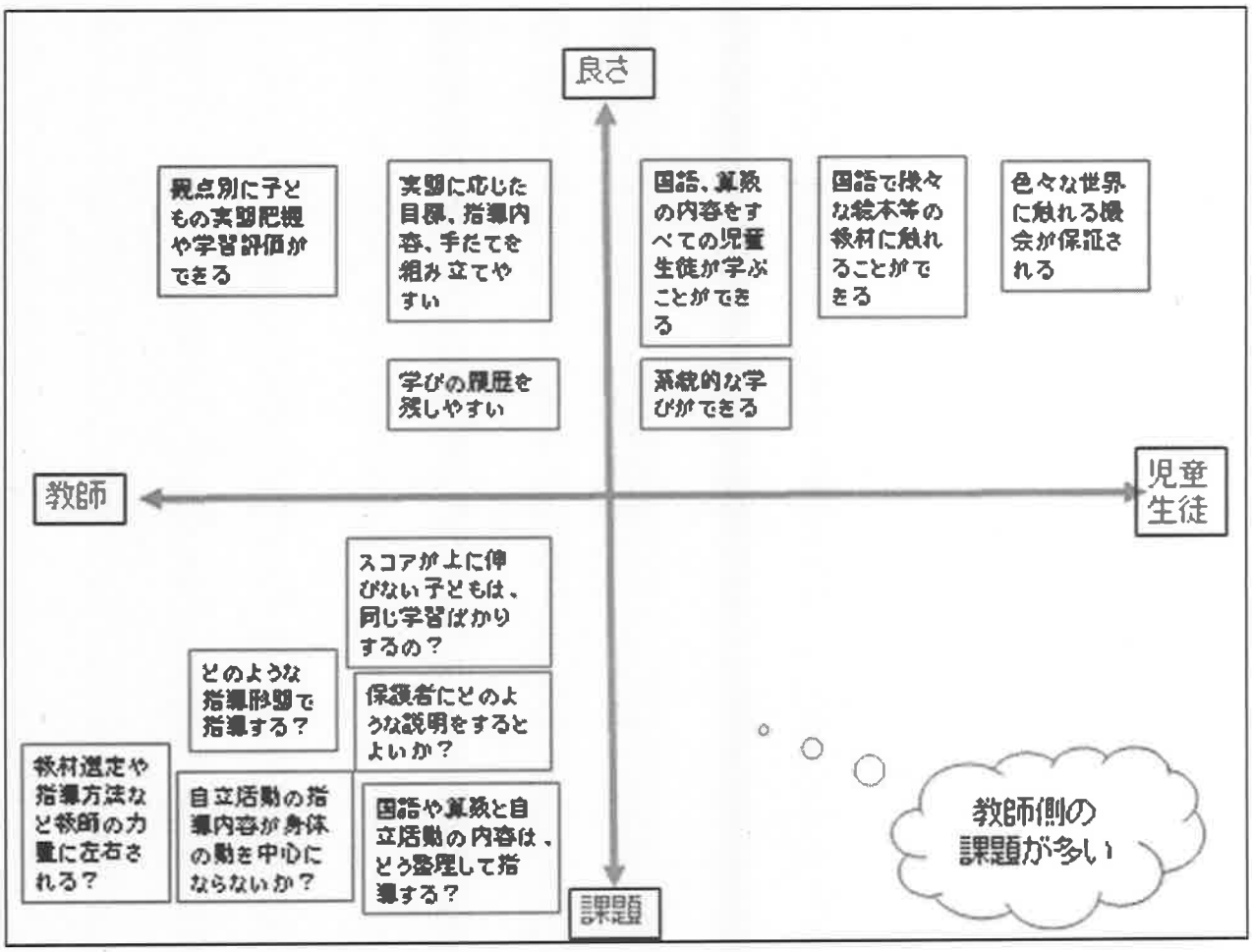
・スコアの低い児童生徒の目標が変わらず、授業がマンネリ化するのではないか。

・自立活動と教科の内容のすみわけに悩む。

〇教師間の共通理解、保護者への説明について

・学校としての国語、算数（数学）の捉えを共通理解する必要がある。（知的教科の内容に基づきながら、学習到達度チェックリストを活用して授業作りをするということ）

・全部、又は一部の児童生徒が、国語、算数（数学）を教科として指導するようになった場合、個々の保護者へ根拠をもって説明できるだろうか。



概念化シートによる教師の意見集約（一部抜粋）

１年次のまとめ

１年目の取組を通して、各教師は以下のような変容を示し、年度末の全体研究会では、「次年度はまだ教育内容として位置付けないが、全児童生徒に対して国語、算数（数学）の指導を行う方向性でいく」ということについて合意形成を行った。

○国語、算数（数学）の視点で実態を把握し、授業の PDCA に取り組める教師が増えた。
　→「学習到達度チェックリスト」の「段階意義」の理解
○指導の系統性を意識できるようになった。
　→「今の目標が達成できたら次はこの目標になるだろう」と系統性を意識
○重度・重複障害のある子どもに対して教科の視点で行う授業の必要性を感じるようになった。
　→「卒後を豊かに過ごすためには、様々な世界に触れる機会が必要なのでは」という思い。

「全ての児童生徒に対して国語、算数（数学）の指導を行う」（全教師の合意形成）

しかし

国語、算数（数学）の指導内容を確認していく作業を通して、現在指導している自立活動（特に「自立活動（課題）」）の指導内容と同じ文言が出てくる。このような場合に「これは教科なのか？自立活動なのか？」という疑問が湧いてきていた。

↓

○教科と自立活動の違いについて理解する必要性が喫緊の課題。

・そもそも指導目標、指導内容設定のプロセスが違うことを共通理解する必要がある。

＜各教師の具体的な悩み・・・＞

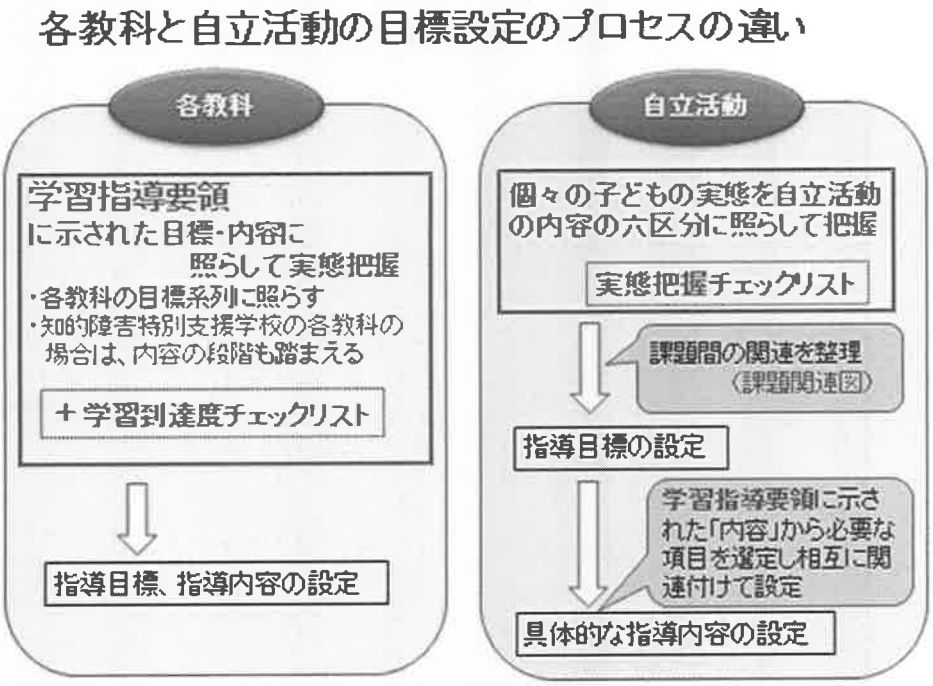
・現在指導している「自立活動（課題）」の指導内容と国語、算数（数学）の指導内容が同じになってしまうが、どのように考えて指導をすると良いか・・・

（２）２年次（平成２７年度）

教育内容に関する共通理解　②

～教科と自立活動の目標設定のプロセスの違いの理解を図るために～

年度当初に、下記に示す教科と自立活動の目標設定のプロセスの違いを確認した。個々の児童生徒について、各教師が教科と自立活動の実態把握及び目標設定を行い、授業実践に取り組んだ。



①自立活動の指導目標を設定する際の課題関連図の導入（補足資料３）

平成２６年度までは、本校の個別の指導計画は、児童生徒の実態を文章で大まかに記述し、その後に指導目標と指導内容を記載する書式であった。実態把握をする際は、本校で作成した自立活動「実態把握チェックリスト」を活用するが、その後設定された指導目標について、「なぜその指導目標なのか」が分かりにくいという反省が挙がっていた。そこで、外部協力者である福岡教育大学の一木薫氏の助言を仰ぎながら、個別の指導計画に「課題関連図」を記載することにした。

自立活動の目標を設定する際に課題関連図を導入する手続きを踏んだことで、教科とは明らかに違う手続きで指導目標を設定するということを各教師が実感できるようになった。

②自立活動の目標設定検討会、目標確認会の実施

本校では、児童生徒の個々の自立活動の目標設定について、自立活動部や教務部、関わる担任で協議し合う会を年に２回実施している。目標設定検討会（前年度末の２月に、前担任が設定をした目標を検討）と目標確認会（新年度６月に新担任が設定した目標で妥当かどうか確認）である。

課題関連図を導入したことで、これらの会では主に児童生徒の課題がどのように関連しているのか、重点課題は何かなどについて重点的に検討することができるようになった。

③教師の日々の教育活動と全校研究の関連

各教師の日々の教育活動の中で、各教科と自立活動の目標設定のプロセスの違いを意識してもらうために、全校研究と関連させた年間計画を可視化して示した。

月	全校研究	担任の動き
4月 5月	「国語、算数(数学)」の目標確認	「教科」と『自立活動』の実態把握と目標設定 『自立活動』の目標確認会
6月		
7月	「国語・算数」研究授業(小2) ⟷	「国語、算数(数学)」を設定するにあたっての課題の共有 ・題材、個々の目標設定の在り方、年間の題材配列における留意点、必要な授業時数、指導体制等
8月	研修会(「学習到達度チェックリスト」、「教科」と『自立活動』) →	「教科」と『自立活動』の学習評価と目標の見直し
9月 10月	「国語」研究授業(中) ⟷	「国語、算数(数学)」の授業実践(全クラス)
11月 ～	「国語、算数(数学)」の単元・題材配列作成	「教科」と『自立活動』の学習評価と目標の見直し → 「教科」と『自立活動』の学習評価に基づく教育課程の検討

目標設定のプロセスの違いを理解するための取組

◆「教育課程改善計画」の作成

各教師が教育課程編成に携わっていることを意識してもらうため、上記③に加えて、日々の教師の活動との関連を教育課程編成に関わる主な校務分掌部（教務部、研究部、自立活動部）と、各種会議、教育課程委員会の一連の流れを視覚化し、示すようにした。 **（次ページ参照）**

＜教育課程編成に向けた年間計画＞

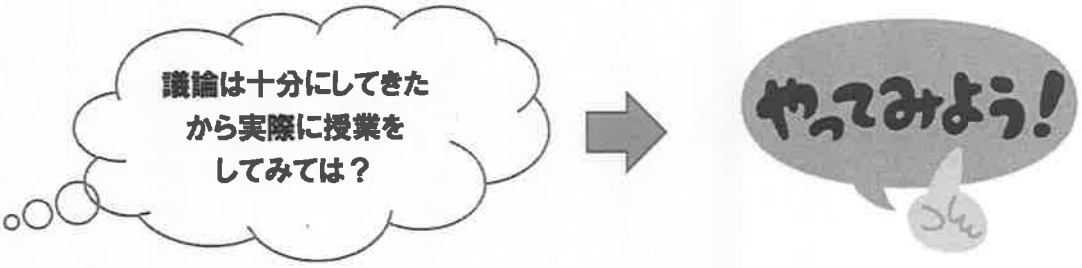
Ｈ２８．４

	研究部	各教師（日々の教育活動） Ｃ会	教務（教育課程委員会）	教科等部会	学部会
4	○新転任者オリエンテーション	○新旧担任引き継ぎ			
	○研究推進委員会 ○全校研究①（全体） 研究方針等の説明	○実態把握 ○自立活動実態把握チェックリスト説明会（１１日）	○教科等部会のメンバー調整 ・会の目的、運営等を周知		
5	○校内研修会①（５／９） 学習到達度チェックリスト、国語、算数（数学）シート作成について	○実態把握、目標設定と共有 （５／９～５／２０） ・年間目標設定とクラス内での共有	○個別の教育支援計画及び 個別の指導計画説明会	・教科等部会の運営方針の確認 ・備品、消耗品の購入希望検討	
	○全校研究②（グループ） 国語、算数（数学）シートの作成	○教育支援計画作成に関わる面談（５／１６～５／２０）			
6	○全校研究③（全体） 事例研究対象児童、授業内容、授業研究会における協議の柱の確認	○「個別の指導計画」確認会 ・新年度の目標、学習内容検討	○「個別の指導計画」確認会 ・新年度の目標、学習内容検討		
	○研究授業① 小学部６年生　　国語・算数	・遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実施 ・個別の教育支援計画作成 ★試行的時間割についての検討	★２学期からの試行的時間割提案		
7		○個別の指導計画評価、 通知表作成、提出			
	○全校研究④（グループ） １学期の振り返り、指導内容表の整理 （教材等一覧の作成①）		○教育課程委員会①（編成方針、重点課題の検討、編成スケジュール）		○教育課程の評価・時間割、指導体制等
8	○長肢研（８／５）	○長肢研　参加	○後期のＣ会における教育課程編成の検討スケジュール作成	１学期の振り返りと教育課程編成に向けて①	
	○全校研究⑤（全体） ２学期の授業について	・２学期に向けて指導の共通理解		１学期の振り返りと教育課程編成に向けて②	○学部目標、課題の検討
9	○全校研究⑥（グループ） 授業の形成的評価	・日々の授業実践、Ｃ会	○教育課程委員会②		
	○校内研修会② 講師：一木薫先生				
10	○研究授業② 小学部２年生	・日々の授業実践（運動会）、Ｃ会			
	○全校研究⑦（グループ） 施行期間の総括的評価		○教育課程委員会③		
11	○全校研究⑧（全体） 次年度の時間割上の配置について	・日々の授業実践、Ｃ会		１、２学期の振り返りと教育課程編成に向けて	○次年度の時間割、指導体制について
	○研究授業③ 中学部３年生		○教育課程委員会④ 国語、算数（数学）の時間割上の配置について		
12	○研究授業④ 高等部１年生	・日々の授業実践、Ｃ会	○教育課程委員会⑤ 決定事項・審議内容の確認、編成作業の確認		
	○全校研究⑨（グループ） ２学期の振り返り、指導内容表の整理 （教材等一覧の作成②）	○個別の指導計画評価、 通知表作成、提出	○教育課程全体説明会	各教科の共通単元・題材一覧表の検討・作成①	
1		○教育課程、個別の指導計画検討会 ・次年度の目標、学習内容検討	○教育課程、個別の指導計画検討会・次年度の目標、学習内容検討	各教科の共通単元・題材一覧表の検討・作成②	
	○全校研究⑩（クラス） 国語、算数（数学）の単元一覧表の作成	・日々の授業実践、Ｃ会 ○各教科の教育課程作成	教育課程作成作業		
2	○全校研究⑪（全体） 研究のまとめ、次年度に向けて	○個別の教育支援計画提出	平成２９年度教育課程表完成		
3	○研究推進委員会 ・次年度の研究について提案	○通知表作成、提出 ○個別の指導計画評価、 指導要録提出	○教育課程委員会⑥ 次年度への課題について		

教科指導の試行

平成２６年度まで、自立活動を主とした教育課程で学ぶ児童生徒に対する知的障害特別支援学校の各教科の国語、算数（数学）の指導について様々な議論を重ねてきた。しかし、教育課程上の位置付けがまだ明らかでないままでの議論であったために、各教師がイメージをもてなかったり、国語、算数（数学）の授業作りへの不安があったりして、なかなか教育課程に位置付けることができなかった。

そこで、平成２７年度は試行期間を設けて、国語、算数（数学）の授業を実際に行ってみることにし、児童生徒の学習評価と教師の手応えを基に、国語、算数（数学）の教育課程への位置付けを検討することにした。



①試行期間について

試行期間を以下のように設定した。

○期間　　Ⅰ期→小学部１学年のみ　６月～７月（２か月間）
　　Ⅱ期→全学年　　９月～１０月（２か月間）

○方法　　現行の自立活動（課題）を２時間、以下のように扱って指導した。
　　小学部：国語、算数を合科として２時間指導
　　中学部：国語、数学を教科ごとに１時間ずつ指導

授業実践を振り返り、その手応えを全体研究で共有して次年度の方向性を検討した。

ｉ）児童生徒の変容

・２か月間の指導を経て、おおむね個々の目標は達成された。
・繰り返しの学習で児童生徒が見通しを持てるようになり、様々な自発的な行動が見られるようになった。

【課題】

・１か月で目標達成に至る児童生徒や、単元の最後の方は活動に飽きてしまった児童生徒もいた。一つの単元の指導期間や時数等を踏まえた上で授業展開が重要であることが分かった。

ⅱ）教師の意識の変容

・繰り返し指導することで、児童生徒の変容が捉えやすかった。
・次の目標を意識しながら授業をすることで、児童生徒の目標とする姿を引き出しやすかった。
・集団で授業をして、個々の児童生徒の実態を詳細に把握することができた。
・体験させることが必要。体験させることで見えてくることもある。
・自分の名前を自分で書く機会もないまま卒業させていくことは、学校として学習の機会を奪っていることになるのではないか。言葉、文字など、やはり学校である以上学ばせていきたいことである。スコアの数値によらず国語、算数（数学）は設定するべきである。

【課題】

・教科で何を学ばせるのかを考える必要があるのではないか。文化の継承は、その中でも大切な要素の一つであることを改めて確認した。併せて、教師の力量、専門性を身につける必要性を認識できた。

・短時間でも毎日指導する方が、子どもはより学びやすいのではないか。

・自立活動（課題）の指導内容とのすみわけに悩む。

②次年度の教育課程への位置付け

２か月間の試行的実践の成果と課題を受け、研究部、教務部、自立活動部の３分掌で次年度の大まかな指導の枠組みや授業時数を検討した上で、以下の内容を１１月の全校研究で提案し、全教師の合意形成を図った。

ｉ）教育内容、配当時数

・週当たり国語を１時間、算数（数学）を１時間を設定する。

・現行の自立活動の時間を国語、算数（数学）の時間に替える。

現行の自立活動の時間を国語、算数（数学）の時間に替える

★小１：応用１
★小２、３：課題１、応用１
★小４～中３：課題２

学年	国語、算数（数学）	自立活動【基礎】	自立活動【応用】	自立活動【課題】
小1	1	5 (5)	2 (3)	2 (2)
小2	2	5 (5)	2 (3)	2 (3)
小3	2	5 (5)	3 (4)	2 (3)
小4	2	5 (5)	4 (4)	2 (4)
小5	2	5 (5)	3 (3)	3 (5)
小6	2	5 (5)	3 (3)	3 (5)
中1～3	2	5 (5)	3 (3)	3 (5)

※（ ）内の数字は現行の時数

ii）時間割、指導形態

・小学部は、国語・算数の合科として、４５分×２単位時間指導する。

・中学部は、国語、数学それぞれを４５分間ずつ指導する。

→試行的実践の振り返りにおいて、１５分～２０分の指導時間を帯状に毎日設定する方が良いのではないかとの意見が出されたが、この点についての検討はできなかった。

次年度は、この点も含めて検討していくことを前提に提案した。

iii）指導体制

・各学年単位で指導する。

・実態に応じて、学年内でグルーピングして指導する。

２年次のまとめ

次年度から国語、算数（数学）を教育課程に位置づけて、授業を行うに当たり、目標設定や授業作りに対する教師の意識についてアンケートを実施した。

★国語、算数（数学）の授業作りに関するアンケート結果（H28.１実施）

質問項目	できると思う	まあできると思う	少し難しいと思う	難しいと思う
１　個別の指導計画 （１）実態把握	２７	６０	１２	０
（２）目標設定	１５	５８	２３	４
２　授業作り （１）単元における目標設定	１５	７０	１５	０
（２）指導内容の設定	８	７７	１５	０
（３）手だての設定	２３	５８	１９	０
（４）教材、教具の設定	１１	５０	３５	４
※集団で行なう場合において （５）同単元異目標の授業作り	１６	３８	４６	０

※数字は％

アンケートの結果から、授業作りに対する意識は、総じて高いということが分かる。しかし、特に以下の２点については難しいと感じている教師が多いことが明らかになった。

●**小学部から高等部までの１２年間で知的障害特別支援学校小学部の国語、算数の１段階の内容を学ぶ児童生徒に対して、どのような教材や教具を使って指導するのが適切であるのか**、実践を積み重ねながらデータを蓄積していく必要がある。また、**系統性のある単元（題材）一覧表の作成が難しい**。

●実態差のある児童生徒が在籍するクラスで指導する場合、**個々の目標達成に向けた授業作りが難しい**。

●試行期間の反省から挙がったように、**短時間でも毎日帯状の時間割にすることで児童生徒がより学びやすくなるのではないか**という点について検討を行う必要がある。

次年度は、上記の課題解決に向けて更なる授業実践に取り組むことにした。

（３）３年次（平成２８年度）

※平成２８年度に本校に高等部が開設された。

国語、算数（数学）の年間指導計画の作成

各学部段階における国語、算数（数学）の指導内容を系統的に設定するために、各学年の「共通単元・題材一覧」を作成し、それを教育課程の補助資料とすることをゴールにして取り組んだ。そのゴールに向かって全体で協議をする場として研究授業、日々の授業実践を学年や学部で検討したりまとめたりする場としてグループ研究を適宜設定した。

①「教材一覧」作成について（補足資料４）

個々の児童生徒の目標達成に応じた教材、教具の選定が前年度の大きな課題だった。そこで、スコアのまとまりごとに児童生徒のグループを作り、それぞれの教材を検討するためのシートを作成することにした。

「教材一覧」については以下のように捉え、作成することにした。

●目標とする大まかなスコアのまとまりを以下のように設定して作成

スコアＡ：スコア６を目標とする（スコア１～４の実態の児童生徒を対象）
教師による繰り返しの関わりに、次を予測して笑う、声を出す、体を動かすなどする。単純な物の操作をする　など。

スコアＢ：スコア８～１８を目標とする（スコア６～１２の実態の児童生徒を対象）
繰り返しの学習の中で、言葉そのものを理解する。
活動と結果を理解して、やや複雑な物の操作をする　など。

②本校における国語、算数（数学）の指導について（補足資料５－①、５－②、５－③）

小学部から高等部までの１２年間で知的障害特別支援学校小学部の国語、算数の１段階の内容を学ぶ児童生徒に対して、国語、算数（数学）の学びをどのように捉え、どのような教材や教具を使って指導するのが適切であるのか、研究授業や授業研究会を通して全教師で協議をした。ここでは、主として授業研究会で協議されたことを述べる。

ｉ）小学部６年生（国語・算数）

＜協議の柱＞

・対象児の目標、指導内容、手だては適切に設定されていたか。
・対象児に応じた教材、教具の選定ができていたか。

◆目標設定と指導内容について

・授業の様子から、対象児は色を類別するというより、教師の指さしに応じているのではないか。
→授業者としては、この単元では「色の違い」に気づくことをねらいとした。指さしはそのための手だてで、後々なくしていきたい。

・対象児の実態（スコア８）からすると「色の類別」を目標、指導内容とするのは、やや高いのではないか。
→・昨年度作成した「年間指導計画」に記載されている内容が、児童生徒の実態に合った内容となっているかどうかを吟味する必要がある。
・国語、算数（数学）と自立活動の指導内容に重複している点があるので整理する必要がある。

◆教材、教具について

・「なないろどうわ」は、話が長く内容も難しいので、絵本の話を基に手作りの絵本を作成

した。絵本自体の面白さは減ったが、児童の「聞くこと」の目標達成には有効だった。教科を指導するに当たり、今年度の授業実践を基に、個々の目標達成のためにどのような教材が適切かを整理する必要がある（「教材一覧」の内容を充実させる）。

◆授業展開、指導形態について

国語で扱う教材で算数の「物の見比べ」や「因果関係」などを指導できる場合もあるが、基本的には、１時間の授業を国語と算数に分けて指導した方がそれぞれの目標設定と評価がしやすい。しかし、単元によっては、同じ教材で国語と算数の目標で指導できる場合もある。

＜今回の協議を基に共通理解した事項＞

★夏季休業中に教科等部会の算数（数学）部会において、今年度分の算数（数学）の「共通単元・題材一覧」の見直しを行った。これまでは、１つの単元で扱う観点の中に更に具体的な内容を括弧書きで記載していたために、実態に合わない内容を指導してしまうことがあった。この意見を全体化し、２学期からは「括弧に示した具体的な内容は参考程度にし、個々の実態に応じた内容を指導する」ことを共通理解した。

ⅱ）中学部３年生（国語）

＜協議の柱＞

・国語科における対象生徒の目標設定のために必要な教材（扱う絵本など）や教具の選定についてどのように考え、年間指導計画を作成すると良いか。

◆教材、教具の選定について

・日本の昔話など、知っておいてほしい教材も取り扱った方が良い。
・教師が児童に学んでほしいと考えることと、児童生徒の実態とのバランスが大事である。
・スコアが違う児童生徒の集団なので、児童生徒の実態に合った絵本や具体物、半具体物を使う必要がある。
・生活年齢を考慮した上で、児童生徒の実態や興味関心に寄り添ったものを扱う必要がある。
・「友達・仲間」、「戦争、平和」等のテーマがあると良い。
・生徒が理解しやすいものや、五感を活用して学習できるものを選定すると良い。

◆題材の配列について

・生活年齢を考えながら配列する。（ただし、児童生徒の実態と目標に合わせてアレンジが必要）
・９年間（１２年間）の学習の系統性を考えながら教材を選定する必要があるので☆本などの教科書を参考に教材を選定する必要がある。また、学びの履歴が重複しないようにする必要がある。
・学部が小学部、中学部、高等部へと上がっていくに連れて、生活に生かす視点（新聞・表示・マークなど）も必要になると考える。
・年間を通して「聞く・話す」「読む」「書く」の各観点の偏りがないように題材を配列する必要がある。
・教えたい言葉（名詞、動詞、形容詞など）を系統的に指導することが必要である。

◆生活年齢を考慮した教材について

・話や言葉の意味理解は難しくても、日本語のもつリズムや楽しさなどの良さを教えることができる。
・デジタル教材やＮＨＫのテレビである詩や狂言の番組などを活用し、より本物に近い形で題材に触れさせることも手立てとして考えられる。

◆教材一覧について

・教材一覧を作成して蓄積していくことで、授業の展開がより具体的になると考える。

・児童生徒の目標達成のために、「生活年齢に応じた教材」と「実態やスコアに応じた教材」のどちらも重視したい。双方を大切にしながら教材を選定するといった柔軟な対応が必要である。そのためには、「何を学ばせるか」を明確にし、手だての工夫や個別の対応などを柔軟にしていくことが考えられる。

ⅲ）高等部１年生（国語）

＜協議の柱＞

・自立活動を主として学ぶ児童生徒の「意思を表出する力」について、各学部段階でどの程度まで育むとよいか。

◆学部毎にある程度の目安があったほうがよいのではないか。

・本校の「身につけてほしい力」の項目ごとに、学部ごとの大まかな目安があった方が生活年齢を意識した目標設定につながるだろう。また、学校教育目標と個別の教育支援計画、個別の指導計画とのつながりが見えやすくなるのではないか。

・表出する力の「手段」は、個々で異なるが、表出する「相手」は、各学部である程度段階的に定めることができるのではないか。

・意思を表出する相手は、小学部では家庭や学校などの日常生活の場面を中心に親や担任など、中学部では教科担任制に変わることも踏まえて担任以外の教師や校外学習先などの地域の人、高等部は社会への出口ということで実習先の事業所の人や地域社会の人と考えると良いのではないか。

★今後取り組んでいきたいこと

・伝える力は、国語だけでなく自立活動との関係も深い。国語として何を指導するのかを明確にしておく必要がある。

・教育課程の類型ごとに、各部の到達点を考えていく。

・「身につけてほしい力」と授業作りの関連図は二次元（平面）の構造だが、三次元（立体）の構造も考える必要があるのではないか。そのためには、キャリア教育の全体計画が必要ではないか。

③平成２９年度共通単元・題材一覧表について（補足資料６）

上記の①②の取組を行いながら、学習Ｃ会や教科等部会で話し合いを行い、次年度の共通単元・題材一覧表を作成した。

【国語】以下に示すｉ）～ⅲ）の視点で作成した。

ｉ）実態や発達年齢に即した内容だけでなく、生活年齢に応じた内容（小学校の検定教科書も選定）。

ⅱ）他教科や行事などと関連する内容を選定。

ⅲ）小学部から高等部までの縦のつながりを意識して整理。

【算数】

時期や内容のまとまりは限定せず、年間を通して３つの観点をまんべんなく指導することや、個々の実態に応じて「算数（数学）学習内容一覧」を参考にして指導することを共通理解し、共通単元・題材一覧表は作成しなかった。

児童生徒がより学びやすい配当時数、時間割の検討

①試行期間の設定について

前年度の試行期間の反省で挙がっていた、①国語、算数（数学）を毎日１５～２０分設定する方が児童生徒が学びやすいのではないか、②研究１年次からの各教師の悩みである「自立活動（課題）と国語、算数（数学）の指導内容の重複した部分の整理」などの課題を検討するために、試行期間を以下のように設定して指導することにした。

○期間　　９月～１０月（２か月間）

○方法　　・０．５単位時間×４日の時間割

※残り０．５時間は「自立活動（課題）」の時間に充てる

・月～木曜日の同じ時間帯に設定

※試行期間に入る前に、個々の児童生徒の国語、算数（数学）及び自立活動の指導内容の重複した部分を整理して授業を行った。

	月	火	水	木	金
1	日常				
2	音楽	国語・算数	生活単元学習	図画工作	体育
3	自立活動	生活単元学習	自立活動	国語・算数	自立活動
4	自立活動				
5	日常				
6	自立活動	自立活動	特別活動	自立活動	日常
7	日常				

通常の時間割（例：小学部6年生）

	月	火	水	木	金
1	日常				
2	国語・算数				体育
	自立活動				
3	音楽	生活単元学習	生活単元学習	図画工作	自立活動
4	自立活動				
5	日常				
6	自立活動	自立活動	特別活動	自立活動	日常
7	日常				

試行期間の時間割（例：小学部6年生）

②授業研究会で協議したこと（補足資料５－④）

試行期間に小学部２年生の国語、算数、自立活動の研究授業と授業研究会を実施した。

＜協議の柱＞

○スコアの低い子どもの「国語」「算数（数学）」の目標や評価をどのような視点で分けて考えるか。（グループに分かれて協議を行った）

◆対象とする外界について

・各グループから共通して挙がった意見から、「国語」は、人にどのように気づき関わるか、人を通した学び、人からの働きかけによる反応（気持ちや感情の表出）や変化といった「人」の視点、「算数」は物にどう気づき関わるか、物を通した学び、物や環境への働きかけによる反応（行動や操作）や変化といった「物」の視点からの目標設定や評価を行っていることがわかった。

◆目標の系統性について

・スコアの低い段階では国語、算数（数学）を分けて考えなくてもよいのではないかという意見もある中で、「次に何を教えるか、何をねらうかなどの次の段階や学習内容を見据えて指導する『系統性』をいかに意識できるかが大切である」、「今の段階がどの段階につながっていくのかを共通理解して指導していく必要がある」などの意見が出された。また、「系統性」を意識していくことが、国語、算数（数学）の視点の違いにつながっていくという意見も多かった。

・上記の「人」や「物」の視点や、指導の「系統性」をチェックリストの「段階意義」で考えると、発達初期の「外界の探索と注意の焦点化」から国語は「他者への注意と反応」へ、算数は「物の単純な操作」へと移行していくイメージで整理したグループもあった。

↓

今回の協議は、スコアの低い児童生徒の目標設定や指導内容、評価について深く考える機会となり、今後の教育課程編成に向けた本校の「国語」「算数（数学）」の考え方や、自立活動と教科の捉え等についても整理していくきっかけとなった。

③試行期間の振り返り

各学年で、授業実践を振り返り、その手応えを全体研究で共有して次年度の方向性を検討した。

ｉ）児童生徒の変容

・（児童生徒側）指導を繰り返すことで定着しやすい。
・週４日、同じ内容を繰り返して学習することで、見通しをもち、発声や期待する様子が見られる。
・指導後半の自立活動（課題）では、毎日同じことをするので、見通しをもって取り組めるようになった児童がいる。
・続けて指導することによって、話の理解が深まりやすいように感じる。
・同じスタイルで同じような流れで毎日学習をすることで、児童生徒が学習への見通しを持ちやすくなっている。
・人ではなく、絵本や絵などに注意が向くようになった。他の授業においても、視覚的な教材に注目できるようになってきている。
・動物や食べ物が出てくる絵本が多いので、一学期とのつながりや前単元の復習的な学習にも取り組むことができている。毎日の積み重ねにより、物の名称や言葉が理解できている実感がある。
・毎日繰り返すことで、「あ、昨日この紙芝居見た」「先生のあの声かけ覚えてるぞ」などの期待する姿がすぐに見られるようになった。短時間でも毎日繰り返す大切さを手応えとして感じている。
・国語の絵本は、毎日取り組むことで次の展開への期待感（声を出す、手を伸ばす、笑顔が出る）が得られるようになった。
・国語の「書く」は、毎日取り組むことで、よく見るようになったり、自分で手を動かすようになったりしている。

ⅱ）教師の意識の変容

・毎日指導することで、教師が前日の児童生徒の様子を覚えているので、少しの変化にもすぐに気づくことができる。
・手だての修正をすぐにするようになった。１週間後だと、つい後回しにしがちになっていた。
・児童生徒の理解の程度や変化を把握しやすくなった。→手だての修正につながりやすい。
・自立活動（課題）と国語、算数（数学）の内容を整理をした上で、これまで自立活動（課題）で取り扱ってきた内容も国語、算数（数学）として取り扱い、それを一斉指導と個別指導に分けて試行している。自立活動（課題）の指導内容も国語、算数（数学）で指導できている実感がある。

④次年度の配当時数、時間割の検討

ｉ）外部協力者による研修会の実施

試行期間中に外部協力者の一木薫氏を招へいして全体研修会を実施した。国語、算数（数学）と自立活動の指導内容が重複していることをどう捉えればよいかという話題を中心に助言をいただいた。「教科で扱える内容は、自立活動では扱わない」「指導目標設定に至る手続きが異なるということは、今回の指導目標を達成したときの、次の指導目標（指導の方向性）が異なるということ」などのキーワード等を交えて助言をいただき、各教師が抱える課題を解決するための糸口が少しずつ見つかる機会となった。

ii）次年度の国語、算数（数学）の時数について

試行期間を経て、配当時数及び時間割の在り方について、各学年で話し合った結果を全校研究の場で共有した。各学年から出された意見は以下の内容だった。

小１：４５分の中で国語、算数を分けて週２～３時間指導
小２：合科で指導　４５分　今まで自立活動（課題）で指導していた内容を入れて週４時間
　　短時間で毎日指導する効果はある
小３：国語、算数を分けて指導したほうが良い。スコア４以下の児童生徒は分けなくても良い。
　　今までの自立活動（課題）の内容を入れて５時間
小４：４５分の中で国語、算数を分けて指導　毎日少しでもいいから指導したい
　　他教科とのバランスもあるので、週２～３時間程度。週の中の１回を国語だけをしたらあとの２回は、算数を多めにするなど学年で弾力的にできないか。
小５：４５分の中で国語、算数を分けて指導　週２時間
小６：４５分の中で国語、算数を指導　週２～３時間
中学部：国語、数学それぞれ４５分　週２時間ずつ
高等部：国語、数学それぞれ４５分　週２時間ずつ

iii）自立活動（課題）について

小１、小２：自立活動（課題）の指導内容は、ほぼ国語、算数で指導できるものだった。自立活動（課題）という枠組みはなくて良いのでは。
小３：自立活動（課題）の指導内容は、ほぼ国語、算数で指導できるものだった。自立活動（課題）という枠組みはなくしていいのでは。その児童生徒によって国語、算数で扱えない内容は、自立活動（課題）という枠組みではなく、自立活動として指導する。
小４：自立活動（課題）の指導内容は、ほぼ国語、算数で指導できるものだった。国語、算数で指導できない内容で個々に必要なものと考えられる指導内容は、自立活動で指導する。（基礎、応用、課題の枠組みをはずした自立活動の時間に）
小５：国語、算数の時間に指導できない内容を自立活動の時間に指導する。手指の操作に関する内容は算数でも指導できるが、個々で必要と考えられる内容は自立活動の時間にも指導する。
小６：自立活動（課題）の指導内容は、国語、算数で指導できるものが多くあった。例えば、教師とのやりとりや見え方などをねらった型はめの学習は、自立活動の指導として取り扱いたい。
中学部：自立活動（基礎）、自立活動（応用）、自立活動（課題）の枠組みがあるため整理が難しかった。
高等部：自立活動（課題）の指導内容は国語や数学で指導できるものが多くあった。しかし、自立活動として扱いたい内容もあった。

⑤平成２９年度の国語、算数（数学）及び自立活動の配当時数

各学年の意見の集約を基に、教育課程委員会に資料として提案し、以下のように決定した。

●自立活動２時間を国語、算数（数学）に変更する　〈各学年国語、算数（数学）計４時間に〉
●自立活動（基礎）、（応用）、（課題）の枠組みをなくし、「自立活動の時間における指導」と捉える。

		現行		29年度	
学年	全授業時間	国語、算数(数学)	自立活動	国語、算数(数学)	自立活動
小1	26	1	9	2	8
小2	27	2	9	3	8
小3	28	2	10	3	9
小4	29	2	11	4	9
小5	29	2	11	4	9
小6	29	2	11	4	9
中学部	32．5	2	11	4	9
高等部	33．5	2	10	4	8

平成２.９年度の国語、算数（数学）及び自立活動の配当時数

Ⅳ　成果と課題

１　取組の成果

本研究では、「実施したカリキュラム」の中で児童生徒が「達成したカリキュラム」の評価を行い、自立活動を主として学ぶ児童生徒の教育内容として国語、算数（数学）の在り方について検討を重ねてきた。全校研究では、研究授業やグループ研究など様々な課題について考えたり、全職員の合意形成を図ったりする場を設定した。また、各教師が日々の授業において検討する学習クラス会や、小学部から高等部までの教師が縦割りで各教科等について検討する教科等部会などの会議と全校研究とを連動させることができた。それぞれの場で合意形成を図った資料が教育課程委員会へ提案する流れが構築でき、個々の教師の授業実践が教育課程編成につながるという、まさに「カリキュラムマネジメント」の視点で自校の教育課程を検討できたことは大きな成果である。以下、研究の成果の詳細を述べる。

（１）教育内容の検討について

本校では、自立活動を主として学ぶ児童生徒に対して国語と算数（数学）を自立活動に替えて指導していた。しかし、知的障害特別支援学校の各教科の１段階の内容を学ぶ児童生徒のより細かいものさしとなる「学習到達度チェックリスト」を活用して授業実践を行うことで、教科としての指導の手応えを感じることができた。教科として指導することは、育みたい力を意図的系統的に育むことができ、生活年齢に応じた文化に触れさせることができるなどのメリットを見出し、国語と算数（数学）を教育内容として位置付けることができた。

国語と算数（数学）の検討をする中で、自立活動の指導の在り方についても見直すことができた。各教師がそれぞれの目標設定のプロセスの違いを理解したことと、教科でできることは自立活動では扱わないという基本的な考え方を基に、自立活動の（基礎）（応用）（課題）の指導形態の枠組みをはずし、自立活動という枠組みで捉えることができるようになった。このことで、今まで自立活動に替えていた国語、算数（数学）を教科として指導する有効性を実感し、各学部２時間分の自立活動の時間を教科として取り扱うようになった。また、「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の適用の意図を各教師が説明できるようになったのではないかと考える。

（２）授業実践と年間指導計画（共通単元・題材一覧表）作成について

国語、算数（数学）を教育内容として位置付けた平成２８年度は、各教師が「教材一覧」の作成を行いながら授業実践を行った。１つの単元で各教科のどの内容を扱うか、児童生徒の目標とする姿はどんな姿か、その目標達成に必要な指導内容や教材・教具は何か、授業展開や個々への手だてはどうあるべきかをなどについて検討してきた。授業研究会においても、本校の国語、算数（数学）の捉えについて協議した結果を教科等部会に反映させ、小学部段階から高等部段階を系統的に見て、どのような指導内容が必要で、そのために必要な教材・教具等を選定すると良いかを検討することができた。データとしてはまだ１年間分しかないので、今後も授業実践とともに内容や量を充実させて蓄積していきたい。

＜授業作りへの意識の変容について＞

昨年度末に実施したものと同様の書式で、今年度の教師自身の授業実践を振り返ってもらうアンケートを実施した。昨年度末は、２（４）教材、教具の選定と（５）同単元異目標の授業作りが難しいと答えた教師の割合が多かったが、１年間の実践を通してその改善が見られている。

児童生徒に関わる教師間で、「教材一覧」の項立てに示した視点（「目標とする姿」「扱う教材、教具とその特徴」「授業展開で考えられるスコアごとの行動」「授業展開の方法」）をもって、授業を検討できたことが有効だったと考える。

質問項目	できた	まあできた	少し難しかった	難しかった
１　個別の指導計画作成について				
（１）実態把握	１５	６９	１３	３
（２）目標設定	６	６３	２８	３
（３）評価	９	７２	１３	６
２　授業作りについて				
（１）単元における目標設定	９	６９	１６	６
（２）指導内容の設定	９	６６	２２	３
（３）手だての設定	９	７５	１３	３
（４）教材、教具の選定	６	６９	２２	３
（５）同単元異目標の授業作り	９	６３	１９	９

★国語、算数（数学）の授業作りに関するアンケート結果（H29.1.6～1.13 実施）

（４）個々の授業と教育課程編成のつながりについて

年度当初に「教育課程改善計画」を作成、配付して個々の教師の授業実践が教育課程編成につながることを視覚化して示した。提示した計画に基づいて、各教師、分掌部等のつながりを意識しながら学校一丸となって計画的に遂行することができた。トップダウン的な教育課程編成ではなく、個々の教師の授業実践を行った評価を次年度の教育課程に反映するシステムが非常に有効であり、教育課程の議論に積極的に取り組む教師の割合が増えてきている。

２　今後の課題

（１）個々に応じた目標設定と評価について

取組の成果にも述べたが、この１年間で各教師はおおむね国語、算数（数学）の指導に手応えを感じていることがわかった。しかし、まだ個に応じた目標や指導内容及び手だての設定、教材の選定などを吟味する余地は大いにあるので、更なる授業実践の蓄積が必要である。また、アンケート結果の数値には表れてこなかったが、日々の授業の中で、できるようになったことだけに目を向けがちであり、そのことをどう生活の中で使うか、関心・意欲・態度がどう変化したかの視点での評価ができていない現状がある。このことは校内で学習評価の考え方についての整理が未だなされていないことによるものである。実態把握や目標設定と併せて、次時のまたは次単元の指導につながる学習評価の在り方を検討する時期だと考える。

検討に際しては、次期学習指導要領に示される育成すべき資質・能力の三つの柱「何を理解しているか、何ができるか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか」に沿った学習評価「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の視点を踏まえて検討を行い、自立活動を主として学ぶ児童生徒の学習評価の在り方を整理していきたい。

（２）卒業後の生活を見据えた教育課程の編成について

今まで本校の児童生徒は中学部卒業後、他校の高等部に進学していたが、平成２８年度に高等部が開設されたことで、本小学部から高等部まで一貫した教育を受けることが可能になった。このことで今後以下の２点について検討が必要である。

①「卒業までに身につけてほしい力」を指標にすること

今年度の授業研究会で話題になった本校における国語や算数（数学）の捉えと関連して、卒業までに身につけてほしい力を踏まえ、各学部段階でどこまでの力を育むとよいかの検討がまだ十分でないことは課題である。今後、本校で作成している１６項目の「身につけてほしい力」を踏まえた授業作りや教育課程編成を重点的に取り組んでいきたい。

②卒業後の児童生徒の姿を教育課程編成に還元する仕組み作り

自立活動を主として学んだ児童生徒が、卒業後におそらく利用すると考えられる生活介護事業所とのつながりが大事である。そのためには、卒業後の姿を本校の教師が知ることが重要である。今年度まで「教育課程改善計画」に進路指導部の位置づけを明らかにしていなかったが、次年度からは進路指導部も位置付けて一緒に教育課程を検討する仕組み作りをしていきたい。

以上の点を踏まえ、１２年間の学校教育の中で児童生徒が「何ができるようになるか」「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、特別支援学校ならではの「カリキュラムマネジメント」の在り方を追究していきたい。

Ⅴ　訪問教育の研究

１　研究テーマ

「学校教育目標の実現に向けた教育課程の改善と指導の充実」
～自立活動を主とした教育課程における教科指導の実践を通して～

２　研究の方針

２７年度の訪問教育の研究では、「音楽」「図画工作（美術）」などの指導を、各教科等を合わせた指導「生活」として行った。単元や活動ありきではなく、各教科の内容を単元の中に盛り込んで構成し、単元期間を２か月としたことで、繰り返し学んだり、意欲を持たせながら授業を展開したりすることができた。また、学習到達度チェックリストやコミュニケーション発達評価シートなどの客観的な尺度を用いて目標設定や評価をすることは、指導の系統性の担保につながった。

２８年度に取り組むべき課題は

①各教科等を合わせた指導を行う際に、教科の偏りがないように必要な学習内容を年間を通して配列して実践したが、目標を達成できたかの検証には至らなかった。そこで生活単元学習の単元配列や学習内容について検討をする。

②「音楽」は「生活」と合わせることが難しく、指導できなかった題材がある。

③児童生徒によって「生活」の学習内容に差異やあいまいさがあるので、単元ごとの学習内容を明らかにする必要がある、また目標の達成に至らなくても、何を学び、どのような学習の芽生えがあったかなどを履歴として残す必要性がある。

という課題が挙がった。以上①～③の課題を解決することでより良い訪問教育の教育課程の在り方を検証する。＊２７年度の「生活」は２８年度より「生活単元学習」に名称を変更した。

３　研究の実際

（１）「生活単元学習指導内容表」の作成

上記②③の課題解決のために、通学生に授業を行う際に作成している指導内容表を元に、訪問教育においても「生活単元学習指導内容表」を作成することとした。ねらいをもって指導する教科が何であるかを明らかにすることで、目標に対する評価が明確になり、課題①の解決につながるのではないか、また、何を学んだかの履歴になるのでないかと考えた。

（２）「音楽科指導内容表」の作成

音楽の学習内容を他の教科等と合わせるのが難しいのであれば、教科別の指導ができないかと考え、「音楽科」の指導内容表を作成し、授業を行いながら検証することとした。

（３）「生活単元学習題材一覧表」の作成

訪問教育１２年間を通して何を学ぶのか、小学部、中学部、高等部の系統性について考える必要がある。そこで、小学部から高等部までの１２年間の単元配列を並べて比較することで、単元の発

展性や系統性、配列などについて検討し、「生活単元学習題材一覧表」を作成した。

4　成果と課題

（1）「生活単元学習指導内容表」の作成を通して

生活単元学習の指導内容表を作成することで、知的障害特別支援学校小学部の教科「生活」を中心に合わせて指導する他の教科等の内容を明らかにし、単元でねらう具体的な目標を立てて指導を行うようにした。

指導内容表を作成することで、生活単元学習は主に「生活」、「図画工作（美術）」「国語」「算数（数学）」の教科の内容や目標で指導していることが見えてきた。

また、訪問教育の児童生徒は、入院や体調不良、家庭の都合などで欠席が続いた場合、教育課程にある題材や学習内容を履修できないことが少なからずある。そのため、何が履修できて何ができていないのかを単元終了後に指導内容表に書き加えることで、学びの履歴として活用できる見通しが持てた。（資料①）

（2）「音楽科指導内容表」の作成を通して

「音楽」は教科別の指導を行うことで、生活年齢に即した音楽との出合いをさせることができた。今まで聞いたことがなかったクラッシック音楽に興味を示す児童生徒がいたり、居住地校交流やスクーリングで同じ題材を学んだりすることができた。保護者も子どもの興味が広がったことを喜ばれていた。

１年間の試行を経て、音楽については、通学生同様に当該学年の教科書や☆本から題材を選んで学べる可能性を感じた。このことにより、スクーリングや居住地校の児童・生徒と同じ題材を学べる良さや１２年間を通して幅広いジャンルの音楽に出会えるなどのメリットが考えられる。２９年度も実践を重ね、３０年度の教育課程編成時にそれらの成果を教育課程に反映させていきたい。（資料②）

（3）「生活単元学習題材一覧表」の作成を通して

２８年度の生活単元学習題材を小学部から高等部まで並べてみると、１２年間同じ単元名が続く表記があった。実際の授業では、生活年齢を考慮して単元を構成していたが、各学部に合った単元名に変更した。また、卒業後に向けた進路学習を計画的、系統的に行うために、中学部と高等部に「進路について知ろう」「進路について学ぼう」の単元を設定した。学部が上がるごとに、学習内容に発展性をもたせるような表記を心がけたが、まだ十分に検討はできていない。

生活単元学習は体験から学べる良さや、繰り返し学ぶことで児童生徒の変容や成長、学びの深まりや広がりが見える指導形態である。このことを踏まえつつ、単元が生活年齢に合った学習内容であるか、「生活」の１２の観点を考慮した単元配列になっているか、教科別の指導を行える可能性はあるかなどについても２９年度の実践を通して検証を行い、共通理解を図りたい。

訪問教育の授業時間数や児童生徒を取り巻く環境などを十分に考慮しつつ、通学生の教育課程や研究の取組を参考にしながら継続して教育課程の在り方を検証していきたい。（資料③）

小５訪問教育「生活単元学習」指導内容表

資料①

単元名	単元の時数
秋をさがそう①（7回）	１２単位時間（9/・7・8・14・15・21 28・29）

○本単元でねらう具体的な目標

①秋の野菜や果物を切ったり、皮をむいたりすることを通して自然や季節に興味をもつ。

②素材の断面の模様に興味をもって、紙に押したりすることができる。

○関連する知的障害特別支援学校の各教科の内容

【生活科】

「手伝い」

１段階（６）　教師と一緒に簡単な手伝いや仕事をする。

「いろいろな遊び」

１段階（３）教師や友達と同じ場所で遊ぶ
＜いろいろな遊び＞

＊【図工】

「造形遊び」１段階（１）かいたり、つくったり、飾ったりすることに関心をもつ。

●身につけてほしい力
○見たり聴いたりする力
○興味関心を拡げていく力
○余暇を楽しむ力

○学習内容

○秋の果物や野菜を知る。 （なし・ぶどう・~~かぼす・りんご・しそ~~など） （たまねぎ・かぼちゃ・芋を追加）	・絵本やスライドで果物の写真を見たり、話を聞いたりする。
○~~はてなボックスに手を入れて~~（見えないように果物に布をかけたままで触り、何の果物や野菜かを当てる。	・「おいしそう、丸い、ざらざらしてる」など触れた感覚を言葉で説明するようにする。
○出てきた果物を触ったり、皮を剥いたり、絞ったりする。 切って見るだけではなく、いもやかぼちゃは加熱したり、熱いままで手でつぶしたり、匂いをかいだりした。また、簡単な調理につなげ試食を行った。食べ物への興味があり、意欲的な学習につながった。	・衛生面や安全面に留意しながら、簡単な道具を使って皮を向いたり切ったりする。 ・断面や手触り、匂いや色に注目させる。 ・できるだけ、目線と手元が合うようにする。 ・形状や色の変化、感触など、手で触れて感じられる様にする。
○~~ぶどうの皮や花などを使って簡単な染色をする~~（欠席のため秋をさがそう②でたまねぎで実施）	~~・皮が煮える様子や色が変わる様子などに注意が向けられるように提示の仕方を工夫する。~~
○果物や野菜の断片でスタンプをして絵を描く。	・補助具を用いてできるだけ自分で押せるようにする。

○評価規準　◎できた　○おおむねできた　△難しかった　×履修できなかった

○教師や提示された物に視線を向けたり、注意を向けて見たり、手を伸ばしたりすることができたか。○
○自ら手を伸ばしたり表情を変えたりして、触ったり、切ったりする過程を楽しむ様子が見られたか。○
○手元に目線を向けて教師と一緒に素材に触れたり、道具をつけた右手を積極的に動かすことができたか。○

小５訪問教育「音楽」指導内容表

資料②

単元名	学習指導要領の内容
いろいろな音色を感じ取ろう（９・１０月）（８回）	（１）音楽が流れている中で身体を動かして楽しむ。（小学部１段階） （２）音の出るおもちゃで遊んだり、扱いやすい打楽器などでいろいろな音を鳴らして楽しむ。（小学部１段階）

○本単元でねらう具体的な目標

①曲を聴きながら手を振ったり音や、曲に注意むけたりすることができる。
②楽器に手を伸ばそうとしたり、音への気づきを表現したりすることができる。
③教師一緒に、身体を動かしたり、聴いたりする中で、音楽の心地よさや楽しさを感じる。

○関連する自立活動の内容

人間関係の形成く人や物との関係（二項～三項関係）
3．音のする方や物を見たり、注意を向けたりすることができる。
8．欲しい物に手を伸ばすことができる。
11．両手に握った玩具を打ち合わせて楽しむことができる。
関連：環境の把握（感覚〈体性感覚〉）13
16.身近な人に声やしぐさで要求をすることができる。
人間関係の形成く人や物との関係（集団活動への参加）
環境の把握（感覚〈聴覚〉）
1．大きな音や声で目の動きや動作を止めるようにして反応する。
2．大きな音に不快気に反応する。
4．名前を呼ばれたり話しかけたりすると反応することができる。
5．音源が認知でき、音のする方向へ顔を向けることができる。
6．音を出す玩具を喜ぶ。
7．身近な人の声を聞き分けて反応することができる。
8．静かな音に興味を示すことができる。
身体の動き（上肢の操作）
2．目的のものに手を伸ばすことができる。
4．手や持っているもので机や台をたたくことができる。
1．　7．両手を合わせて拍手ができる。
コミュニケーション（表出〈発声・発語〉）
2．不快なときに違う泣き方や不快な表情を表すことができる。
3．嬉しいときに快の表情を表したり、一人笑いをしたりすることができる。
4．気に入らないと「うーうー」などの声を出して怒りを表すことができる。

6

○身につけてほしい力
・見たり聞いたりする力
・興味関心を拡げる力
・身近な大人と関わる力

○学習内容

○「♪ゆりかごのうた」 ○「♪子もり歌」（歌唱）	・薄暗い中で、人形をあやしたり、身体をトントンされながら歌を聴いたり、歌ったりする。
○「♪静かに眠れ」（歌唱）	・映像を見ながら聴いたり、歌ったりすることで曲のもつイメージや雰囲気を感じる。 「静かにねむれ」は歌唱をすると同時に器楽でも扱った。キーボードに補助具をつけ、和音をならすことができた。
○「♪真っ赤な秋」 ○「♪こげよマイケル」	・紅葉した葉を手にとったり、赤い布を見たりしながら曲のもつイメージをもつ。 ・曲の終わりで動きを止める。
○「♪キリマンジャロ」（器楽）	・楽器の名称や楽器の音色を知る。 「キリマンジャロ」は欠席のため、鑑賞のみで器楽まで深められなかった。 ~~・縦笛の音を鳴らしてみる。~~ ~~・教師の援助や補助具を使って自分で手を動かして音を鳴らす。~~
○「♪威風堂々」（鑑賞）	・教師がタクトを振ったり、タクトを持たせて、感じたとおりに振ったりしながらく。

○評価規準　◎できた　○おおむねできた　△難しかった　×履修できなかった

・手を振ったり、身体を動かしたりすることできたか。◎
・曲や楽器の音を聴いて、顔や視線を音のする方へ向ける表情を変える、手を伸ばそうとすることができたか。○
・曲を聴いて手足や身体を動かしたり、表情を変えたり、表情をゆるませたりすることができたか。◎

資料③

自立活動を主とした教育課程　【生活単元学習】　～学習発表会バージョン～

訪問教育部

学年（週時数） ＼ 月（週数）		4（3）	5（3）	6（4）	7（2）	9（4）	10（4）	11（4）	12（3）	1（3）	2（3）	3（2）	年間総時数
小学部	1年	【春を感じよう】 ・外気浴 ・春の草花 【植物を育てよう】 ・あさがおの種まき ・土遊び ・水やり 【ありがとうのきもち】 ・私と家族 ・家族への贈り物 絵本の読み聞かせ		【夏の遊びをしよう】 ・水遊び（泡遊び） ・風遊び ・冷たい食べ物・飲み物 【校外学習に行こう】 ・公共施設の利用 ・出会った人との関わり ・事前・事後指導		【学習発表会をがんばろう】 ・お話 ・役割（せりふ・動き） ・小道具作り 【私の住む町】 ・自宅周辺の散策 ・町の行事 ・町で見つけた秋 【おくんちに行こう】 ・演し物 ・お囃子 ・事前事後指導		【秋を感じよう】 ・外気浴 ・秋の木の実や落ち葉 ・秋の食べ物 【お正月をむかえよう】 ・もちつき ・年賀状作り ・行事の食べ物		【冬の遊びをしよう】 ・書初め ・わらべ歌あそび ・光遊び 【鬼遊びをしよう】 ・お話 ・豆まき ・鬼ごっこ 【卒業を祝おう】 ・卒業生への贈り物 ・式歌の練習			
	2年	【春を感じよう】 ・外気浴 ・春の草花 【植物を育てよう】 ・ひまわりの種まき ・土遊び ・水やり 【ありがとうのきもち】 ・私と家族 ・家族への贈り物 絵本の読み聞かせ		【夏の遊びをしよう】 ・水遊び（泡遊び） ・風遊び ・冷たい食べ物・飲み物 【校外学習に行こう】 ・公共施設の利用 ・出会った人との関わり ・事前・事後指導		【学習発表会をがんばろう】 ・お話 ・役割（せりふ・動き） ・小道具作り 【私の住む町】 ・自宅周辺の散策 ・町の行事 ・町で見つけた秋 【おくんちに行こう】 ・演し物 ・お囃子 ・事前事後指導		【秋を感じよう】 ・外気浴 ・秋の木の実や落ち葉 ・秋の食べ物 【お正月をむかえよう】 ・もちつき ・年賀状作り ・行事の食べ物		【冬の遊びをしよう】 ・書初め ・わらべ歌あそび ・光遊び 【鬼遊びをしよう】 ・お話 ・豆まき ・鬼ごっこ 【卒業を祝おう】 ・卒業生への贈り物 ・式歌の練習			
	3年	【春を感じよう】 ・外気浴 ・春の草花 【植物を育てよう】 ・身近な野菜の種まき、苗植え ・土遊び ・水やり 【ありがとうのきもち】 ・私と家族 ・家族への贈り物 絵本の読み聞かせ		【夏の遊びをしよう】 ・水遊び（泡遊び） ・風遊び ・冷たい食べ物・飲み物 【校外学習に行こう】 ・公共施設の利用 ・出会った人との関わり ・事前・事後指導		【学習発表会をがんばろう】 ・お話 ・役割（せりふ・動き） ・小道具作り 【私の住む町】 ・自宅周辺の散策 ・町の行事 ・町で見つけた秋 【おくんちに行こう】 ・演し物 ・お囃子 ・事前事後指導		【秋を感じよう】 ・外気浴 ・秋の木の実や落ち葉 ・秋の食べ物 【お正月をむかえよう】 ・もちつき ・年賀状作り ・行事の食べ物		【冬の遊びをしよう】 ・書初め ・わらべ歌あそび ・光遊び 【鬼遊びをしよう】 ・お話 ・豆まき ・鬼ごっこ 【卒業を祝おう】 ・卒業生への贈り物 ・式歌の練習			

＜参考文献＞

・特別支援学校学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）
・特別支援学校学習指導要領海瀬津　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）
・実践・カリキュラムマネジメント　　田村　知子　編著　ぎょうせい
・新重複障害教育実践ハンドブック　　社会福祉法人　全国心身障害児福祉財団
・障害の重い子どもの目標設定ガイド　徳永　豊　編著　　慶應義塾大学出版社
・自立活動の理念と実践　　古川　勝也・一木　薫　編著　　ジアース教育新社
・重度・重複障害児の対人相互交渉における共同注意　コミュニケーション行動の基盤
徳永　豊　　慶應義塾大学出版会株式会社

補　足　資　料

○国語、算数（数学）シート	補足資料１
○国語、算数（数学）学習内容一覧	補足資料２
○自立活動　個別の指導計画書式	補足資料３
○教材一覧	補足資料４
○研究授業指導案等	補足資料５ （５－①、５－②、５－③、５－④）
○国語科共通単元・題材一覧	補足資料６

学部　　年　　名前

＜学習指導要領＞　　★国語：１段階　　★算数：１段階

表１　スコアと根拠となる行動、目標のために手がかりとなる行動シート

教科	観点	ｽｺｱ	スコアの根拠となる行動とは	段階意義	手がかりとなる行動	ｽｺｱ	段階意義
国語	聞くこと（受け止め、対応）	8	・名前を呼ぶと振り向く。	・言葉への応答	・言葉による簡単な要求に応える	１２	・言語指示への応答
	話すこと（表現、要求）	4	・名前を呼ばれると発声はなくても、必ず笑顔になる。 ・人を呼ぶとき「オイ」の発声が見られる。	・他者への注意と反応 ・発声	・大人の真似をして、アーウーなど声を出す ・顔の表情を真似する	6	・音声や表情の模倣
	読むこと（見ること）	4	・教師が、教室内を動き回ると正確ではないがその動きを追って見ようとする。	・他者への注意と反応	・おもちゃの車や転がるボールを目で追う	6	・注意の追従
	書くこと（操作）	6	・マラカスを持たせると自分で振って鳴らすことができる。	・物のやや複雑な操作	・目の前のおもちゃに手を伸ばしてつかむ ・「どうぞ」と物をあげると受け取る	8	・探索的操作 ・物を介したやりとりの芽生え
算数	数と計算	8	・「いっぽんばしこちょこちょ」が終わり「もう一回する？」の問いに笑顔で答える。	・活動と結果のつながりへの気づき	・「こっちとこっち」と物を示すとそれらを見る（△の行動）	8	・弁別の芽生え
	量と測定	6	・スイッチ（ジェリービーンズスイッチ）を押しながらパソコン画面を見ることができる。	・物のやや複雑な操作	・２つの物からお気に入りのものを選ぶ	8	・弁別の芽生え
	図形	6	同上	同上	・大人の援助でおもちゃをカップに入れたり出したりする	8	・探索的操作

表２　目標・指導内容・方法等　シート

教科	観点	具体的な目標	指導内容・方法	現行の教育課程における指導場面	
				自立活動「課題」	その他の場面
国語	聞くこと（受け止め、対応）	・「ちょうだい」「おいで」「とって」など簡単な要求に答える。	○簡単でリズミカルな絵本の読み聞かせ ○簡単な身振り模倣 ・話の中の簡単な行動を教師と一緒にする。 ・次のセリフ（発声）を促すような読み方をする。	○絵本の読み聞かせ ・「ごあいさつあそび」「ノンタン」シリーズを教師と一緒に見たり、ページをめくったりする。 ・「こんにちは」「いただきます」「バイバイ」などの動きをする。	○生活：「絵本に親しもう」
	話すこと（表現、要求）	・教師の簡単な言葉や身振りを真似する。			○朝の会：呼名の場面 ※音楽、体育：身体表現
	読むこと（見ること）	・物や手元を見ながら、積み木などを倒す、つまむ、入れるなどの操作ができる。	○積み木積み、積み木倒し ・大人が積んでいる様子を見せた後、本児に倒すよう指示をする。 ○容器へ物を入れる。 ・小さい穴を見て入れる。	○積み木積み、積み木倒し ・大人が積んでいる様子を見せた後、本児に倒すよう指示をする。 ・掴みやすいサイズの積み木を使用。 ○容器へ物を入れる。 ・丸い球を丸い穴の中に入れる。穴は、やや負荷をかけると入るサイズにする。	○朝の会：絵カード等を見る
	書くこと（操作）				※図画工作：素材に触れる、道具の操作 ※音楽：楽器の演奏
算数	数と計算	・２つの具体物や絵カードの中から、自分のしたい（ほしい）ものを１つ選ぶことができる。	○２つの具体物や絵カードからの選択 ○具体物の弁別 ・身近な物を仲間分けする。	○２つの身近にある具体物から選択 ・水筒、タオル、歯ブラシの中から「～ちょうだい」と教師が声をかける。 ○好きな活動の写真カードを選択して教師と一緒に活動する。 ・絵本、シャボン玉、ふれあい遊び（教師の写真）等の中から選択。	○朝の会：具体物、絵、写真カードの選択 ○給食等様々な生活場面 ：自分の食べたいものや欲しいものなどを選ぶ
	量と測定				
	図形	※「読むこと」「書くこと」と同じ	※「読むこと」「書くこと」と同じ	※「読むこと」「書くこと」と同じ	※「読むこと」「書くこと」と同じ

国語　学習内容一覧　　☆（星）マークは知的教科の具体的内容

60	予測や見通しをもって行動、役割を意識した協同遊び、自然や文字などへの興味	・物語などを聞いて、おおよその内容がわかる。（☆☆☆） ・特定の教師との簡単な言葉によるやりとりの中で、次の場面を見通して行動したり発言したりする。 ・教師の簡単な質問の意味を理解して、身振りや言葉で応えることができる。	・話を終わりまで注意して聞いたり、わからないときは聞き返したりする。（☆☆☆） ・見聞きしたことや、経験したことのあらましを家の人や教師などに話す。（☆☆☆） ・「わたしは　〇〇が　したいです。」など簡単な言葉を使って、これまでの経験を踏まえながら話す。 ・「鉛筆とは何ですか？」の質問に「字を書くもの」と用途を考えて答える。	・平仮名で書かれた語句を読む。（☆☆） ・絵の中から、部分の差異、色の違い、大小、方位の差異、部分の欠如などを見つけ、同じものを探す。（☆☆） ・知っている単語や写真を使って、簡単な要求を伝えたり教師の質問に応えたりする。 ・文字の形から１０個程度のひらがながわかり、読むことができる。	・鉛筆などを正しくもち、正しい姿勢で書く。（☆☆） ・文字で自分の気持ちや様子が伝わることを知り、簡単なお手紙や日記を書く。 ・平仮名を使って、自分の名前を書く。
48	物の特性の理解と目的をもった遊びや行動、決まりへの気づき	・短い時間であれば、お話を終わりまで静かに聞く。（☆☆☆） ・「赤いボールをここに入れて」「カードを１枚〇〇くんに渡して」などの４語文の要求や指示に応じる。 ・簡単なやってはいけないことがわかる。	・幼児語を使わないで話す。（☆☆） ・教師や友達の名前を言う。（☆☆☆） ・「昼休みにブランコで遊びたい」「ごはんを全部食べた」などの３語文を使って、考えや出来事を人に伝える。 ・「僕たち」「私たち」などの規則的な複数形を正しく使う。 ・現在、過去、未来の出来事や経験に関して、簡単な語句や文章で伝える。	・自分の名前の文字がわかる。（☆☆） ・馴染みの本を大人が読む途中で止まると、次の単語を埋める。 ・文章は右から左へ、上から下へという読み方の決まりがわかる。 ・ページは順番に等、読むための決まりごとを理解する。	・文字を書くことに興味をもつ。（☆☆） ・文字をひとまとまりにし言葉を作る。 ・別の単語を書くために、間隔をあけて、空白を取る。 ・模倣しながら横線をひく。
36	身辺自立、質問の増加、自己主張・拒否の明確化、友達との関わりの増加（平行遊び）	・小グループの活動で、「みんなで〇〇するよ」の指示に従う。 ・自分で「～していいか？」と質問し、「いいよ」「だめ」を聞き分けて行動する。 ・「赤いボールをちょうだい」「カードを〇〇くんに渡して」などの３語文の要求や指示に応じる。 ・「〇〇をください」「〇〇を持ってきて」「〇〇へ行きます」など、学校生活全般において、身近な物事に関する指示を理解し、行動する。	・自分の経験したことや見聞きしたことを教師などに簡単な言葉で話す。（☆☆） ・簡単な伝言をする。（☆☆） ・友達と一緒に、簡単なセリフのある劇をする。（☆☆） ・身近なものや興味のあるものの名前を言う。（☆☆☆） ・自分から簡単な挨拶や会話を始める。 ・「だれ」「なに」「どこ」などを言葉やサインで相手に伝える。 ・「中に」や「上へ」といった前置詞や「私の」や「それ」といった代名詞を使う。	・自分の名前を大体区別する。（☆） ・絵本などに出てくる平仮名に関心をもつ。（☆） ・身近な生活の中で、しばしば目に触れる標識、看板、広告などに関心をもつ。（☆☆） ・絵本などに出てくる平仮名に関心をもつ。 ・「だれ」「なに」「どこ」などの言葉やサインの理解をする。	・点線の上をなぞって書く。（☆☆） ・簡単な図形をまねて書く。（☆☆） ・始点を示すと、それらしく〇を書き、終点に戻る。 ・点と点を結び、縦と横の線を書く。 ・白紙に縦の線を書く。 ・身近な人の名前や物の名称と平仮名のマッチングをする。
24	食事、着替えの部分的身辺自立、語彙の増加、自己主張と拒否の芽生え、ごっこ遊び、他児への興味	・立つ、座る、集まる、歩くなどの簡単な指示が分かる（☆） ・簡単な童話、放送などを楽しんで聞く。（☆☆） ・「だれ～」「なに～」「どこ～」などの簡単な質問に答える。 ・２語文の要求や質問に答える。 ・「だれ」「なに」「どこ」などの簡単な質問に指さしで答える。 ・絵を手掛かりに好きな絵本を読んでもらって楽しむ。	・自分の名前を言う。（☆☆） ・要望などを言葉で伝える。（☆☆） ・ごっこ遊びをしながら、教師や友達と言葉のやりとりをする。（☆☆） ・「〇〇をちょうだい」と要求する。 ・「〇〇さんおいで」と身近な人を呼ぶ。 ・１０以上の単語を使って話す。	・靴箱、帽子掛けなど自分の印がわかる。（☆） ・３つの絵の中から指示されてボールなどを指さす。 ・靴箱、ロッカーなどの自分の印がわかる。 ・２つのシンボルから一つを選択する。 ・自分の名前カードを選ぶ。	・軽く手を添えると形や簡単な文字をなぞる。 ・形や直線パターンをなぞる。 ・絵やシンボルなどのマッチングをする。
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
18	言葉の意味理解、意図の理解と共有、要求の明確化、見立て活動の芽生え	・身近な具体物の名称がわかり、２つの中から言われたものを選択する。 ・２つの具体物や絵カード（身近な具体物の）から指示されたものを選択する。 ・「〇〇はどっち」の問いに２つの具体物から選ぶ。	・教師や友達の動きを見て、相手を意識しながら模倣する。（☆） ・教師などの話しかけに応じ、音声や簡単な言葉で表現する。（☆） ・絵本を見たり読んでもらったりして、その内容について身振りや音声、簡単な言葉で表現する。（☆） ・簡単なごっこあそびをしながら自由に話したり聞いたり	・何の絵か、見てわかる。 ・教師や友達のしぐさを真似る。 ・欲しい物があると物と教師を交互に見て要求を伝える。	・図形や柄などの異同がわかる。（☆） ・いろいろな用具を使ってなぐり書きをする。（☆） ・〇や△の型の中を塗りつぶす。 ・紙を丸める。

			する。（☆） ・友達からの働きかけや呼びかけに応じる。（☆） ・要求をする際に「お願い（ちょうだい）」と言う。		
12	言語指示への応答、相互的なやりとりの拡大、発語、手指の巧緻性、移動	・教室などで話をする人の方を見て聞く。（☆☆） ・絵本の読み聞かせで、話の中の簡単な行動を教師と一緒にする。 ・言葉の繰り返しの面白さやリズム感などを楽しみながら絵本を読んでもらう。 ・自分の名前を呼ばれると、手を挙げたり声を出したりして返事をする。	・自分の名前を呼ばれると返事をする。（☆） ・教師と一緒に手を合わせる、挙げる、振るなどの簡単な身振りをする。 ・欲しいものやしたいことを指さしで要求する。 ・絵本等に出てくる言葉を教師と一緒に真似る。	・教師が指差した方向や見た方向を見る。 ・短い単純な話の絵本を、やりとりしながら教師と一緒に最後まで見続ける。	・持ち手が太いクレヨン等で紙の上に自由になぐり書きをする。 ・絵描き歌などに合わせ教師と一緒に手を動かして線を書く。 ・細かいものを親指と人差し指でつかんで、容器から引き抜いたり入れたりする。
8	言葉への応答、物を介したやりとりの芽生え、音声や身振りによる働きかけ、活動と結果の理解、探索的操作、姿勢の保持・変換	・「いけない」と言われたことがわかる。（☆） ・自分の名前を呼ばれたことに気づき、表情を変える、声を出すなどする。 ・繰り返しのやりとりの場面で、特定の言葉を理解して行動する。	・絵本の中の言葉の一部を、教師の言葉に合わせ得意な発声で声を出す。 ・生活の中でよく使う言葉を言いやすい言葉に置き換えて伝える。 ・身近な言葉を使用した本などを見て、その言葉に気づいて音声や身振りで表出する。	・教師が指した絵などを見ることができるように、視覚的に捉えやすい、はっきりとした絵本を見る。 ・目の前の教師や友達の活動に注目できるように、教師の師範を見たり、友達の様子を見たりする。 ・隠れた物の中から物が出てくるのを予測して見る。 ・絵本などの一部を指さしたところを見る。	・片手で持てる物を使って、教師から受け取ったり教師に渡したりする。 ・押すと動くなど結果を予測して玩具などを操作する。
6	学習による行動変化、やり取りの予測・パターン化、音声や表情による対応や模倣、注意の追従、物のやや複雑な操作、状況に合わせた自体の操作	・絵本を読んでもらって言葉の繰り返しの面白さやリズム感を楽しむ。（☆） ・特定の場面で期待したり、笑顔を見せたりすることができるように、繰り返しの言葉のある絵本を聞く。	・特定の場面で期待したり、要求したりすることができるように、繰り返しの言葉のある絵本や簡単な内容の絵本を聞く。 ・特定の場面で声を出せるように、かけ声のある絵本を聞く。	・絵本などの教材など注意を向けて見る。 ・動く玩具や転がるボールを見る。	・提示された物に手を伸ばそうとする。 ・特定の教師の声かけや働きかけに注意を向け、手を伸ばして応えようとする。 ・振る、たたくなどの簡単な操作で音が鳴る玩具を鳴らす。
4	他者への注意と反応、発声、注意の持続、物の単純な操作、自体の操作	・教師と一緒に手遊びやふれあい遊びを行う。 ・教師と一緒に（名前を呼ぶなど）簡単なやりとり遊びをする。	・教師と一緒に手遊びやふれあい遊びを行う。 ・教師と一緒に（名前を呼ぶなど）簡単なやりとり遊びをする。	・絵本や教材などに2、3秒注意を向けて見る、耳をすますようにして聞く。	・教師と一緒に簡単な動き（振る、指でこするなど）で鳴る楽器や玩具等を鳴らす。 ・教師と一緒に、光や音、振動のある玩具で遊ぶ。
2	外界への注意の焦点化と探索、自発運動	＊はっきりと聞き取りやすい音や人の声をいろいろな方向から聴く。 ＊大きな音や小さな音、いろいろな音色の楽器の音を聴く。	・揺れ遊びや振動を感じる遊び、触覚遊びなどの教師との関わり遊びをして快や不快を表す。（前庭覚、固有覚、触覚に働きかけるような遊びをする。）	＊光やコントラストのはっきりした絵本を見る。 ＊光やコントラストのはっきりした玩具で教師と一緒に遊ぶ。	・教師と一緒に教材に楽器に手を伸ばしたり触ったりする。 ・教師と一緒に、光や音、振動のある玩具で遊ぶ
1	外界の刺激や活動への遭遇、反射的反応	＊はっきりと聞き取りやすい音や身近な人の声を正面から聴く。			
スコア	段階、意義	受け止め、対応	表現、要求	見ること	操　作
		国　語			

補足資料 2

算数、数学　学習内容一覧

☆（星）マークは知的教科の具体的内容

60	予測や見通しをもって行動、役割を意識した協同遊び、自然や文字などへの興味	・数字を読んだり書いたりする。（☆☆） ・１～２０ぐらいの数を数える。 ・１～１０までの簡単な加法や減法をする場合がわかり、初歩的な計算をする。	・２つの物の中で「長い方」「高い方」がわかる。 ・曜日の名前を言う。 ・○時は食事の時間、あるいは就寝時間など、生活に即した時刻を言う。	・「直線」「円」の形の区別をする。 ・ばらばらに置かれたいろいろな色や大きさの四角形、三角形、円の中から、形に関して同種の物を集める。
48	物の特性の理解と目的をもった遊びや行動、決まりへの気づき	・１対１の対応により数の多少が分かり、多い方をさす。（☆☆） ・具体的な事物や事柄の順番が分かり、順序数を唱える。（☆☆） ・１０までの、身近な物の数を数える。（☆☆） ・身近な物を使って、５までの数を操作する。 ・教師の「１つ加える」の指示に応じて、物を操作する。	・教師の「前へ」や「後ろへ」の指示に応じて、動いたり物を操作したりする。 ・教師の「重い」や「軽い」の指示に応じて、物を操作する。 ・教師の「より多く」や「より少ない」に応じて、物を操作する。	・身近な生活の中で使われている○×などの表がわかり、記入する。（☆☆） ・丸、三角、四角などの中から、指示された形を取り出す。 ・教室の中の丸い物を探す。 ・積み木などを使い、三角を合わせて長方形を作る。
36	身辺自立、質問の増加、自己主張・拒否の明確化、友達との関わりの増加（平行遊び）	・対応させてものを配る。（☆） ・形や色が同じものを選ぶ。（☆） ・おもちゃや道具などを分類して整理する。（☆） ・分割した絵カードを組み合わせる。（☆） ・５までの数字を数える。 ・３までの具体物を数えて、数字カードを選んだり数字を書いたりする。 ・５までの具体物や数字などを用いて２つを比べ、数の多い、少ないがわかる。	・大きい小さい、長い短い、広い狭い、重い軽いなどが分かり比較する。（☆☆） ・「３個」と「４個」や、コップに３／４と１／２くらいの差で、多少が目視でわかる。 ・「中に」「上に」「下に」「内に」などの指示を聞いて、手や視線をそちらの方に動かす。（正確な表出ができる） ・ＡとＢどちらが高い（低い）か答える。	・遊びや日常生活の中で、できたら○、できなかったら×など、○×の記号の意味がわかり、使う。（☆） ・丸、三角、四角などの名称を言ったり、指をさしたりする。（☆☆） ・上下、前後などがわかり生活の中で使う。（☆☆） ・立体等の三次元の物で型はめをする。 ・動物の形を見分ける。（影絵など）
24	食事、着替えの部分的身辺自立、語彙の増加、自己主張と拒否の芽生え、ごっこ遊び、他児への興味	・「１つちょうだい」、「２つちょうだい」で物を渡すことができる。 ・指さして物を３つまで数えると、その物を順番にさす。 ・一つのものに一つを対応させる。	・数量の多少、大小などを比べ、多い少ない、大きい小さいなどに気づき、差が大きい場合に多い方、大きい方を取る。（☆） ・「１個」と「５個」や、コップにいっぱいと１／２くらいの差で、多少が目視でわかる。 ・水筒やハンカチなど、いつも使う物がないことを訴える。 ・「もう少し」という声かけを受けて量を足す。	・円、正三角形、正方形の見本を見て。同じ形の物を選ぶ。（☆） ・要求に応じて、大小を区別する。 ・円、四角形、三角形の型はめパズルをする。
		数と計算	量と測定	図形
18	言葉の意味理解、意図の理解と共有、要求の明確化、見立て活動の芽生え	・身近にあるものや人の名前を聞いて指差す。（☆） ・教師が提示した具体物と同じ物を選ぶ。	・「少し」と「たくさん」がわかり、教師の指示に応じて物を操作する。 ・教師の「全部」という指示で容器から物を出したり入れたりする。 ・「ゆっくり」や「とまれ」など、大人の行動に合わせる。	・大きい、小さいがわかりやすい型はめをする。 ・見本と同じ形を選ぶ。 ・物を重ねたり積み上げたりする。

12	言語指示への応答、相互的なやりとりの拡大、発語、手指の巧緻性、移動	・2つの物で教師が「こっちちょうだい」と指差したものを渡す。（弁別反応） ・2つのコップから隠したものを見つける。	・具体物や半具体物（シンボル）を使い、2つの物からやりたい方を選択する。 ・身近なものの中でどちらが「大きい」か「小さい」か感覚的にわかって選択する。	・○の型抜きパズルに○を合わせる。 ・積み木を2つ並べる。 ・カップに玉を入れたり出したりする。
8	言葉への応答、物を介したやりとりの芽生え、音声や身振りによる働きかけ、活動と結果の理解、探索的操作、姿勢の保持・変換	・目の前で隠されたものを探す。（☆） ・箱の中に物があることを理解して、ふたを開けて中を見る。 ・玉入れなど音が鳴る（結果を理解して）ことを期待して玉を入れる。 ・「こっち」と「こっち」と物を示すと、それを見る。 ・2つの容器のどちらかに隠された物を探すことができる。	・自分の興味のある物がわかり、2つの具体物の中から、好きな物を選ぶ。 ・コップの中身や箱の中に入っていたものがなくなったことを理解する。 ・積み木が崩れたり、音が鳴ったりすることを期待して、詰まれた積み木を倒して、繰り返し遊ぶ。 ・風船などが大きくなったり小さくなったりすることに注目する。	・教師が渡したボール等を箱などの容器に入れる。 ・手のひらサイズ程度のボールを容器から出す。 ・活動と結果を理解して、玩具の操作をする。
6	学習による行動変化、やり取りの予測・パターン化、音声や表情による対応や模倣、注意の追従、物のやや複雑な操作、状況に合わせた自体の操作	・興味のある物に手を伸ばしたり、握ったりする。 ・振ると音が鳴る玩具等を自分で操作する。 ・特定の教師の声かけや働きかけに手を伸ばして応えようとする。 ・活動と結果がわかりやすい教具を教師と一緒に操作する。		
4	他者への注意と反応、発声、注意の持続、物の単純な操作、自体の操作	・手元に提示された物に触れようとする。 ・教師の援助でしばらくの間、物を掴んでいる。 ・目の前で提示された教具に数秒間視線を向ける。 ・教師と一緒に、光や音、振動のある玩具等で遊ぶ。 ・教師と一緒に簡単な動き（振る、指でこするなど）で鳴る楽器や玩具等を鳴らす。		
2	外界への注意の焦点化と探索、自発運動	・はっきりと聞き取りやすい音をいろいろな方向から聴く。 ・大きな音や小さな音、いろいろな音色の楽器の音を聴く。 ＊コントラストのはっきりした絵本等を教師と一緒に見る。 ＊光やコントラストのはっきりした玩具で教師と一緒に遊ぶ。		
1	外界の刺激や活動への遭遇、反射的反応	＊コントラストのはっきりした絵本等を教師と一緒に見る。 ＊光やコントラストのはっきりした玩具で教師と一緒に遊ぶ。 ・はっきりと聞き取りやすい音や声を正面から聴く。		
スコア	段階、意義	外界の知覚認知		
		算　数		

書式－１(自立主：自立活動)

補足資料　3

平成２９年度　個別の指導計画（自立活動）

作成日：平成２９年〇月〇日

児童生徒氏名	〇〇　〇〇	小学部〇年	記載者	●●　●●
諸検査等	〇遠城寺式・乳幼児分析的発達検査（平成２９年６月〇〇日実施） 移動運動（　0：6.5　）　手の運動（　0：4.5　）　基本的習慣（　0：3.5　） 対人関係（　0：6.5　）　発　　語（　0：5.5　）　言語理解（　0：4.5　）			
◇生活上・学習上の困難	・座位保持椅子などで学習する際に、上体が安定しなかったり倒れてしまったりする。 ・一人で楽しんで活動できることが少なく、人が関わってくれるまで関わりを求めて物を落としたりたたいたりして気を引こうとする。 ・教師が提示した物を見続けたり、人の動きを追ったりすることが難しい。			

①【実態把握】

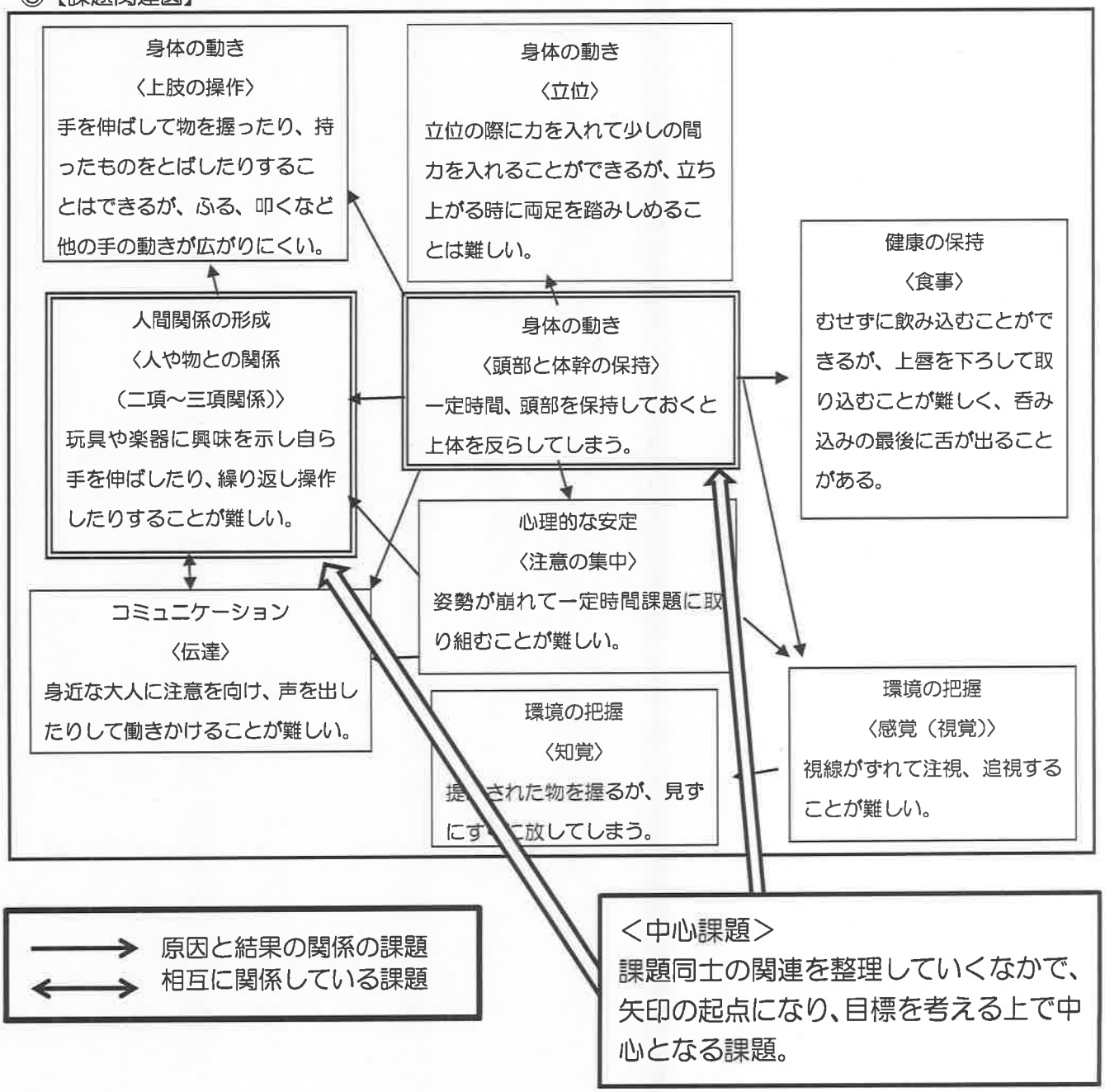
健康の保持
〈食事〉むせずに飲み込むことができるが、上唇を下ろして取り込むことが難しく、飲み込みの最後に舌が出ることがある。
頭部の支えと口唇を閉じる援助が必要である。
◇心理的な安定
〈情緒〉落ち着いているが、一人でいると不安そうな顔をしたり、好きではないことをされると泣くような声を出したりする。
〈注意の集中〉姿勢が崩れて一定時間課題に取り組むことが難しい。
◇人間関係の形成
〈自己意識〉名前を呼ばれると手を挙げて応えたり、教師の手に自分の手を合わせたりすることができる。
〈人や物との関係（二項～三項関係）〉よく関わりのある教師には手を伸ばして触ろうとする。
玩具や楽器に興味を示し自ら手を伸ばしたり、繰り返し操作したりすることが難しい。
◇環境の把握
〈感覚（視覚）〉見たいものは後ろを振り向いてでも見ることができる。
視線がずれて注視、追視することが難しい。
〈感覚（聴覚）〉電話や乗り物の音など好きな音は、どんなに小さい音でも気付いて声を出して笑っている。
〈知覚〉提示された物を握るが、見ずにすぐに放してしまう。
〈認知〉離れている人の動きや話し声に注意を向けることはあるが、反応は明確ではない。
◇身体の動き
〈頭部と体幹の保持〉座位保持椅子に座っての学習や立位では、一定時間、頭部を保持しておくことが難しい。頭部を後ろに反らす力が強い。
〈寝返り〉行きたいところに寝返りを繰り返して近づくことができる。
〈立位〉立ち上がる時に両足を踏みしめて立ち上がることが難しい。
〈握る・つまむ〉目の前に提示された物をぎゅっと握ることがきる。
〈上肢の操作〉手を伸ばして物を握ったり、持った物を手で払いのけたりすることはできるが、振る、たたくなど他の手の動きが広がりにくい。
◇コミュニケーション
〈伝達〉手を合わせることで「おねがい」や「いただきます」を伝えることができる。また、物を落としたり泣きまねをして周囲の人への関わりを求めようとする。
身近な大人に注意を向け、声を出したりして働きかけることが難しい。

その他、配慮事項
・

②【課題の絞込み】

◇健康の保持
〈食事〉・上唇を下ろして取り込むことが難しく、飲み込みの最後に舌が出ることがある。
◇心理的な安定
〈注意の集中〉姿勢が崩れて一定時間課題に取り組むことが難しい。
◇環境の把握
〈感覚（視覚）〉視線がずれて注視、追視することが難しい。
（知覚）提示された物を握るが、見ずにすぐに放してしまう。
◇人間関係の形成
〈人や物との関係（二項～三項関係）〉玩具や楽器に興味を示し自ら手を伸ばしたり、繰り返し操作したりすることが難しい。
◇身体の動き
〈頭部と体幹の保持〉一定時間、頭部を保持しておくと上体を反らしてしまう。
〈立位〉立位の際に力を入れて少しの間力を入れることができるが、立ち上がる時に両足を踏みしめることは難しい。
〈上肢の操作〉手を伸ばして物を握ったり、持ったものをとばしたりすることはできるが、ふる、叩くなど他の手の動きが広がりにくい。
◇コミュニケーション
〈伝達〉身近な大人に注意を向け、声を出したりして働きかけることが難しい。

③【課題関連図】



１年間の指導の方向性
「一定時間、頭部を保持しておくと上体を反らしてしまう」を中心課題としてとらえることで、座位や膝立ち位や立位などの姿勢を保持する課題に取り組み、体幹を保持する力を高めていくことができる。体幹を中心に姿勢を安定させることができれば、上肢を動かそうとするときの安定感が増したり、提示された物を見続ける力が高まったりするようになる。 また、これらの力が高まりにより、教師が提示した物に視線を向けたり、提示された物に触れたり、操作したりする上肢操作の向上が期待でき、教師との物を介したやりとりをする力を高めることができるのではないか。 対象児童は継続して座位を目標として課題に取り組んできており、援助を必要とするものの体幹を保持する力は高まってきた。しかし、生活面においては、立ち上がる際に踏みしめようとする動きが少なく、移乗の際など全介助で行っている。そこで体幹を保持する力と立位で踏みしめる力がつけば、移乗やトイレなどで教師の援助を受けて少しの間立位を保持できるようになるのではないかと考える。 また、上肢操作が向上し、物を介したやりとりができるようになり、三項関係を確かなものにしていくことで、人への働きかけができるようになるのではないか。 よって、自立活動では、「基礎」の時間に座位を保持する力を高めることと立ち上がりの際の踏みしめの動きを促す指導、「応用」では、体幹を保持する力や足を振り出す力を高めたり、提示された物に視線を向けながら手を伸ばし握る、放す、左右に動かしたりするなどの操作の指導をしていきたい。 食事については、教師の援助を受けながら口を閉じたまま食べ物を飲み込む指導を継続し、上唇を下ろす動きを待ったり、カットコップから一口飲んだりする指導をしていきたい。

指導目標
①教師の促しに応じて手を伸ばし、教師の両手を持つ援助を受け、踏みしめて立ち上がることができる。 ②頭部の支えや口唇を閉じる援助を受けて、口を閉じたまま初期食を嚥下することができる。

国語　スコアＡ　教材一覧

学部、学年	小学部　　４年
内容	聞くこと（受け止め、対応）　読むこと（見ること） 書くこと（操作）
目標とする姿	・教師が絵本を読む声と、絵本の絵や色に気付いて、その方向を見たり表情を変えたりする。 ・登場人物やきび団子に自分から触れようとする。
扱う教材、教具	「ももたろう」 ・紙芝居 ・ペープサート：もも（割れて桃太郎が出てくる） ・動物のぬいぐるみ（犬、鳥、猿）　・きび団子 ・鬼のお面
その特徴	・色がはっきりしているので、紙芝居の存在自体に気付きやすい。また、「桃太郎さん桃太郎さんどこ行くの」「腰につけているのはなぁに」「ちょうだい」「どうぞ」など繰り返しのフレーズが出てくるので、言葉のリズムを感じやすい。 ・動物のぬいぐるみや鬼のお面が登場することで、ぬいぐるみを見たり触れたりしやすい。
授業展開で考えられる行動 ※スコアの数値は、児童の実態	スコア１： スコア２：教師の声やぬいぐるみに気付き、注視したり、追視したりする。 ぬいぐるみや鬼のお面に自分から触れようとする。 「ちょうだい」「どうぞ」のやりとりの中で、振動するきび団子に触れる。 スコア４：
授業展開の方法 （手だてや教材のアレンジ方法等）	・動物のぬいぐるみは、児童の視線３０ｃｍ前後の位置に提示し、左右にゆっくり動かし、追視ができるようにする。よりぬいぐるみに気付きやすいように、鈴をつける。 ・鬼のお面をたたいて退治する。児童の手の動きでやっつけることができる位置にお面を提示する。 ・振動するマットの上にきび団子を載せて、きび団子に手を伸ばす動きを引き出す。
その他 （他に適した教材等があれば記載する）	・きび団子自体に振動するものが欲しかったが、適当なものが見つからなかった。

国語　スコアＢ　教材一覧

学部、学年	小学部　４年
内容	聞くこと（受け止め、対応）　読むこと（見ること）　書くこと（操作）
目標とする姿	・繰り返しの言葉を理解して、予測する。 ・自分から鬼に手を伸ばして退治し、鬼とのやりとり（たたいたら、鬼が痛いと言うなど）を楽しむ。 ・「ちょうだい」と言われて物を相手に渡す。
扱う教材、教具	「ももたろう」 ・紙芝居　・ペープサート：もも（割れて桃太郎が出てくる） ・動物のぬいぐるみ（犬、鳥、猿）　・きび団子　・鬼のお面
その特徴	・「桃太郎さん桃太郎さんどこ行くの」「腰につけているのはなぁに」「ちょうだい」「どうぞ」など繰り返しのフレーズが出てくるので、やりとりをイメージしやすい。また昔話の言い回し（むかーしむかし、めでたしめでたし、など）を聞いて期待することができる。 ・鬼との戦いのシーンは実際に経験してみることで、イメージしやすい。 ・登場人物が身近な（聞き慣れた）人や動物なので児童の注意が向きやすい。（キジは鳥として教える。）
授業展開で考えられる行動 ※スコアの数値は、 児童の実態	○スコア６ ・繰り返しの言葉や好きな場面を見て声を出したり、笑顔になったりする。 ・教師が手を出すと、手や腕の援助を受けながら教師の手にきび団子を乗せることができる。 ○スコア８ ・物語の流れを覚えて好きな場面を期待したり、繰り返しの言葉を覚えたりして声を出したり、笑顔になったりする。 ・教師の「ちょうだい」の言葉を聞いて声を出したり、きび団子に目を向けたりする。手や腕の援助を受けて、きび団子を掴かんだり、教師にきび団子を手渡したりすることができる。
授業展開の方法（手だてや教材のアレンジ方法等）	・初めのうちは、話の内容の理解を促すために、紙芝居の合間にペープサートやぬいぐるみを使用して桃から桃太郎が生まれてきたり、鬼と戦ったりする様子を見せる。 ・話の内容を大まかに理解し始める時期から、フレーズの合間やページをめくる前に読むのを止めて、児童の反応を待つ。 ・鬼のお面に向かって手を伸ばし退治する。手を動かしてほしい位置にお面を提示する。鬼を倒した後に、鬼が倒れていく様子を大きく見せ、倒せたことの喜びを味わえるようにする。 ・教師は「ちょうだい」と言いながら手を差し出した後、しばらく待って、自発的な声や動作を引き出す。可能な児童には、きび団子を掴み、手渡すまで行うようにする。差し出す手には赤い手袋をつけて、「ここにきび団子をあげる」ということが分かりやすくする。きび団子は握りやすいように、ゴルフボールやビー玉に滑り止めをつけたものを使用した。（ゴルフボールは少し大きかった。）
その他（他に適した教材等があれば記載する）	・今回の授業では、「聞くこと」「書くこと」に重点を置いて、指導をしたが、１場面を劇仕立てにして「話すこと」をねらってもよいと感じた。

＜研究授業①について＞

１　期日　平成２８年６月３０日（木）　３校時

２　対象　小学部６年　男子２名　女子１名

３　単元名　「国語科：絵本を聞いて感じたことを表現しよう①」「算数科：おなじものをあつめよう」題材名「なないろどうわ」（アリス館）（作／真珠　まりこ）

４　本単元で指導する教科の内容と観点

教　科	観　点	
	学習指導要領	学習到達度チェックリスト
国語	①「聞く・話す」１段階 （１）教師の話を聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。	①「受け止め、対応」
算数	②「数量の基礎」１段階 （１）具体物があることがわかり、見分けたり、分類したりする。	②「外界の知覚認知」「数と計算」

５　個々の年間目標及び手だて

児童生徒名	目　標	手だて
A 聞く：4 数と計算：2	①　前で話す教師の「１、２の３」の言葉かけに対して、顔を上げたり、表情をゆるませたりして期待することができる。 ②　外界の音や光などに気付き、表情を変えたり、顔を上げたりして気付いたことを表現することができる。	・読み聞かせの中で「１、２の３」の言葉かけを多く設定するとともに、「うわっ！」や「あっ！」等の感嘆詞を多く取り入れて、教師の感情を込めた読み聞かせに注意を向けられるようにする。 ・教師の読み聞かせに注意が向きにくい場合は、ST が姿勢を整える援助を行い、顔を上げて話を聞くように促す。 ・黒の台紙に色紙を張った教材を用意し、児童が色紙の方を注視することができたら称賛する。 ・色紙は気付きやすい蛍光色から始め、その後様々な色を注視する学習に取り組む。
B 聞く：8 数と計算：8	①　前で話す教師の言葉かけに注意を向けて聞き、言葉による簡単な指示に応じることができる。 ②　二つの箱の内、目の前で隠された物が入っている方を選んで開けるなど、個別化・類別する力を高める。	・教師の読み聞かせに注意を向けて聞くことができるように、リズムのある言葉や繰り返しの表現を多く設定する。 ・読み聞かせの中で「うわっ！」や「あっ！」等の感嘆詞を多く取り入れて、教師の感情を込めた読み聞かせに注意を向けられるようにす

B 聞く： 8 数と計 算：8		る。 ・隣の児童を見るなどして注意がそれやすい場合は、つい立て等を用意し、前にいる教師に注意が向くようにする。 ・色に対して注意を向けて類別する力を高めるために、色以外の刺激をできるだけ少なくした教材を用いる。 ・最初は教師が手をとりながら色を類別する学習を行い、繰り返し行う中で教師の援助量を減らしていく。
C 聞く： 8 数と計 算：8	① 前で話す教師の言葉かけに注意を向けて聞き、視線を向けることができる。 ② 提示された物を追視したり、目の前で隠された物を探そうとしたりすることができる。	・教師の読み聞かせに注意を向けて聞くことができるように、短い歌やリズムのある言葉を絵本の中に取り入れて注意を促す。 ・視覚に課題があるため、部屋を暗くし、絵本をライトアップさせることで、絵本の色の変化に気付きやすくする。 ・机上にある二つのボールを見比べて、色の違いに気付かせる。また、教師が提示するボールの色を見て、二つのボールの内、同じ色のボールを教師に渡すこと繰り返す中で、色を類別する力を高める。

6　単元の目標

スコアＡ（スコア４～６）

国語・・・教師の読み聞かせの中に出てくる、「１、２の３」の言葉かけや感情を込めた読み方に気付き、教師の読み聞かせを聞こうとすることができる。

算数・・・「１、２の３」の言葉かけとともに教師が提示する色紙に気付き、注視及び追視をすることができる。

スコアＢ（スコア８～１２）

国語・・・絵本に注目を促す教師の言葉かけに気付き、絵本の方に注意を向けながら、教師の読み聞かせを最後まで聞くことができる。

算数・・・教師と一緒に２色のボールを操作する学習を通して、色に対して興味をもち、教師の促しに応じて類別しようとすることができる。

7　単元の指導計画（全１３時間）

	6/2	6/7	6/9	6/16	6/17	6/20	6/21	6/23	6/29	6/30 本時	7/5	7/7	7/12
【国語科】教師の読み聞かせを聞く	大型絵本をライトアップする →												
	読み聞かせの途中に短い歌に気づいて、注意を向けなおす →									読み聞かせに対して注意を向ける →			
【算数科】色についての学習をする	スコアＡ												
	色に対する実態を把握する												
			教師から提示された色紙を注視する →								注視の後に追視をさせる		
	スコアＢ												
	色に対する実態を把握する												
			教師と一緒にボールを同じ色ごとに分類する →							自分でボールを見分けて分類する			

8　本時の指導

（1）本時の目標

スコアＡ（スコア４～６）

国語・・・教師の「１、２の３」の言葉かけや「うわぁ！」や「あっ！」などの感嘆詞に気付き、前にいる教師の方に注意を向けて読み聞かせを聞くことができる。

算数・・・教師が提示する色紙の方に視線を向け、３秒程度注視をすることができる。

スコアＢ（スコア８～１２）

国語・・・絵本に注目を促す教師の言葉かけに気付き、前にいる教師の方に注意を向けながら教師の読み聞かせを最後まで聞くことができる。

算数・・・教師の言葉かけや指差し等による指示に応じて、赤と黄色のボールをそれぞれの色に類別しようとすることができる。

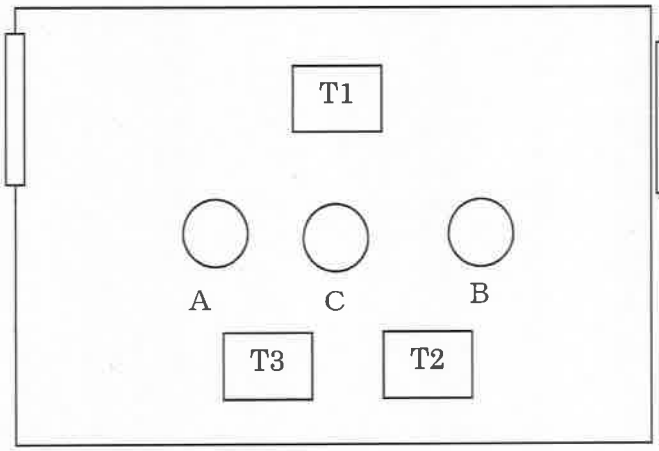
（2）個人の実態と目標及び評価

	目標	評価
A	① 前で話す教師の「1、2の3」の言葉かけ等に気付き、顔を上げたり表情をゆるませたりすることができる。 ② 目の前に提示される色紙に気付き、顔を上げて視線を向けようとすることができる。	①読み聞かせをする教師の「1、2の3」や「うわぁ！」「あっ！」等の言葉かけに気付いて、顔を上げたり表情をゆるませたりすることができたか。 ②教師が提示する色紙に気付き、視線を向けて3秒程度注視ようとすることができたか。
B	① 教師の読み聞かせに注意を向けて、聞くことができる。 ② 教師の指差しに応じて赤と黄色のボールをそれぞれの色ごとに類別しようとすることができる。	①絵本の方に注意を促す教師の言葉かけに気付いて、注意を向けなおしながら絵本の方に視線を向けて最後まで聞くことができたか。 ②教師の指示に応じて、教師と一緒に赤と黄色のボールを類別しようとすることができる。
C	① 教師の読み聞かせに対して注意を向けて、聞くことができる。 ② 教師から提示されたボールを見て、机上にある2つのボールの色を見比べようとすることができる。	①短い歌やリズムのある読み方に気付き、前にいる教師の読み聞かせの方に注意を向けて聞くことができたか。 ②色に対して興味を持ち、教師が提示するボールと机上にあるボールを見比べようとすることができたか。

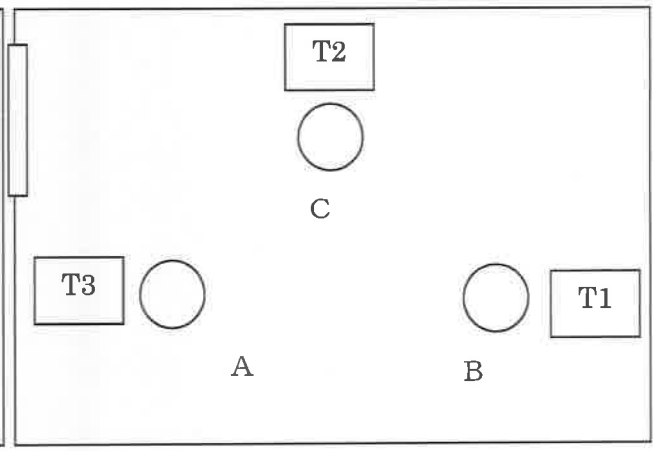
（3）展開　省略

（4）場の設定

○教師の読み聞かせを聞く



○色についての学習をする



9　教材一覧

（1）国語　スコアＡ・Ｂ【実態：４～８】

学部、学年	小学部　６年
内容	＜学習指導要領の内容＞「聞く・話す」１段階 （１）教師の話を聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。 ＜学習到達度チェックリストの観点＞「受け止め、対応」
目標とする姿	スコアＡ【実態：スコア４】の目標とする姿 教師の読み聞かせに出てくる、「１、２の３」の言葉かけや読み方に気付き、教師の読み聞かせを聞こうとすることができる。【スコア６：やりとりの予測、パターン化】 スコアＢ【実態：スコア８】の目標とする姿 絵本に注目を促す教師の言葉かけに気付き、絵本の方に注意を向けながら、教師の読み聞かせを最後まで聞くことができる。　【スコア８：言葉への応答】 【スコア１２：言語指示への応答】
扱う教材、教具	「なないろどうわ」（アリス館）（作／真珠　まりこ） ・「なないろどうわ」を基にした自作の大型絵本　　・スタンドライト
その特徴	・原作では七つの色それぞれに関する話が書かれており、それぞれの話で取り扱われる色がきれいで見やすい。 ・それぞれの色についての話が簡単な内容のものが多い。
授業展開の中で目指す具体的な姿	スコアＡ ○読み聞かせをする教師の「１、２の３」や「うわぁ！」「あっ！」などの言葉かけに気付いて、顔を上げたり表情をゆるませたりする。 【スコア６：やりとりの予測、パターン化】 スコアＢ ○短い歌やリズムのある読み方に気付き、前にいる教師の読み聞かせの方に注意を向けて聞く。　【スコア８：言語への応答】 ○「こっちだよ」などの絵本の方に注意を促す教師の言葉かけに気付いて、注意を向け直しながら絵本に視線を向けて聞く。【スコア１２：言語指示への応答】
手立てや教材のアレンジ方法等	・児童３名に対して一斉に読み聞かせを行うため、絵本を大型のものに作り変える。 ・色に関する興味関心を高めるために、作り変えた大型絵本には文章は書かず、色画用紙やホログラム等を使って様々な色に気付きやすいようにした。 ・教師の読み聞かせに注意を向けられるように、絵本の話を作り変えて、短い歌や「１、２の３」の言葉かけ、リズムのある言葉、繰り返しの表現、「うわっ！」や「あっ！」等の感動詞を多く取り入れた。 ・部屋を暗くし、絵本をライトアップさせることで、教師の読み聞かせに対して注意を向けやすくする。 ・教師の読み聞かせに注意を向けられるように、絵本の話を作り変えて、短い歌や「１、２の３」の言葉かけやを多く取り入れた。
その他	・「なないろどうわ」の絵本は、書かれている文章が多く、絵もたくさんの色を使っており、絵本の中に描かれている絵の内容や色に注目させるには、児童にとってやや複雑であると感じる。

（2）算数　スコアＡ【実態：スコア２】

学部、学年	小学部　６年
内容	＜学習指導要領の内容＞「数量の基礎」１段階 （１）具体物があることが分かり、見分けたり、分類したりする。 ＜学習到達度チェックリスト＞「外界の知覚認知」
目標とする姿	「１、２の３」の言葉かけとともに教師が提示する色紙に気付き、注視や追視をすることができる。　【スコア４：注意の持続、物の単純な操作】
扱う教材、教具	・黒の台紙に様々な色の色紙を貼ったもの
その特徴	・児童に様々な色を提示することができる。 ・うちわ程度の大きさのため言葉かけをしながら色に対して注視や追視を促しやすい。
授業展開の中で目指す具体的な姿	○目の前にいる教師が提示する色紙に気付き、色紙のほうに視線を向けて３秒程度注視しようとする。　【スコア４：注意の持続、物の単純な操作】
手立てや教材のアレンジ方法等	・単元の最初の頃に色に対する実態把握を行い、どの色に気付きやすいのかを教師と一緒に見つけ、注視・追視する学習につなげる。 ・色紙は気付きやすい蛍光色から始め、その後様々な色を注視する学習に取り組む。 ・児童に色紙の方に注意を向けさせるために、色紙を提示する教師の服装は黒を基調とするものにする。 ・教師の「１、２の３」の合図とともに色紙を提示することで、児童が色紙に気付きやすくする。
その他	・タブレット PC 等で明度・彩度等を調節しながら様々な色を提示する。 ・色のついたハンドボール程度の大きさのボールを目の前で転がす。

（3）算数　スコアＢ【実態：スコア６～８】

学部、学年	小学部　６年
内容	＜学習指導要領の内容＞「数量の基礎」１段階 （１）具体物があることが分かり、見分けたり、分類したりする。 ＜学習到達度チェックリスト＞「数と計算」
目標とする姿	教師と一緒に２色のボールを操作する学習を通して、色に対して興味を持ち、教師の促しに応じて類別しようとすることができる。【スコア８：活動と結果のつながりの気付き】【スコア１２：活動と結果のつながりの理解】
扱う教材、教具	・２色のボール（赤、黄）　・２色の色紙（赤、黄） ・黒のマット　・２色のカップ（赤、黄）
その特徴	・片手に持てる程度の大きさで児童が操作しやすく、色がハッキリしており注意を向けやすい。 ・マットを黒にすることでボールとのコントラストを強くするとともに、輝度の高いボールの方に気付きやすい。
授業展開の中で目指す具体的な姿	○色に対して興味を持ち、教師が提示するボールと机上にあるボールを見比べようとする。【スコア８：活動と結果のつながりの気付き】 ○教師の指示に応じて、教師と一緒に赤と黄色のボールを分類しようとする。【スコア１２：活動と結果のつながりの理解】
手立てや教材のアレンジ方法等	・単元の最初の頃に色に対する実態把握を行い、様々な色のカラーボールの中からどの色に気付きやすいのかを教師と一緒に見つける。 ・児童に色のついたボールの方に注意を向けさせるために、ボールを提示する教師の服装は黒を基調とするものにする。 ・色に対して注意を向けて、見分けて分類するために、色以外の刺激をできるだけ少なくした教材を用いる。 【スコア８：活動と結果のつながりの気付き】を目指す児童に対して ・教師がボールを提示する場面や児童からボールを受けとる際に、赤と黄色それぞれの短い歌を歌い、児童が色に対して興味を持てるようにする。 ・教師が手をとりながら教師が提示するボールと同じ色のボールと選ばせることを繰り返し行い、２つのボールの色を見分けながら、同じ色、違う色に気付かせる。 【スコア１２：活動と結果のつながりの理解】を目指す児童に対して ・隣の児童を見るなどして注意がそれやすい場合は、つい立てなどを用意し、前にいる教師に注意が向くようにする。 ・最初は教師が手をとりながら色を見分けて分類する学習を行い、繰り返し行う中で教師の援助量を減らしていく。
その他（他に適した教材等があれば記載する）	・２つの色紙のうち、教師が提示する色と同じものの方にタッチする。

＜研究授業②について＞

1　期日　平成２８年１１月１７日（木）　３校時

2　対象　中学部３年　男子１名

3　単元名　「国語科：絵本を聞いて感じたことを伝えよう②」
題材名「わすれられないおくりもの」（評論社）（作／スーザン・バーレイ）

4　本単元で指導する教科の内容と観点

内　　容	
特別支援学校学習指導要領の教科の内容	学習到達度チェックリストの教科の観点
①知的の小学部「聞く・話す」１段階 （１）教師の話を聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。 ②知的の小学部「読む」１段階 （１）教師と一緒に絵本などを楽しむ。 ③知的の小学部「書く」１段階 （１）いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。	①「受け止め、対応」スコア２ 「表現、要求」スコア２ ②「見ること」スコア１ ③「操作」スコア１

5　年間目標及び手立て

目　　標	手　　立　　て
○呼びかけや問いかけなどに気付き、表情などで応えることができる。（受け止め・対応）（表現・要求）	○本人がわかりやすいように挨拶や呼名、問いかけなどを、明確に行う。
○教材（絵本の絵や動画など）を３秒ほど見つめることができる。（見ること）	○本人が注目しやすいように、色調がはっきりした物や効果音を使う。
○教師の援助を受けながら、自らの動きでスイッチを押すことができる。（操作）	○自発的な動きが出やすいようにスイッチの位置を調整し、リハーサルを行うなどの援助を行う。

6　単元の目標
・「受け止め・対応」「表現、要求」スコア４
物語の読み聞かせを聞いて表情で反応することができる。
・「見ること」スコア２
提示されたイラストや言葉かけなどに気付き、顔を向けたり動かしたりすることができる。
・「操作」スコア２
タブレットを操作する場面で、教師が肘置きを使ってスイッチに近いところに手の位置を調整した上で、自分で手を動かしてスイッチを押すことができる。

7　単元の指導計画（全８時間）

１１／４	１０	１６	１７（本時）	３０	１２／１	８	１５
① 物語の読み聞かせに気付く。 ② ペープサートの動物に気付く。 ③ 動画に出てきた文字やキャラクターに気付く。 ④ 教師とともにスイッチを押す。			① 場面の転換や物語の展開によって表情を変えるなど変化に気付く。 ② 動物のペープサートに注意を向ける。 ③ 動画に出てきた文字やキャラクターに注意を向ける。 ④ 自発的にスイッチを押す。				

8　本時の指導

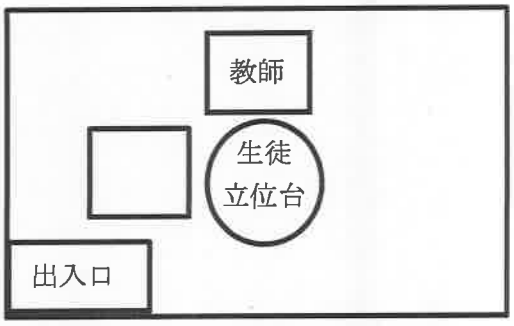
（1）実態・目標・評価

実態	目標	評価
読み聞かせだけではなかなか注意を向けることができないが、情景に合った音楽を流すと、その音楽に気付いて音の鳴る方に顔や目を動かすことができる。	教師の読み聞かせの抑揚や背景の変化などに気付き、顔を動かしたり、表情を変えたりすることができる。	教師の読み聞かせの抑揚や背景の変化などに気付いて、顔を動かしたり、表情を変えたりするなどの行動が見られたか。
提示するだけでは注目したり気付いたりすることは難しいが、教師が言葉をかけたり、ペープサートを動かしたりすると気付くことができる。	教師の言葉かけやペープサートを動かしたときに気付いて、顔を向けたり、動かしたりすることができる。	教師の言葉かけやペープサートを動かしたときに、顔を向けたり、顔を動かそうとしたりするなどの行動が見られたか。
タブレットの動画に気付くことができる。 イラストを顔に近づけて見せることで気付くことができる。	動画に出てきた文字やキャラクターに注意を向け、持続的に顔を向けたり、顔を動かしたりすることができる。	タブレット上のキャラクターのイラストに対して表情や目の動きなどの変化があったか。
スイッチの位置を確認させるなどのリハーサルを何度かすると手を動かそうとすることができる。	何度かリハーサルをした後に、教師の援助や言葉かけを受けながら、自発的に手を動かしてスイッチを押すことができる。	何度かリハーサルをした後に、自発的にスイッチを押そうとする行動が見られたか。

（2）展開

時間	学習活動	指導上の留意点及び配慮事項	備考
10:35	1　始めの挨拶（教師の号令）	・挨拶の前に言葉かけを行い、今から挨拶をすることを感じ取らせる。 ・本人の反応を見るために、呼びかけや挨拶の後、しばらく表情を見る。	休み時間の間に立位台に立たせておく。
10:37	2　物語の読み聞かせを聞く。 ・イラストを拡大した絵本を見ながら、教師の読み聞かせを聞く。	・物語の雰囲気を感じられるように、読み方に抑揚をつけたり、情景にあったBGMを流したりする。また、明るい場面と暗い場面を意識できるように、教材提示用の台を場面に合わせて暗い背景と明るい背景のもので使い分ける。	イラストを拡大した絵本 BGM
10:50	3　ペープサートを見ながら登場人物や物語を振り返る。	・ペープサートに注意が向くように、周囲を黒画用紙で覆い、ペープサートを揺らしたり、顔に近づけたりするなどして注意を促す。 ・物語を振り返るためにペープサートを提示しながら、登場人物やそのエピソード、そのときの気持ちを教師が代弁するなどして、登場人物の気持ちや物語の雰囲気などを伝える。	ペープサート
11:03	4　動画に気付き、持続的に注意を向ける。 ・タブレットで動画を見る。 ・タブレットで見たイラストと文字を振り返る。	・本人が気付きやすい、明るいアニメーションとリズミカルな歌で注意を促す。 ・動画を見せた後に、動画に出てきたキャラクターのカードを示しながら教師と振り返りを行う。	タブレット イラストカード
11:10	5　スイッチを押す。 ・簡単なアプリを使って教師の援助を受けながら、自分でスイッチを押す。	・教師とともにスイッチの位置を確認させたり、何回か一緒に押したりすることで、生徒にスイッチとアプリの因果関係を伝えながら、自発的にスイッチを押す行動を促す。 ・手が少しでも動いたら、褒めることでその行動の強化を図る。	タブレット スイッチ
11:19	6　終わりの挨拶（教師の号令）	・今から挨拶をすることを感じ取らせるために言葉かけをする。 ・反応を見るために、挨拶の後しばらく表情を見る。	

（3）場の設定
（中学部教室）



9　教材一覧　　国語　スコアＡ【実態：１～２】

学部、学年	中学部　　３年
内容	「聞くこと」（受け止め、対応） 「話すこと」（表現、要求） 「読むこと」（見ること） 「書くこと」（操作）
目標とする姿	・絵本を見ながら、教師の語りや音楽に気づいて、顔を動かしたり、表情を変えたりすることができる。 ・教師とのやり取りや、タブレットのアニメーション、音などに気づいて、自分で手を動かしてスイッチを押すことができる。
扱う教材、教具	「わすれられないおくりもの」 ・イラストを拡大した絵本 ・登場する動物のペープサート
その特徴	・アナグマが亡くなった後に、仲間の動物たちがその思い出を思い起こし、アナグマが残してくれたたくさんのことに気付くという少し難しい話ではあるが、登場人物が動物なので、話に親しみが持ちやすい。 ・主人公といろいろな動物のエピソードが一つ一つ丁寧に描写されていてわかりやすい。
扱う教材・教具	「５０音の歌」 ・タブレットによる動画 ・動画と文字に関連したイラストカード
その特徴	・明るい歌と遊びの雰囲気の中で言葉の学習に取り組むことができる。
扱う教材・教具	「簡単なアプリを使ったスイッチの操作」 ・タブレット、スイッチ
その特徴	・本生徒が自分の動きで操作しやすいスイッチを通して、音やアニメーションなど様々な変化を楽しむことができる。
授業展開で考えられる行動	スコア１：（読むこと、書くこと） ・ペープサートや動画などに気付いて、頭や目を動かして見ようとする。 ・姿勢や手の位置を整え、教師の適切な援助を受けることで、自分で手を動かしてスイッチを押す。 スコア２：（聞くこと、話すこと） ・読み聞かせに気付いて、場面転換や雰囲気の変化の際に、表情を変えたり目を動かしたりする。
授業展開の方法（手だてや教材のアレンジ方法等）	・教師による語りと音楽を聞かせながらイラストを拡大した絵本を鑑賞させた後、ペープサートを使って物語の振り返りを行うことで、登場する動物や物語への気づきを促す。 ・分かりやすい動画を見せることで、生徒の興味を引き、教師とのやりとりへの意識を引き出す。 ・操作が簡単なアプリを使い、スイッチを使うことで生徒の自発的な動きを引き出す。
その他	

＜研究授業③について＞

１　期日　　平成２８年１２月１６日（金）２校時

２　対象　　高等部１年　　男子１名

３　単元名　「物語を聞いて感じたことを伝えよう②」
　　題材名　「いのちのまつり　ヌチヌグスージ」（サンマーク出版）（作/草場一壽）

４　本単元で指導する教科の内容と観点

内　容　と　観　点	
特別支援学校学習指導要領の教科の内容	学習到達度チェックリストの教科の観点
①知的の小学部「聞く」２段階 （１）教師や友達などの話し言葉に慣れ、簡単な説明や話し掛けが分かる。	①「受け止め、対応」スコア１８
②知的の小学部「話す」１段階 （２）教師などの話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。	②「話すこと」スコア８
③知的の小学部「読む」２段階 （３）文字などに関心をもち、読もうとする。	③「見ること」スコア１２
④知的の小学部「書く」１段階 （４）いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。	④「操作」スコア６

５　年間目標及び手立て

目　標	手　立　て
○教師の読み聞かせを聞いて、聞いた言葉を教師に続けて言うことができる。（聞くこと）（話すこと）	○本生徒がよく聞く言葉を中心に、特徴的なせりふ、名詞や動詞を本の中から抽出し、単語として明確に伝える。
○「○○はどこ？」の質問に、本を見て指さすことができる。（読むこと）	○挿絵が複雑な場合は、コピーした物を黒の画用紙の上で提示し、問いかける。
○縦や横の直線を始点から終点まで書くことができる。（書くこと）	○「左から右」、「上から下」の動きに限定し、右手でペグや型抜きの直線の操作を練習させ、型抜きボードを使ったりしながら文字を書かせる。

６　単元の目標
①「聞くこと」：教師が読んでいるページの挿絵や人物のカードを見ながら、「○○（主人公や登場人物）はどこの質問に指をさして答えることができる。
②「話すこと」：教師の名詞や感嘆詞に続けて、まねをしてはっきりと話すことができる。
③「読むこと」：教師が指をさした挿絵や人物のカードを自分の手で確認しながら見たり、大きなページを見たりすることができる。
④「書くこと」：肘への教師の補助を受けながら、指で上から下、左から右の直線を書くことができる。

7　単元の指導計画

	11/7　14　21　28　12/5　12　16　19（本時）
①聞く	・物語を聞き、題名や作者を覚える。→ ・出てくる名詞や感嘆詞を覚えたり、言葉の面白さに気付いたりする。→ ・教師の質問に手で指して答える。→
②話す	・２～３音節の短い単語を話す。→ ・「ご先祖様」の６音節を話す。→
③読む	・教師が指差しをした挿絵に気付く。→ ・登場人物の挿絵を覚え、自ら見たり手を出したりする。
④書く	・ペグを上から下、左から右へ動かす。→ ・型抜きの直線を上から下、左から右を指でなぞる。→ ・型抜きボードの直線に沿って指で線を書く。→

8　本時の指導

（1）本時における生徒の目標及び評価

	実　態	目　標	評　価
①聞く	教師が読み上げる題名や作家名を復唱したり、教師の読み聞かせを集中して聞いたりすることができる。	・「コウちゃんはどこ？」、「オバアはどこ？」の質問に手で指して答えることができる。	・挿絵に気付き、探したり人物の近くを手で指して答えたりすることができたか。
②話す	あ行、か行、さ行、た行、は行、や行で始まる２～３の短い音節を、教師のまねをして言うことができる。	・「うみ」、「はる」、「さかな」、「そら」、「はな」、「おとこ」、「ひとり」、「ふたり」、「ありがとう」、「オバア」、「いのち」について教師の読み聞かせを真似して話すことができる。 ・「お父さん」、「お母さん」、「おじいちゃん」、「おばあちゃん」、「ご先祖様」、「やさい」、「写真」について教師の読み聞かせをまねして一部言うことができる。	・１１個の名詞のうち、７個以上を１音節目から言うことができたか。 ・７個の名詞のうち、全ての名詞について一部を言うことができたか。
③読む	絵本などの教材に興味を示し、近くで見ようとしたり、教師の促しに応じてページをめくろうとしたりすることができる。	・教師と一緒に名前を言いながら、人物のカードやひらがなカードを見たり、手で指したりすることができる。	・ボードに提示されたカードに気付き、自分から見たり、教師の言葉掛けに応じて手で指したりすることができたか。
④書く	始点を探し、教師の援助を受けて手を置き、上から下の動きに大きく手を動かして線を書くことができる。	・教師の言葉掛けに応じて、型に沿って指を上から下に自分で動かしたり、教師の援助を受けて左から右へ手を動かしたりして書くことができる。	・始点（上）終点（下）まで３回以上自分で書いたり、教師の援助を受けて左から右に書いたりすることができたか。

（2）展開

時間	学習活動	指導上の留意点及び配慮事項	備考
９：３５	１　始めの挨拶をする。	・生徒がスムーズに挨拶できない場合は、教師が「起立」「気をつけ」「礼」の号令を言いながらその動作を生徒と共に行う。 ・挨拶の後、読み聞かせをするため、教師は生徒の右隣へ移動する。	
９：３７	２　学習内容を知る。	・本時で使う教材を提示しながら、学習の見通しをもたせる。	
９：３９	３　物語の読み聞かせを聞く。 ・出てくる名詞や感嘆詞を覚えたり、言葉の面白さに気付いたりする。 ・教師の質問に手で指して答える。 ・２～３音節の短い単語を言う。 ・「ご先祖様」の６音節の単語を言う。	・物語の雰囲気を感じられるように、沖縄の方言などその特徴のあるせりふについてはそのイントネーションで読む。 ・イメージしやすいように、「サンシン」の場面では、音楽を鳴らす。 ・イメージしやすいように、「お墓参り」の場面では、実際の映像を見せる。 ・復唱させたい単語は、はっきりと読み、復唱を促す。 ・生徒の始めの音節が聞き取れない場合には、教師が再度言い直したり、始めの音節を強調しながら言ったりして、復唱を促す。	・書見台 ・絵本 ・タブレット
９：５７	４　人物カードとひらがなカードで物語の振り返りをする。 ・登場人物の挿絵を覚え、自ら見たり手を出したりする。	・主人公を中心とした、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんのカードを提示し、言葉の学習と共に、命のつながりについて振り返る。	・ボード ・人物カード ・ひらがなカード
１０：０２	５　ペグを用いて上から下、左から右へ手を動かす学習をする。	・「よーいスタート」などの言葉を掛けながら、学習意欲を高める。 ・生徒が操作をしやすいように、青のペグを動かす際には、教師は黒画用紙で赤のペグ部分を隠す。 ・最後までペグを動かすことができた際には、称賛をする。	・ペグ板 ・滑り止めシート ・黒画用紙
１０：１０	６　型抜きボードを使い、上から下、左から右へ手を動かし、指で直線を書く。	・生徒の右手人差し指が入る程度に直線の穴を型抜きしたボードを用いる。教師は始点まで手を伸ばす援助や人差し指を伸ばす援助を行い、直線を書くことを促す。 ・終点までしっかりと書くことができた際には、称賛する。	・型抜きボード ・絵の具（黒） ・画板 ・画用紙（白） ・雑巾 ・新聞紙
１０：１９	７　終わりの挨拶をする。	・挨拶の前に、教師は生徒の前方へ移動する。 ・生徒がスムーズに挨拶できない場合は、教師は「起立」「気をつけ」「礼」の号令を言いながらその動作を生徒と共に行う。	

9　教材一覧

学部、学年	高等部　　１年
内容	聞くこと（受け止め・対応） 話すこと（表現・要求） 読むこと（見ること） 書くこと（操作）
目標とする姿	・「〇〇はどこ？」の質問に指さしなどで答える。（聞くこと） ・教師が読んだ後に続いて、特徴のある言葉を繰り返して言う。（話すこと） ・教師が指さした挿絵を見たり、教師とやりとりしたりしながらページをめくる。（読むこと） ・始点から終点まで自ら縦や横の線を引くことができる。（書く）
扱う教材、教具	『いのちのまつり　ヌチヌグスージ』　作/草場一壽　　サンマーク出版
その特徴	・分かりやすい名詞が多く、文章も短くまとめられているので、聞き取りやすい。登場 人物が限定されており、主人公とオバアの沖縄の方言を交えながらの会話形式で話が展開されているので、面白さを感じながら聞くことができる。父母、祖父母など身近な人物から「ご先祖様」という言葉につながり、命が尊いことを知るストーリーとなっている。 ・挿絵が大きく、はっきりとした色遣いで見やすい。途中６ページ分に大きく開いて見る場面がるので、注目を促しやすく、「〇〇はどこ？」の質問に答えやすくなっている。
扱う教材、教具	「直線や、生徒の名前（漢字）の型を繰り抜いた教材」
その特徴	紙を下に置き、教材を上に重ね、始点から終点までの凹みの中を指やペンを使って書くことができる。本生徒の苗字は縦線と横線のみで成り立っているため、これまでのペグの学習で学んだ動きを生かしながら書くことができる。
授業展開で考えられる行動	スコア１８：「〇〇はどこ？」の質問に手で本の中の挿絵や絵カードを指す。（聞く） スコア１２：教師の言葉をまねして、続けて短い言葉を言う。（話すこと） スコア１２：教師からの働きかけに応じてページをめくる。（読む） スコア　８：形や直線のパターンをなぞる。
授業展開の方法（手だてや教材のアレンジ方法等）	・主人公や父母などは、挿絵のコピーを用いて再度家族構成について振り返る。 ・分かりやすい名詞を繰り返して読み、話すことを促す。 ・沖縄の方言など特徴のある言葉は、なるべく本物に近いイントネーションで読む。 ・そのページの文章の終わりには、強めの語尾で終ったり沈黙を設けたりし、次のページに移ることを分かりやすく伝える。 ・始点にきちんと指を入れられない場合は援助する。また、終点まで指を移動させられたときに褒める。難しい場合には援助したり、「もう１回しよう」などの言葉掛けをしたりし、再度チャレンジさせる。
その他	

＜研究授業④について＞

1　期日　平成２８年１０月２５日（火）　３校時

2　対象　小学部２年　男子２名　女子２名

3　単元名　「国語科：絵本をたのしもう」「算数科：比べてみよう」
　題材名　「がたん ごとん がたん ごとん」（福音書店）（作／安永水丸）

4　本単元で指導する教科の内容と観点

教 科	観 点	
	学習指導要領の各教科の内容	学習到達度チェックリストの各教科の内容
国語	①「聞く・話す」1 段階 (1) 教師の話を聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。	①「受け止め、対応」「表現、要求」「見ること」
算数	②「数量の基礎」1 段階 (1) 具体物があることがわかり、見分けたり、分類したりする。	②「外界の知覚認知」「量と測定」「図形」

5　個々の年間目標及び手だて

児童生徒名	目 標	手だて
A 聞く:8 話す:12 読む:12 量と測定:8 図形:8	① ・教師の言葉かけに応じて、物を渡すことができる。(聞く) ・登場する物に対して声を出したり、指さしたり、欲しい物を身振りで伝えたりすることができる。(話す) ・教師が指さす絵やペープサート、具体物を最後まで見たり、目で追ったりすることができる。(読む) ② ・教師が提示する2つの物から好きな物を選ぶことができる。(量と測定) ・容器に物を続けて入れることができる。(図形)	① ・手渡したり入れたりできるようにするために、手を伸ばして物を取った後、教師が近づき箱を近くに提示する。 ・繰り返しの場面で、身振りや発声が見られたらすぐに言葉や拍手で称賛して応じることで教師に伝わったことを理解させる。 ・登場する物を隠して期待感を持たせたり、出入りする所を指さして注目させたりする。 ② ・2つのカードや物を本人の手が届かない場所に提示し、よく見比べてから手に取り、教師の手に渡すようにさせる。 ・トレイの中に物を置き、言葉かけに応じて手元に視線を向けてから入れるようにさせる。全部入れたときは称賛し、達成感を味わわせる。

B 聞く:12 話す:12 読む:12 量と測定:12 図形:18	① ・教師の言葉かけに注意を向け、応じることができる。(聞く) ・教師の視線や指さしを追って最後まで集中して見たり聞いたりすることができる。(読む) ・教師の言葉を聞いて模倣したり、物の名称の一部を話したりすることができる。(話す) ② ・教師が提示する2つの物を見比べて、同じ形の物に分けることができる。(量と測定) ・大きさの違いを意識しながらはめ板の型にはめることができる。(図形)	① ・汽車の2つの車両に異なる絵をそれぞれ貼り、具体物や模型、カードなどを対応して入れさせる。 ・注意がそれたときは、見やすい位置に本や物を提示して注意を促す。 ・動物の鳴き声や擬声語などを強調して聞かせ、自由に模倣させるようにする。絵やペープサートを指して「何ですか」と質問し、名称を答えさせる。 ② ・2種類の写真カードと具体物や模型と対応させたり、2種類の写真カードを分類させたりする。 ・はめ板を提示する時は、「大きい○」「小さい○」と伝え大小を意識させる。
C 聞く:8 話す:6 読む:6 量と測定:8 図形:8	① ・絵やペープサート、人形を見て物を追うことができる。(読む) ・教師の言葉かけに発声や身振りで応じることができる。(聞く・話す) ② ・2つの物から好きな物を選ぶことができる。(量と測定) ・話の中の言葉の一部を教師と一緒にVOCAを押して表すことができる。(図形)	① ・見やすい位置に配慮して中央に座らせる。姿勢や頭部が安定するように座位保持椅子の角度やヘッドレストの位置などに配慮する。 ・繰り返しの場面では、予測して期待する表情や発声が出るように、教師は、間を取りながら話すようにする。 ② ・カードや絵本を提示して「これ好きですか」と尋ね、好きな物にうなずいたり、発声で表現させたりする ・読み聞かせの活動の中で「のせてください」の言葉を前腕を支える援助でVOCAを押して表すことができるようにさせる。
D 聞く:2 話す:2 読む:1 外界の知覚認知:2	① ・教師の言葉や効果音を聴いたり、具体物や実物に触れたり、明暗を感じたりして、目の動きや手、口元の動きで気持ちを表すことができる。(聞く・話す・見る) ・バルーンでの揺れ遊びの中で、もう1回したいことを体の動きで伝えることができる。(話す) ②・教師の声、音、揺れ、振動、明暗に気づき、目を動かして注意を向けたり、頭部を動かしたり、体に力を入れたりすることができる。(外界の知覚認知)	①② ・言葉の抑揚に強調をつけながら語りかける。 ・本児の側にいる教師が、ストーリーに合わせていろいろな音や具体物などを提示し、より直接的にじっくり働きかける。目の動きや表情などに変化が見られたら、言語化して返す。 ・登場する動物の鳴き声を左右の方向から聴かせて観察する。 ・バルーンに教師が抱いて揺れ、動きを止めて本児からの表出を待つ。頭部の動きや体に力を入れる動きが見られたら言語化し、再び揺れることを繰り返す。

6　単元の目標

○スコア A(2)

【国語】

・教師の言葉や効果音を聴いたり、具体物や実物に触れたり、明暗を感じたりして、目の動きや手、口元の動きで気持ちを表すことができる。

・バルーンでの揺れ遊びの中で、もう1回したいことを体の動きで伝えることができる。

【算数】

・教師の声、音、揺れ、振動、明暗に気づき、目を動かして注意を向けたり、頭部を動かしたり、体に力を入れたりすることができる。

○スコア B(6～12)

【国語】

・教師が提示する絵やペープサートを注目して見たり、教師の言葉に応じて身体を動かしたりすることができる。

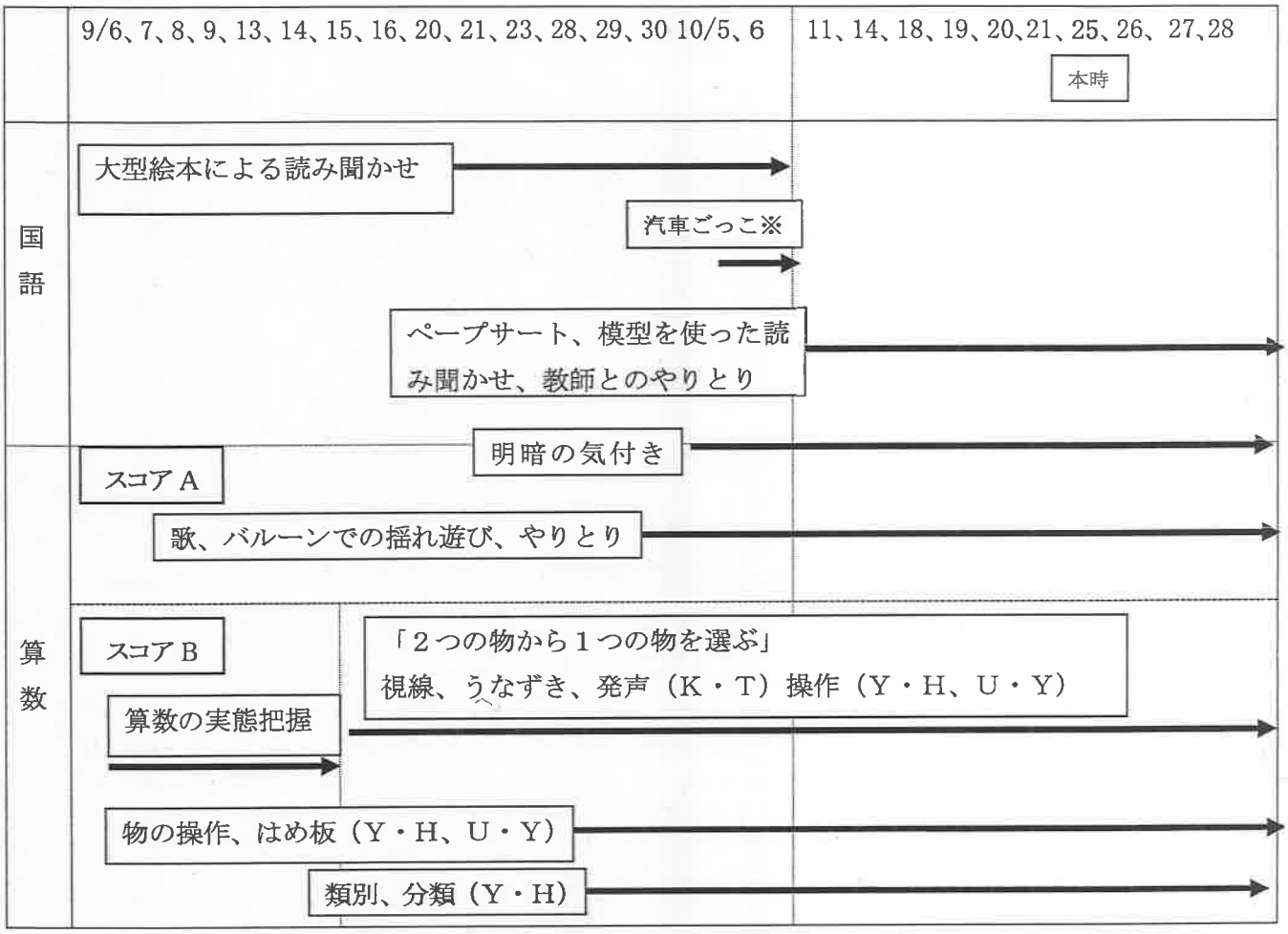
・教師の言葉に応じたり模倣したりして、言葉や声を出すことができる。

【算数】

・教師の提示する2つの物から、言葉や指さしに応じて1つの物を選ぶことができる。

・型や容器に物を入れることができる。

7　単元の指導計画（全１３時間）



8　本時の指導

(1)本時の目標

スコアA(スコア2)

【国語】・教師の言葉や笛の音、動物の鳴き声を聴いたり、果物の香りを感じたり、果物やぬいぐるみを触ったり、明暗を感じたりして、目の動きや手、口元の動きで気持ちを表すことができる。

・バルーンでの揺れ遊びのやりとりで、もっとしたいという要求を体の動きで伝えることができる。

【算数】・教師の声、音、揺れ、振動、明暗に気づき、目を動かして注意を向けたり、頭部を動かしたり、体に力を入れたりすることができる。

スコアB(スコア6～12)

【国語】・教師が提示する絵やペープサートに注目して目で追ったり、教師の言葉に応じて物を入れたりすることができる。

・教師の言葉かけに応じて、「スタート」「のせて」を言葉や声、VOCAで表したり、擬声語や鳴き声などを模倣したり、物の名称の一部を話したりすることができる。

【算数】・教師が提示する2つの物を言葉や指さしに応じて見比べて選び、教師に渡したり、視線やうなずきで応えたりすることができる。

・教師の言葉かけに応じて、手元を見たり見比べたりして型や容器に物を入れることができる。

（2）個人の実態と目標及び評価

	目標	評価
A	① ・提示された物を教師の言葉かけに応じて渡すことができる。 ・教師の言葉や指さした絵に注意を向けて、最後まで見たり聞いたりすることができる。 ・教師の言葉かけに応じて声を出したり、身振りで表したりできる。 ② ・2つのカードや物を見比べて、選び教師に渡すことができる。 ・手元を見て容器の穴に物を6個以上入れることができる。	① ・教師の指示に応じて物を取り、言葉や指差しの指示に応じて、渡したり箱（車両）に入れたりすることができたか。 ・ドアの中から登場する物やペープサートに期待して最後まで見たり聞いたりできたか。 ・教師の言葉かけの後に「スタート」のような言葉を言ったり、食事や終わりの場面で身振りで表したりすることができたか。 ② ・提示された2つのカードに視線を向け、2つを見比べてから1つを選び、教師の手に渡すことができたか。 ・自らトレイの上の球やストローを取り、容器の穴や手元を見て6個以上継続して入れることができたか。
B	① ・教師の言葉を聞いたり、指さしに応じたりして物を箱（車両）に入れることができる。 ・教師の言葉や指さした物に注意を向けて、集中して最後まで見聞きできる。 ・教師の言葉を模倣したり、「これは何」に応じて物の名称の一部や擬声語を言ったりすることができる。 ② ・2枚のカードを見比べて対応した物を分けて置くことができる。 ・大きさの違いを意識しながら〇の図形のはめ板ができる。	① ・教師の言葉や指さしを見たり聞いたりして 2 つの箱のうち指示された箱（車両）に物を入れることができたか。 ・最後まで注意を向けて見たり聞いたりできたか。 ・「りんご」「バナナ」「ニャオン」「チュウー」「コップ」「ゴー」などの名称の一部や擬声語を、教師の言葉を模倣したり、自分から言ったりすることができたか。 ② ・提示された 2 枚のカードから、手に持っている物やカードと同じ絵のカードを選び合わせることができたか。 ・「大きい」「小さい」という言葉を聞きながら、型を見たり動かしたりして大きさが異なるはめ板が、一人でできたか。

C	① ・教師が提示する絵やペープサートに視線を向け追視することができる。 ・読み聞かせの活動の中で、教師と一緒に「のせてください」の言葉をVOCA のスイッチを押して表現することができる。 ② ・絵カードや絵本を提示して「これは好きですか」と聞くと、うなずきや発声などで応えることができる。	① ・教師が提示する絵やペープサートに視線を向けたり、追視したりすることができたか。 ・読み聞かせの活動の中で、教師と一緒に「のせてください」の言葉を VOCA のスイッチを押して応えることができたか。 ② ・絵カードや絵本を提示して「これは好きですか」と聞くと、視線を向けたり、追視したりして、頭を下げてうなずいたり、「ハイ」と声を出したりして応えることができたか。
D	① ・教師の言葉や笛の音、動物の鳴き声を聴いたり、果物の香りを感じたり、果物やぬいぐるみを触ったり、明暗を感じたりして、目の動きを変えたり、手や口元を動かしたりすることができる。 ・バルーンでの揺れ遊びのやりとりで、体に力を入れて気持ちを表すことができる。 ② ・教師の声、音、揺れ、振動、明暗に気づき、目を動かして注意を向けたり、頭部を動かしたり、体に力を入れたりすることができる。	① ・教師の言葉や笛の音、動物の鳴き声、果物の香り、果物やぬいぐるみの感触に気づき、目を左右に動かしたり、口をもぐもぐと動かしたり、手を動かしたりしたか。 ・バルーンの動きが止まったときに、頭や体を反らせてもう1回したいことを伝えることができたか。 ② ・教師の声、音、揺れ、振動、明暗に気づき、目を左右に動かして注意を向けたり、頭部を左右に動かしたり、両手両足に力を入れたりすることができたか。

（3）展開【省略】

（4）場の設定【省略】

9　教材一覧

（1）国語　スコアＡ【実態：１以下～１】

学部、学年	小学部　　２年
内容	＜学習指導要領の内容＞「聞く・話す」１段階 （１）　教師の話を聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。 （２）　教師の話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。 ＜学習到達度チェックリストの観点＞「受け止め・対応」「表現・要求」
目標とする姿	・特定の音に気づいて目の動きや表情を変えることができる。【スコア２：外界の探索と注意の焦点化】 ・教師の語りかけの中で、声の抑揚や擬態語、擬声語、効果音に気づき、目の動きや表情を変えることができる。【スコア１：外界の刺激や活動への遭遇】 ・明るさの変化や光の存在に気づく。【スコア２：外界の探索と注意の焦点化】
扱う教材、教具	・「がたん　ごとん　がたん　ごとん」（福音館書店）（作／安西水丸） ・「がたん　ごとん　がたん　ごとん」を基にした汽車の模型、ペープサート、物の具体物、ぬいぐるみ、楽器（効果音）
その特徴	・原作は、「がたん　ごとん」と汽車が進み、子どもたちにとって身近な物が順番に登場して乗り込んでいくというシンプルなストーリーで分かりやすい。 ・「がたん　ごとん」「のせてくださーい」と繰り返し出てくるフレーズがあり、言葉や音に興味をもたせやすい。 ・登場人物にりんごやバナナなどが出てくるため、嗅覚や触覚に働きかけ、物への気づきを促すことができる。 ・汽車がトンネルに入るという設定をして、部屋を暗くしたり明るくしたりして明暗への気づきを促し、見え方に配慮した展開を仕組むことができる。
授業展開で考えられる行動	・教師の声の抑揚や擬態語、擬声語、効果音に気づき、目の動きや表情を変える。【スコア２：外界の刺激や活動への遭遇】 ・いろいろな音を、左右それぞれから聞かせると、音のする方向にわずかに目や顔を動かす。【スコア２：外界の探索と注意の焦点化、自発運動】 ・教師の援助を受けて、具体物の感触を感じる。※【スコア２：自発運動】 ・明るさの変化に気づく。※【スコア２：外界の探索と注意の焦点化】
授業展開の方法（手だてや教材のアレンジ方法等）	・児童３名に対して一斉に読み聞かせを行うが、本児は見え方に課題があるため、本児の側にいる教師が、ストーリーに合わせて具体物や効果音を提示し、より直接的にじっくり働きかける。また効果音を用いるときは、音源の方向を変えて、音のする方向に目や顔を動かすのを促し、「聞こえたね」と話しかけをする。 ・トンネルに入る設定で暗室にし、明るさの変化に気づくようにする。
その他	

※算数科の内容も含めて記述した。

（2）国語　スコアＢ【実態：スコア４～１２】

学部、学年	小学部　　２年
内容	＜学習指導要領の内容＞「聞く・話す」１段階 （３）　教師の話を聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。 （４）　教師の話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。 ＜学習到達度チェックリストの観点＞「受け止め・対応」「表現・要求」
目標とする姿	◎学習の繰り返しで次に行う内容が分かり、表情や発声で期待することができる。【スコア６：やりとりの予測、パターン化】 ▲教師の指示を聞いて、具体物を箱に入れたり教師に渡したりできる。【スコア８：言葉への応答】【スコア１２：言語指示への応答】 ■絵本やペープサート、教師が指差した汽車の模型を注目して見たり、目で追ったりすることができる。【スコア８：物を介したやりとりの芽生え】【スコア１２：相互的なやりとりの拡大】 ○教師の言葉を聞いて単語の一部を模倣することができる。「がたん　ごとん」「ぽっぽー」「りんご」「コップ」など【スコア１２：言語指示への応答、発語】
扱う教材、教具	・「がたん　ごとん　がたん　ごとん」（福音館書店）（作／安西水丸） ・「がたん　ごとん　がたん　ごとん」を基にした汽車の模型、ペープサート、物の具体物、ぬいぐるみ、楽器（効果音）
その特徴	・原作は、「がたん　ごとん」と汽車が進み、子どもたちにとって身近な物が順番に登場し、乗り込んでいくというシンプルなストーリーで分かりやすい。 ・「がたん　ごとん」「のせてくださーい」繰り返し出てくる言葉があるため、見通しを持たせやすく、期待感をもって学習に取り組ませることができる。 ・最後に食事をする場面があり、対象児の興味を引くことができるとともに、ストーリーの終わりを見通すことができる。
授業展開で考えられる行動	・ストーリーの面白さ、汽車の模型やペープサートの動き、効果音に関心をもち、教師の読み聞かせの方に注意を向けて聞く。【スコア８：言葉への応答】 ▲汽車の動きを追視する。教師の指示を聞いて具体物を渡す。【スコア８：言葉への応答、物を介したやりとりの芽生え】 ◎■学習を繰り返す中で、次の場面で登場する物を期待し、笑顔を見せたり、模型に手を伸ばしたりする。【スコア６：やりとりの予測】【スコア８：物を介したやりとりの芽生え】【スコア１２：相互的なやりとりの拡大】 ○「がたん　ごとん」「のせてくださーい」「ぽっぽー」「しゅっぱーつ」などの繰り返し出てくる言葉を模倣しようとする。教師が「これは何」という質問に物の名称の一部を話す。【スコア１２：言語指示への応答、発語】

授業展開の方法 （手だてや教材のアレンジ方法等）	・原作ならではのストーリーや仕掛けの面白さを感じるため、原作の絵本を拡大した大型絵本を用いて読み聞かせを行う。その後、模型やペープサートを用いてストーリーの理解と興味の持続につなげる。また乗り物の楽しさや汽車のイメージを持たせるため、汽車の模型を見せたり汽車ごっこを設定する。 ・教師の読み聞かせに注意を向けられるように、繰り返し「がたんごとん」「ぽっぽー」などの擬声語を取り入れる。 ・発声を促すため、児童が「しゅっぱつ」と発声した後に場面が変わるようにしたり、物を提示するときに間を置くようにする。 ・大型絵本においては、登場する物を毎回隠し、期待感をもたせてより注目を促す。また、ペープサートを用いた場合も、ドア付きの駅舎から登場するように設定し、同様に期待感をもたせて注目を促す。 ・色のはっきりしたペープサートを用いて、注意を向けられるようにする。
その他 （他に適した教材等があれば記載する）	

自立活動を主とした教育課程　【国語科】

小学部

学年（週時数）＼月（週数）		4（3）	5（3）	6（4）	7（2）	9（4）	10（4）	11（4）	12（3）	1（3）	2（3）	3（2）	年間総時数
小学部	1年（1）	【絵本をたのしもう①】（12）				【絵本をたのしもう②】（15）				【絵本をたのしもう③】（8）			35
		◎聞く・話す・読む ・「いいおへんじできるかな」 【せんひきあそび】 ◎書く		◎聞く・話す・読む ・「くっついた」		◎聞く・話す・読む ・「おおきなかぶ」（共）		◎聞く・話す・読む ・「だるまさんが」		◎聞く・話す・読む ・「さわってあそぼうふわふわあひる」（教）※1			
	2年（1.5）	【絵本をたのしもう①】（18）				【絵本をたのしもう②】（22．5）				【絵本をたのしもう③】（12）			52.5
		◎聞く・話す・読む ・「がたんごとんがたんごとん」 【せんひきあそび】 ◎書く		◎聞く・話す・読む ・「おべんとうなあに」（教）		◎聞く・話す・読む ・「おむすびころりん」（共） ・「おおきなかぶ」※2		◎聞く・話す・読む ・「どうぞのいす」		◎聞く・話す・読む ・「しろくまちゃんのホットケーキ」			
	3年（1.5）	【お話を楽しもう①】（18）				【お話を楽しもう②】（22．5）				【お話を楽しもう③】（12）			52.5
		◎聞く・話す・読む ・「おべんとうバス」 【書いてみよう】 ◎書く		◎聞く・話す・読む ・「ぞうくんのさんぽ」（教）		◎聞く・話す・読む ・「りんごがドスーン」		◎聞く・話す・読む ・「だんまりこうろぎ」（共）		◎聞く・話す・読む ・「みんなみんなみーつけた」			
	4年（2）	【お話を楽しもう①】（24）				【お話を楽しもう②】（30）				【お話を楽しもう③】（16）			70
		◎聞く・話す・読む ・「おおきなかぶ」教※ ・「ぽんちんぱん」 【書いてみよう】 ◎書く		◎聞く・話す・読む ・「ももたろう」		◎聞く・話す・読む ・「はらぺこあおむし」		◎聞く・話す・読む ・「くまさんくまさん なにみてるの」		◎聞く・話す・読む ・「スイミー」（共）			
	5年（2）	【絵本を聞いて感じたことを表現しよう①】（24）				【絵本を聞いて感じたことを表現しよう②】（30）				【絵本を聞いて感じたことを表現しよう③】（16）			70
		◎聞く・話す・読む ・「ぐりとぐら」 【書いてみよう】 ◎書く		◎聞く・話す・読む ・「おむすびころりん」（教） ・「はなさかじいさん」		◎聞く・話す・読む ・「森のお店やさん」（共）		◎聞く・話す・読む ・「さるかに合戦」		◎聞く・話す・読む ・「てぶくろ」			
	6年（2）	【絵本を聞いて感じたことを表現しよう①①】（24）				【絵本を聞いて感じたことを表現しよう②】（30）				【絵本を聞いて感じたことを表現しよう③】（16）			70
		◎聞く・話す・読む ・「なにをたべてきたの？」（教） 【書いてみよう】 ◎書く		◎聞く・話す・読む ・「じゅげむ」		◎聞く・話す・読む ・「３びきのやぎのがらがらどん」		◎聞く・話す・読む ・「ひつじぱん」		◎聞く・話す・読む ・「かさこじぞう」（共）			

補足資料　6

自立活動を主とした教育課程　【国語科】

中学部　　高等部

学年（週時数）	月（週数）	4（3）	5（3）	6（4）	7（2）	9（4）	10（4）	11（4）	12（3）	1（3）	2（3）	3（2）	年間総時数
中学部	1年（2）	【絵本を聞いて感じたことを伝えよう①】(24) ◎聞く・話す・読む ○友達・仲間 「ブレーメンの音楽隊」(教)		◎聞く・話す・読む ○戦争・平和 「ちぃちゃんのかげおくり」(共) 「くすのき」		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう②】(30) ◎聞く・話す・読む ○狂言・落語 「かきやまぶし」		◎聞く・話す・読む ○人権、いのち 「ごんぎつね」(共)		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう③】(16) ◎聞く・話す・読む ○簡単な劇をしよう 「にじいろのさかな」			70
		【書いてみよう】 ◎書く →											
	2年（2）	【絵本を聞いて感じたことを伝えよう①】(24) ◎聞く・話す・読む ○友達・仲間 「そらいろのたね」(教)		◎聞く・話す・読む ○戦争・平和 「一つの花」(共) 「ひろしまのピカ」		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう②】(30) ◎聞く・話す・読む ○狂言・落語 「まんじゅうこわい」		◎聞く・話す・読む ○人権、いのち 「いのちの木」		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう③】(16) ◎聞く・話す・読む ○簡単な劇をしよう 「泣いた赤おに」			70
		【書いてみよう】 ◎書く →											
	3年（2）	【絵本を聞いて感じたことを伝えよう①】(24) ◎聞く・話す・読む ○友達・仲間 「ゆらゆらばしの上で」 「たいせつなこと」(教)		◎聞く・話す・読む ○戦争・平和 「せかいいちうつくしいぼくのむら」(共) 「へいわってすてきだね」		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう②】(30) ◎聞く・話す・読む ○狂言・落語 「ごくらくらくご」 「のはらうた」		◎聞く・話す・読む ○人権、いのち 「あやちゃんが生まれた日」		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう③】(16) ◎聞く・話す・読む ○簡単な劇をしよう 「百万回生きたねこ」			70
		【書いてみよう】 ◎書く →											

高等部	1年（2）	【絵本を聞いて感じたことを伝えよう①】(24) ◎聞く・話す・読む ○友達・仲間 ・「ともだちおまじない」		◎聞く・話す・読む ○戦争・平和 ・「海をわたった折り鶴」		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう②】(30) ◎聞く・話す・読む ○思いやり ・「よだかの星」(共)		◎聞く・話す・読む ○いのち ・「いのちのまつり ヌチヌグスージ」		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう③】(16) ◎聞く・話す・読む ○詩 ・「詩の絵本」(教)			70
		【書いてみよう】　◎書く　・「素敵な漢字」(教)											
	2年（2）	【絵本を聞いて感じたことを伝えよう①】(24) ◎聞く・話す・読む ○友達・仲間 ・「あいつもともだち」		◎聞く・話す・読む ○戦争・平和 ・「ヒロシマのうた」(共)		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう②】(30) ◎聞く・話す・読む ○思いやり ・「竜のはなし」		◎聞く・話す・読む ○いのち ・「いのちのおはなし」		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう③】(16) ◎聞く・話す・読む ○詩 ・「しゃべる詩あそぶ詩きこえる詩」(教)			70
		【書いてみよう】　◎書く											
	3年（2）	【絵本を聞いて感じたことを伝えよう①】(24) ◎聞く・話す・読む ○友達・仲間 ・「ありがとうともだち」		◎聞く・話す・読む ○戦争・平和 ・「すみれ島」		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう②】(30) ◎聞く・話す・読む ○思いやり ・「ことりをすきになった山」		◎聞く・話す・読む ○いのち ・「葉っぱのフレディ～いのちの旅～」(共)		【絵本を聞いて感じたことを伝えよう③】(16) ◎聞く・話す・読む ○詩 ・「かへろが鳴くからかぁへろ」			70
		【書いてみよう】　◎書く											

おわりに

平成２８年度の教育課程に位置付けた算数（数学）の授業を継続的に参観する中で、児童生徒が対象物を注視、追視したり、対象物に手を出したり、複数の対象物を見比べたりする様子を多く目にするようになってきました。また、国語の授業では児童生徒への本の読み聞かせの際に、多くの児童生徒が本や読み聞かせをしている教師に注意を向けたり注目したりしている様子が日常的に見られるようになり、さらに、本に集中している時間が長くなってきていることを実感することができました。２学期の成績表の国語の成績の欄には、「聞く」ことについて「教師の語りにじっと聞き入ったり、抑揚に合わせて身体を揺らして楽しんだりするようになった。」「話す」ことについては、「物語の展開に合わせて『出発』と言うことができた。」「書く」ことについては、「教師と一緒にペンで書いている手元をよく見るようになった。」「３分程度ペンを握り続けることができるようになった。」などの記述を目にすることができました。また。算数（数学）の成績の欄には、「２つの選択肢の中から視線で興味がある方を見分けることができるようになった。」「５種類の型はめができるようになった。」「型をはめて『かちっ』と音がしたら教師と視線を合わせて、自ら拍手をするようになった。」などが書かれていました。

これらの児童生徒の変容の姿に接した教師の校内研究全体を振り返るアンケートのまとめには、「目標が明確になったことで指導内容を考えやすかった。」「時間割に国語や算数（数学）の時間を帯で設定したことで、児童生徒の変容が分かりやすかった。」「今まで自立活動でしていたことが教科別の指導の中で目標を達成することができるものがあることに気付いた。」「国語、算数の実践により、児童がこれまで経験することが少なかった学びや学習の深まりを意識して指導することができた。その中で子ども達の新たな発見や学習の成果を感じることができた。」といった意見が示され、多くの教師が国語や算数（数学）の授業の手応えを感じていることを実感しました。

これらの変容や意識の変革をもたらしたのは、平成２１年度から平成２３年度まで取り組んだ自立活動を主とする教育課程における教科の実践研究を土台とし、平成２６年から３年間継続的、発展的に取り組んできた本研究のたまものであることは言うまでもありません。

本研究の教育課程改善に係る成果物としては、筆頭に挙げられるのが教育課程の年間指導計画です。各学部の授業実践を通して得た知見から教科等部会の中で各部の担当者が、系統性や発展性を意識して題材を配列し組織することができました。また、実践検証により現時点で最も効果的だと考えられる国語・算数（数学）の時間割への位置づけを明確にすることができました。さらに、副産物として自立活動の時間における指導の再編をして、自立活動についても教育課程改善につなげることができました。このことも本校にとって大変意義のある成果物になったと思います。授業づくりに関する成果物としては、一定の発達段階の児童生徒に対する教材の選択や指導上参考となる留意点を示した「教材一覧表」を編集することができました。今後は職員の入れ替わりがあってもこの研究の成果が持続するよう、この取組を本校の文化として継承していかねばならないと強く思います。そのような意味からも、初任者や転任者などにとってもこれらの成果物が授業づくりの強い味方となることを期待しています。

本研究を振り返り、改めてこれまでのプロセスにおける様々な機会に実際に行動に移すことで見えてくる世界があることを実感することができたと思います。そして、「継続は力なり」ということを強く胸に刻む研究だったと思います。

本報告書を御一読いただいた皆様には、この研究を更に進化させていくために忌憚のない御意見や御感想をいただければ幸いに存じます。

最後に、本研究に多大な御尽力をいただいた福岡教育大学准教授の一木　薫先生と福岡大学教授徳永豊先生をはじめ、多くの皆様の御指導、御助言に深く感謝申し上げます。

平成２９年３月　　教頭　松田　竜司

研究同人

【学校長】堀之内　穂瑞美　　【教頭】松田　竜司

＜小学部＞

中溝　浩二（主事）	松尾　恵子	久松　寿子	宮崎　真一	野田　成実
窄口　ひとみ	山本　美香	立岡　里香	平子　欽也	嶋本　良子
友永　央	大野　ちづ子	伊藤　世佳	吉村　英治	榊原　知恵
島田　千賀子	松本　雄平	大津　智恵	寺田　佳子	古香　祐美
尾坂　まき子	苑田　慶子	永尾　泰子	菅原　仁志	小島　采子
古高　大地	外園　由美子	中山　幸子	野口　絢加	

＜中学部＞

伊東　健史（主事）	中村　敦	片山　進一	山田　豊美香	税所　絵美
馬場　力	山﨑　駿	浦田　恵利	修行　隼平	

＜高等部＞

亀田　雅宏（主事）	村山　多江	相川　久雄	國知出　幸美	荒木　優
井上　博文	澤井　幸八香	竹尾　遥子		

＜訪問教育＞

内海　珠美	大町　美緒	阪上　有貴子	梅野　薫代	貝原　良太

≪共同研究者≫

徳永　豊（福岡大学人文学部　教授）

一木　薫（福岡教育大学特別支援教育講座　准教授）

≪平成２７年度研究同人≫

富永　祐司	金子　尚美	峰平　真理子	伊藤　里沙	内野　実佳
東濱　明子	中原　剛亮	豊里　淳也	池田　明里	

≪平成２６年度研究同人≫

石本　祐子	山口　由美	山口　美代子	船場加寿美	相良　知恵子
肥沼　健一	下田　陽介			